

いのちを支える日立市自殺対策計画
策定のためのアンケート調査報告書

令和6年3月

日 立 市

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の対象者	1
3	調査実施方法及び期間	1
4	アンケート回収結果	1
5	集計について	1

II 調査結果（概要）

1	ポイント	2
2	概要	6

III 調査結果

1	回答者について	12
2	自殺対策の現状等について	30
3	悩みやストレスに関することについて	38
4	自殺に関する意識について	71
5	今後の自殺対策について	87
◇	自由意見	90

I 調査の概要

1 調査の目的

令和2年度を初年度とする「いのちを支える日立市自殺対策計画」が令和6年度に終了することに伴い、市民の皆様の現状や自殺問題に関する意識を把握し、次期計画策定の基礎資料とするとともに、今後の自殺対策の総合的な推進に活用することを目的として、本アンケート調査を実施しました。

2 調査の対象者

市内にお住まいの18歳以上の方、2,000人（無作為抽出）

3 調査実施方法及び期間

- ・調査実施方法：郵送・WEB
- ・調査実施期間：令和6年1月9日（火）～1月31日（水）

4 アンケート回収結果

配布数	回答数 ※括弧内はWEBからの 回答数	回答率 ※括弧内はWEBからの 回答率
2,000件	724件(127件)	36.2%(6.4%)

5 集計について

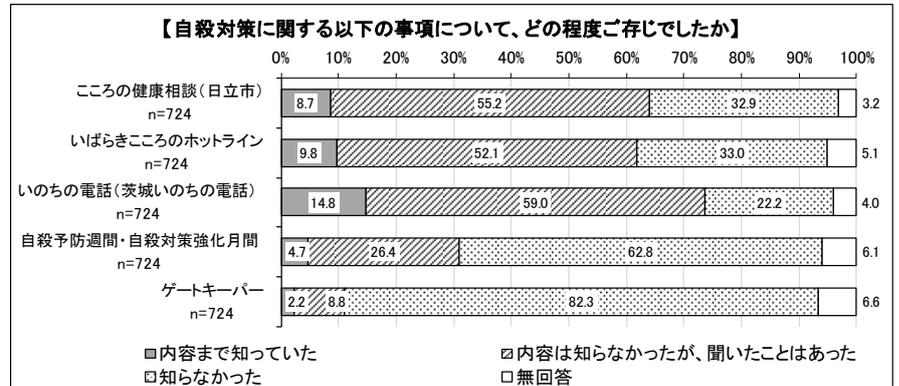
- ・集計結果を百分率（%）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記としています。このため、百分率の合計が100にならない場合があります。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とします。
- ・回答がない場合や、定められた以上の回答があった場合（一つ選択する設問で複数選択など）は「無回答」として集計します。
- ・グラフ等表示に際して、選択肢が多い場合や文言が長い場合は、選択肢の文言を簡略化している場合があります。
- ・属性別クロス集計「年齢別」「職業別」のグラフにおいて、2%以下の数値の表記を省略しています。
- ・設問の回答形式について、単一回答形式を「SA(Single Answer)」、複数回答形式を「MA(Multi Answer)」と省略して表記しています。

Ⅱ 調査結果（概要）

1 ポイント

1 自殺対策の認知度

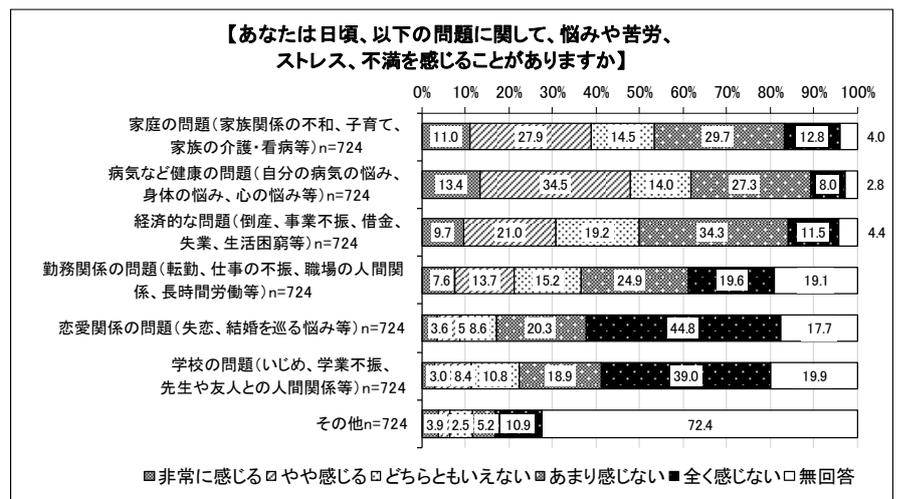
「内容まで知っていた」と「内容は知らなかったが、聞いたことはあった」を合わせた比率が最も高いのは、「いのちの電話」（73.8%）となっています。一方、「知らなかった」は、「ゲートキーパー」（82.3%）や「自殺予防週間・自殺対策強化月間」（62.8%）で特に比率が高くなっています。



2 悩みやストレスについて

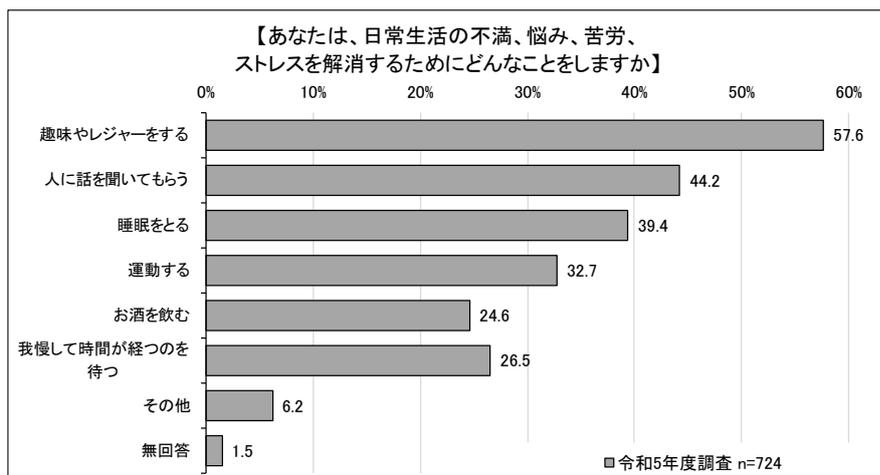
(1) 日頃、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じること

「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率が高いのは、「病気など健康の問題」（47.9%）や「家庭の問題」（38.9%）、「経済的な問題」（30.7%）などとなっています。



(2) 日常生活の不満、悩み、苦勞、ストレスを解消するためにすること

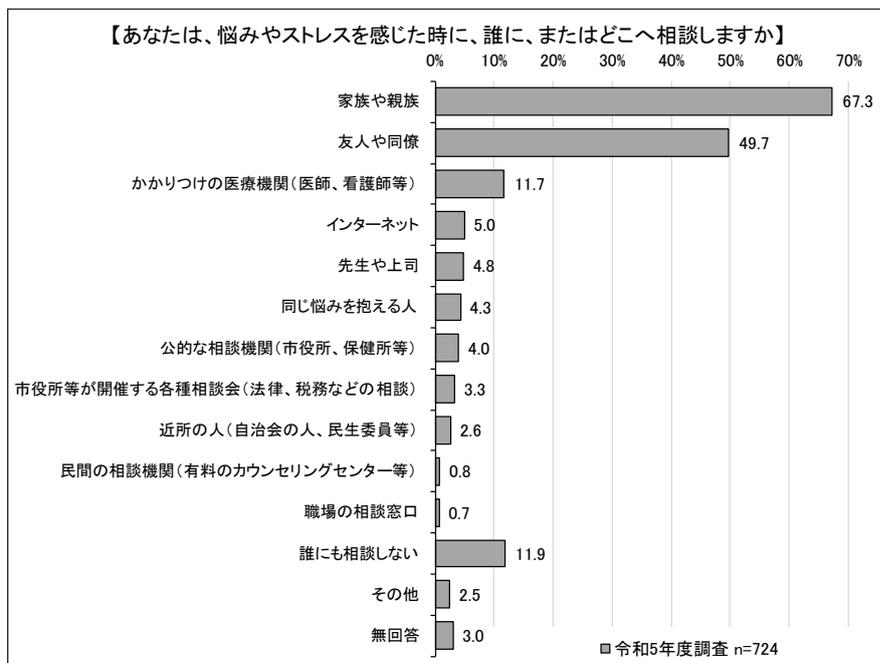
「趣味やレジャーをする」が 57.6%と最も比率が高く、以下、「人に話を聞いてもらう」(44.2%)、「睡眠をとる」(39.4%)、「運動する」(32.7%)と続いています。



(3) 悩みやストレスを感じた時の相談先

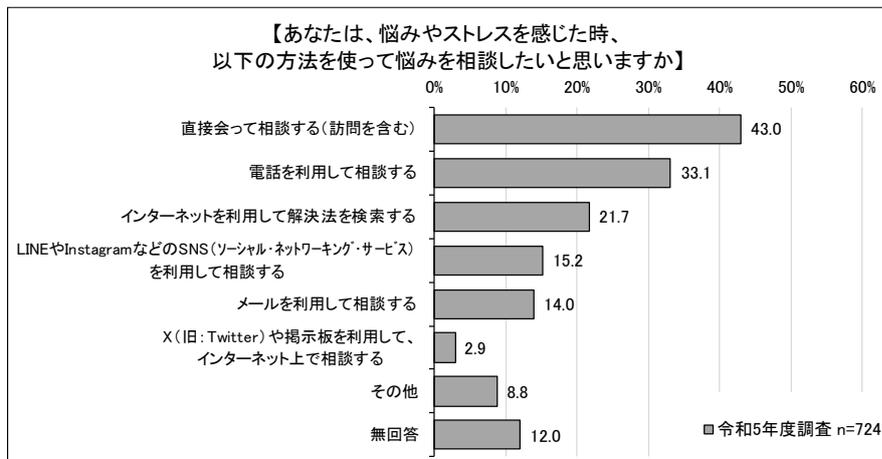
「家族や親族」(67.3%)や「友人や同僚」(49.7%)など身近な人が多く、次いで「誰にも相談しない」が 11.9%となっています。

一方、「職場の相談窓口」(0.7%)や「民間の相談機関(有料のカウンセリングセンター等)」などの面識のない相手に相談するケースは少ない傾向にあります。



(4) 悩みやストレスを感じた時の相談方法

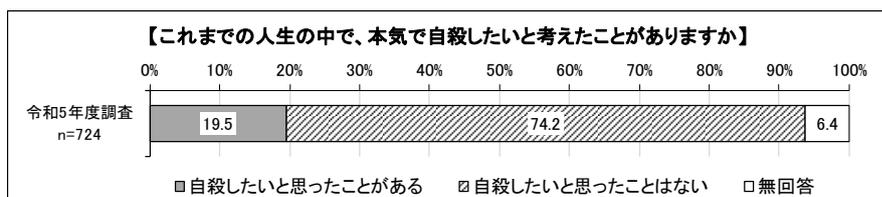
「直接会って相談する（訪問を含む）」が43.0%と最も高く、以下、「電話を利用して相談する」（33.1%）、「インターネットを利用して解決法を検索する」（21.7%）と続いています。



3 自殺に関する意識について

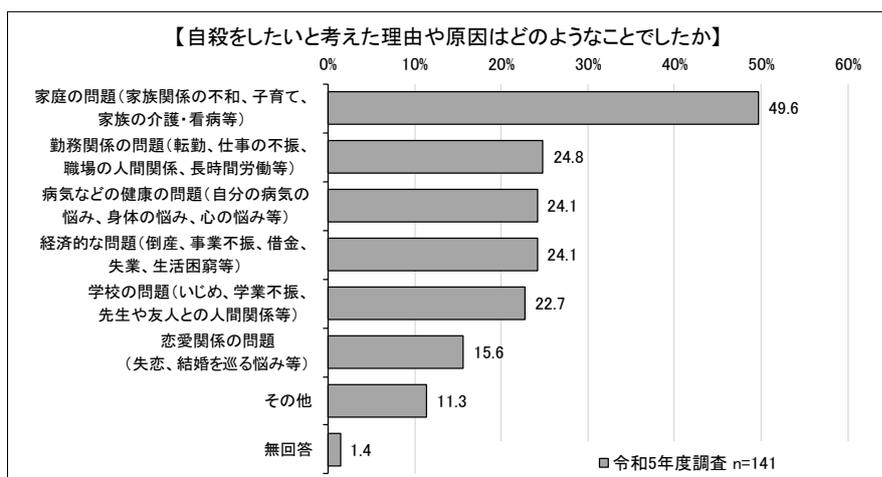
(1) これまでの人生の中で、本気で自殺したいと考えたことがあるか

「自殺したいと思ったことがある」と回答した方は、19.5%となっています。



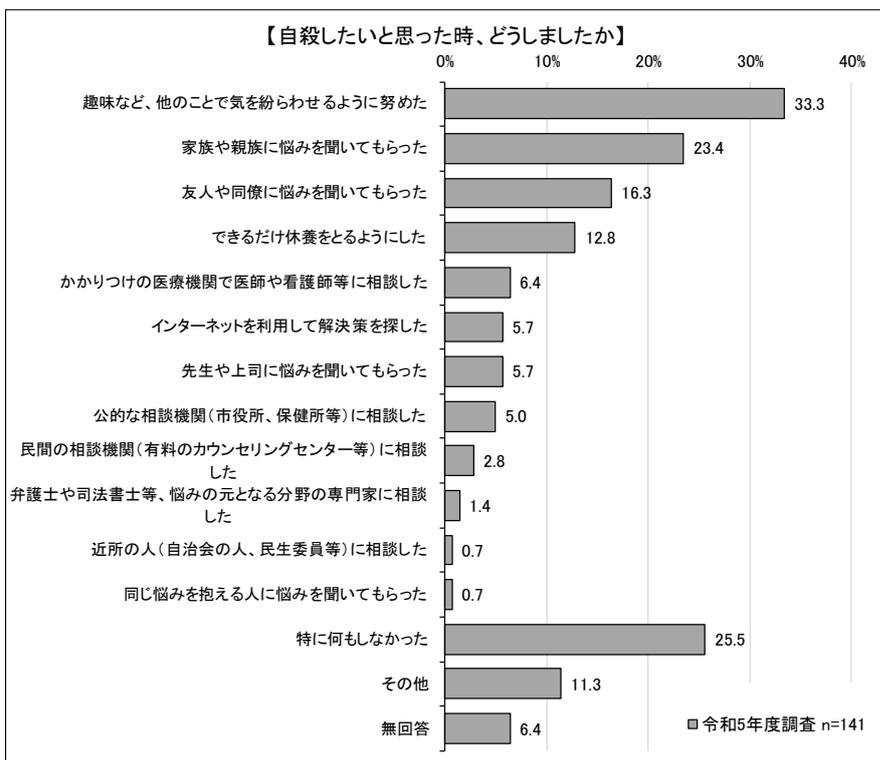
(2) 自殺をしたいと考えた理由や原因

家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）が49.6%で最も高く、以下、「勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」（24.8%）、「病気などの健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」及び「経済的な問題（倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等）」（ともに24.1%）と続いています。



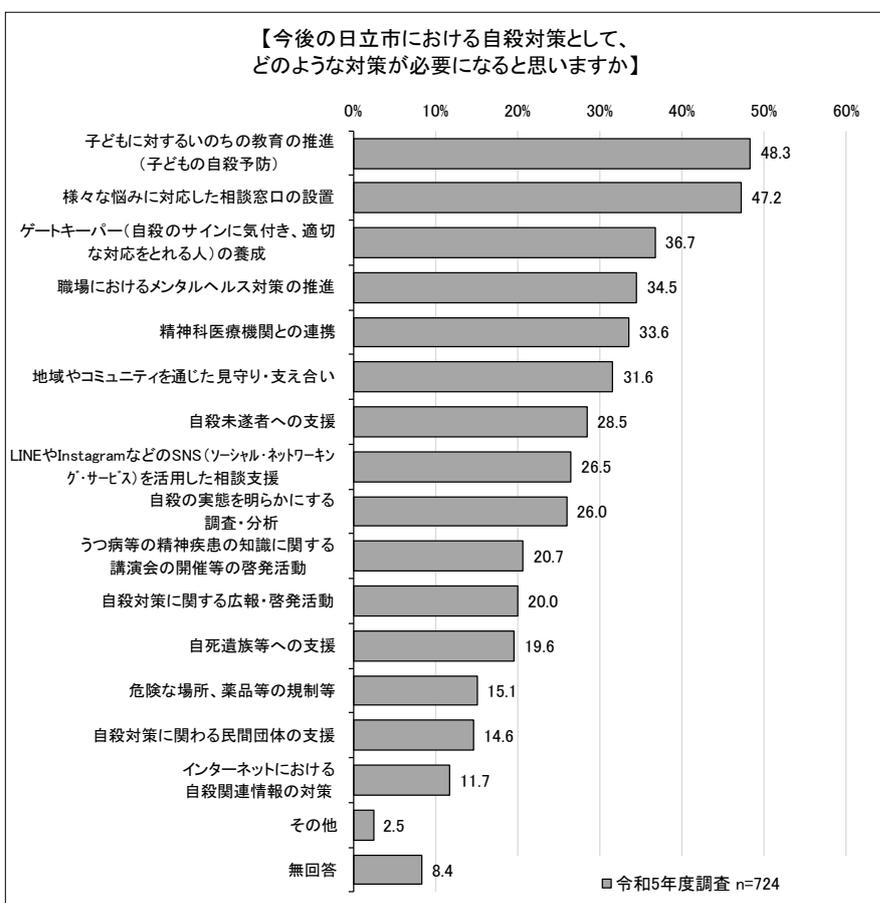
(3) 自殺をしたいと思った時、どうしたか

「趣味などの他のことで気を紛らわせるように努めた」が33.3%で最も高く、以下、「特に何もしなかった」(25.5%)、「家族や親族に悩みを聞いてもらった」(23.4%)、「友人や同僚に悩みを聞いてもらった」(16.3%)、「できるだけ休養をとるようにした」(12.8%)などが上位となっています。



4 今後の日立市における自殺対策として必要だと思うこと

「子どもに対するいのちの教育の推進(子どもの自殺予防)」(48.3%)が最も高く、以下、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(47.2%)、「ゲートキーパー(自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人)の養成」(36.7%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(34.5%)、「精神科医療機関との連携」(33.6%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(31.6%)などが上位となっています。



2 概要

1 回答者について

(1) 回答者について

回答者は「男性」が43.1%、「女性」が55.7%であり、年齢は“60歳代”以上が約半数(54.9%)を占めています。一緒に暮らしている人は「配偶者」(64.6%)や「子」(35.6%)、「親」(13.4%)の比率が高く、一方、「ひとり暮らし」は16.3%となっています。

職業は「役員・管理職以外」(19.5%)や「専業主婦・主夫」(18.6%)、「無職(仕事をしたいと思っていない)」(18.4%)、「パート・アルバイト」(13.0%)が上位となっています。

経済的にみた暮らしの状況については、「非常に良い」と「良い」を合わせた『良い』が55.8%、「非常に悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』が20.3%となっています。

『良い』は、“10歳代”及び“20歳代”、“学生”、“会社・団体などの役員”で他より比率が高く、一方、“40歳代”や、“派遣”、“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”などは他と比較して比率は低くなっています。

現在の幸せの程度については、「非常に幸せ」と「幸せ」を合わせた『幸せ』が73.2%、「非常に不幸せ」と「不幸せ」を合わせた『不幸せ』が5.8%となっています。

『幸せ』の比率が低いのは、“80歳代以上”、“無職(求職中)”、“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”などとなっています。

自分のことを好きだと思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』が67.3%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』が17.3%となっています。

『思う』の比率が低いのは、“40歳代”や“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”などとなっています。

(2) 周囲との関わりについて

町内や地域の人と話をしたり、交流したりする機会については、「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』が54.7%、「ほとんどない」と「あまりない」を合わせた『ない』が43.8%となっています。

『ある』の比率が低いのは、“20歳代”や、“管理職”、“役員・管理職以外”、“学生”などとなっています。

お住まいの地域の人々は、日頃から互いに気遣ったり声を掛け合っていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』が49.7%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』が35.9%となっています。

『思う』の比率が低いのは、“20 歳代”、“30 歳代”、“50 歳代”、“役員・管理職以外”、“無職（求職中）”などとなっています。

学校や職場（もしくは地域）での人間関係については、「非常に満足」と「満足」を合わせた『満足』が 60.0%、「非常に不満」と「不満」を合わせた『不満』が 10.3%となっています。

『満足』の比率が低いのは、“無職（仕事をしたいと思っていない）”、“無職（求職中）”などとなっています。

友人や家族等との関係については、「非常に満足」と「満足」を合わせた『満足』が 80.9%、「非常に不満」と「不満」を合わせた『不満』が 4.9%となっています。

『満足』の比率が低いのは“30 歳代”や“40 歳代”、“無職（求職中）”などとなっています。

2 自殺対策の現状等について

多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていたかについては、「はい」が 51.0%、「いいえ」が 48.2%となっています。「はい」の比率が高いのは、“男性”、“10 歳代”、“自由業”などとなっています。

自殺対策で最も認知度が高いのは“いのちの電話（茨城いのちの電話）”であり、一方、認知度が低い（「知らなかった」の比率が高い）のは、“ゲートキーパー”や“自殺予防週間・自殺対策強化月間”などとなっています。

見たことがある啓発物は、「ポスター・のぼり」（34.1%）や「広報誌」（31.9%）、「パンフレット」（22.9%）が上位であり、一方、「見たことはない」は 25.7%となっています。

上記の啓発物等を見た場所は、「市役所・保健所等の公共施設」（45.6%）や「駅、電車・バス等の公共交通機関」（26.8%）、「交流センター」（20.1%）が上位となっています。

自殺を防止するため、精神疾患や心の健康づくりに関する正しい知識を普及する講演会を開催していることを知っていたかについては、「いいえ」が 87.7%となっています。

自殺対策に関する PR 活動について、「必要」（48.9%）と「どちらかといえば必要」（32.6%）と合わせた『必要』は 81.5%と多数を占めています。

自殺対策は自分自身に関わる問題だと思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』が 38.7%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』42.0%となっています。

3 悩みやストレスに関することについて

(1) 悩みやストレスについて

悩みや苦労、ストレス、不満を感じることもあるかについて、「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率が高いのは、「病気など健康の問題」(47.9%)や「家庭の問題」(38.9%)、「経済的な問題」(30.7%)などとなっています。

- ・家庭の問題：『感じる』は“女性”や、“30歳代”から“60歳代”、“役員・管理職以外”や“無職（仕事をしたいが、現在は求職していない）”で高い比率となっています。
- ・病気などの健康の問題：『感じる』は、“50歳代”以上、“自由業”、“無職（仕事をしたいと思っていない）”、“専業主婦・主夫”などで高い比率となっています。
- ・経済的な問題：『感じる』は、“50歳代”、“派遣”、“無職（求職中）”などで高い比率となっています。

日々の生活の中で「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率が高い項目は、「首筋や肩がこる」(54.7%)や「体がだるく疲れやすい」(42.5%)など身体面が上位となっています。

悩みやストレスを感じた時にどう思うかは、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」が63.7%と最も比率が高く、次いで「我慢して時間が経つのを待つ」が32.5%となっています。「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」は“女性”や“10歳代”で、それぞれ比率が高くなっています。

日常生活の不満、悩み、苦労、ストレスを解消するために行うことは、「趣味やレジャーをする」が57.6%と最も比率が高く、以下、「人に話を聞いてもらう」(44.2%)、「睡眠をとる」(39.4%)、「運動する」(32.7%)と続いています。一方、「我慢して時間が経つのを待つ」は26.5%となっています。

(2) 悩みやストレスの相談について

悩みやストレスの相談先は、「家族や親族」(67.3%)や「友人や同僚」(49.7%)など身近な人の比率が高く、次いで「誰にも相談しない」が11.9%となっています。

悩みの相談方法については、「直接会って相談する（訪問を含む）」(43.0%)や「電話を利用して相談する」(33.1%)、「インターネットを利用して解決法を検索する」(21.7%)などが上位となっています。

「電話を利用して相談する」は“女性”が、「LINEやinstagramなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を利用して相談する」や「X(旧：Twitter)や掲示板を利用してインターネット上で相談する」は“10歳代”や“20歳代”などの若い世代で、それぞれ他より高い比率となっています。

(3) うつ病のサインについて

もし、あなたが家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気付いたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めるかについては、「勧める」が68.8%と多数を占め、「勧めない」は1.8%となっています。

もし、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気付いた時、利用したいと思う相談窓口は、「精神科や心療内科等の専門の医療機関」が50.0%、「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」が32.9%となっています。一方、「何も利用しない」は13.4%となっています。

上記で「何も利用しない」と回答した理由については、「根本的な問題の解決にはならないと思うから」が52.6%で最も高く、「どれを利用したらよいか分からないから」(36.1%)、「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」(24.7%)などが上位となっています。

4 自殺に関する意識について

「自殺」について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』の比率が高いのは、「自殺を考えている人の多くは、精神的に追い詰められ、他の方法を思いつかなくなっている」(75.7%)、「自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う」(73.8%)となっており、一方、「自殺は恥ずかしいことである」(12.7%)や「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」(13.2%)の比率が低くなっています。

これまでの人生の中で、「自殺したいと思ったことがある」と回答した方は19.5%であり、「女性」(21.3%)、「10歳代」(50.0%)や「30歳代」(36.5%)、「無職(求職中)」(41.2%)、「自由業」(35.7%)などが他より比率が高くなっています。

自殺をしたいと考えた理由や原因については、「家庭の問題」(49.6%)が最も高く、以下、「勤務関係の問題」(24.8%)、「病気などの健康の問題」及び「経済的な問題」(ともに24.1%)と続いています。

「家庭の問題」は「女性」や「10歳代」で、「勤務関係の問題」は「男性」や「30歳代」で、「病気などの健康の問題」は「女性」や「10歳代」で、「経済的な問題」は「女性」や「60歳代」で、それぞれ他より比率が高くなっています。

自殺をしたいと思った時どうしたかについては、「趣味など、他のことで気を紛らわせるように努めた」(33.3%)や「家族や親族に悩みを聞いてもらった」(23.4%)、「友人や同僚に悩みを聞いてもらった」(16.3%)などが上位となっており、一方、「特に何もしなかった」は25.5%となっています。

身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時、どのように対応するのが良いと思うかについては、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」(68.0%)は半数を超え、特に高い比率となっています。

あなたの周りで自死（自殺）をした方はいるかについては、「はい」が26.1%となっており、「男性」や“40歳代”、“50歳代”では30%を超える比率となっています。

上記で「はい」と回答した人について、自死（自殺）をした方との関係は、「同居以外の家族・親族」が39.7%で最も高く、以下、「学校・職場関係者」（23.3%）、「友人」（22.8%）、「同居の家族・親族」が9.5%と続いています。

身近な人が自死遺族であると分かった時、どのように対応するのが良いと思うかについては、「相談に乗る」（32.5%）や「特に何もしない」（31.1%）、「専門家の相談を受けるよう勧める」（19.5%）などが上位となっています。

自死遺族の支援については、「無料電話相談」（21.0%）、「学生支援機構・あしなが育英会」（19.5%）や「行政の窓口」（19.3%）などが上位となっています。一方、「いずれも知らない」は38.3%となっています。

5 今後の自殺対策について

今後の日立市における自殺対策として必要と思われる対策は、「子どもに対するいのちの教育の推進（子どもの自殺予防）」（48.3%）や「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」（47.2%）、「ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人）の養成」（36.7%）、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」（34.5%）、「精神科医療機関との連携」（33.6%）などが上位となっています。

日立市が実施するゲートキーパー養成研修に参加したいと思うかについては、「参加したい」は6.4%となっています。

◇自由意見

自殺を防ぐための行政取組については、「行政（アンケート調査、取組み奨励など）」や「相談体制・窓口の充実」、「人同士のつながりの充実」などが上位にあげられています。

◇参考：「令和3年度自殺対策に関する意識調査」との比較（厚生労働省）

厚生労働省が実施した「令和3年度自殺対策に関する意識調査」との関連（類似設問における比較等）を以下に整理します。

【令和3年度自殺対策に関する意識調査】の概要（厚生労働省）

- ・調査対象：全国20歳以上の日本国籍を有する者 4,000人
（層化2段無作為抽出法により抽出）
- ・調査時期：令和3年8月4日～8月26日
- ・調査方法：郵送法（郵送配布、郵送又はオンライン（インターネット）で回収）
- ・回収結果：有効回収数(率) 2,009人（50.2%）
（うち、郵送回収 1,462人、インターネット回収 547人）

多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていたかについては、「はい」の回答は、本市＝51.0%、令和3年度自殺対策に関する意識調査（以下、「国」と表記する。）＝54.3%と、おおむね同様の結果となっており、“自殺”に対する情報・理解は全国と同様の状況にあると判断されます。

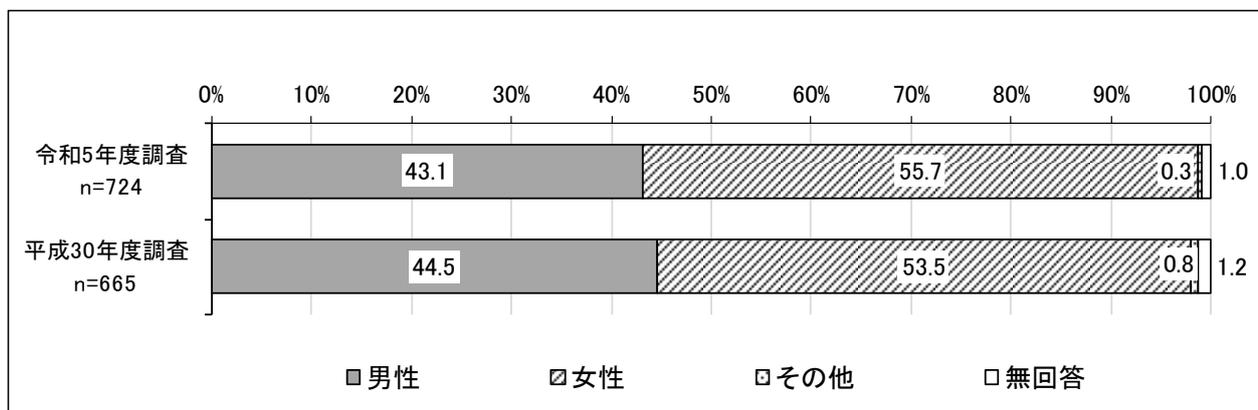
一方、これまでの人生の中で、「自殺したいと思ったことがある」と回答した方は、本市＝19.5%、国＝27.2%、あなたの周りで自死（自殺）をした方はいるかについて「はい」と回答した方は、本市＝26.1%、国＝40.3%と全国の比率が高くなっています。これらのことから“自殺”は、本市以上に全国において、より身近な問題、より深刻な問題となっていると考えられます。

Ⅲ 調査結果

1 回答者について

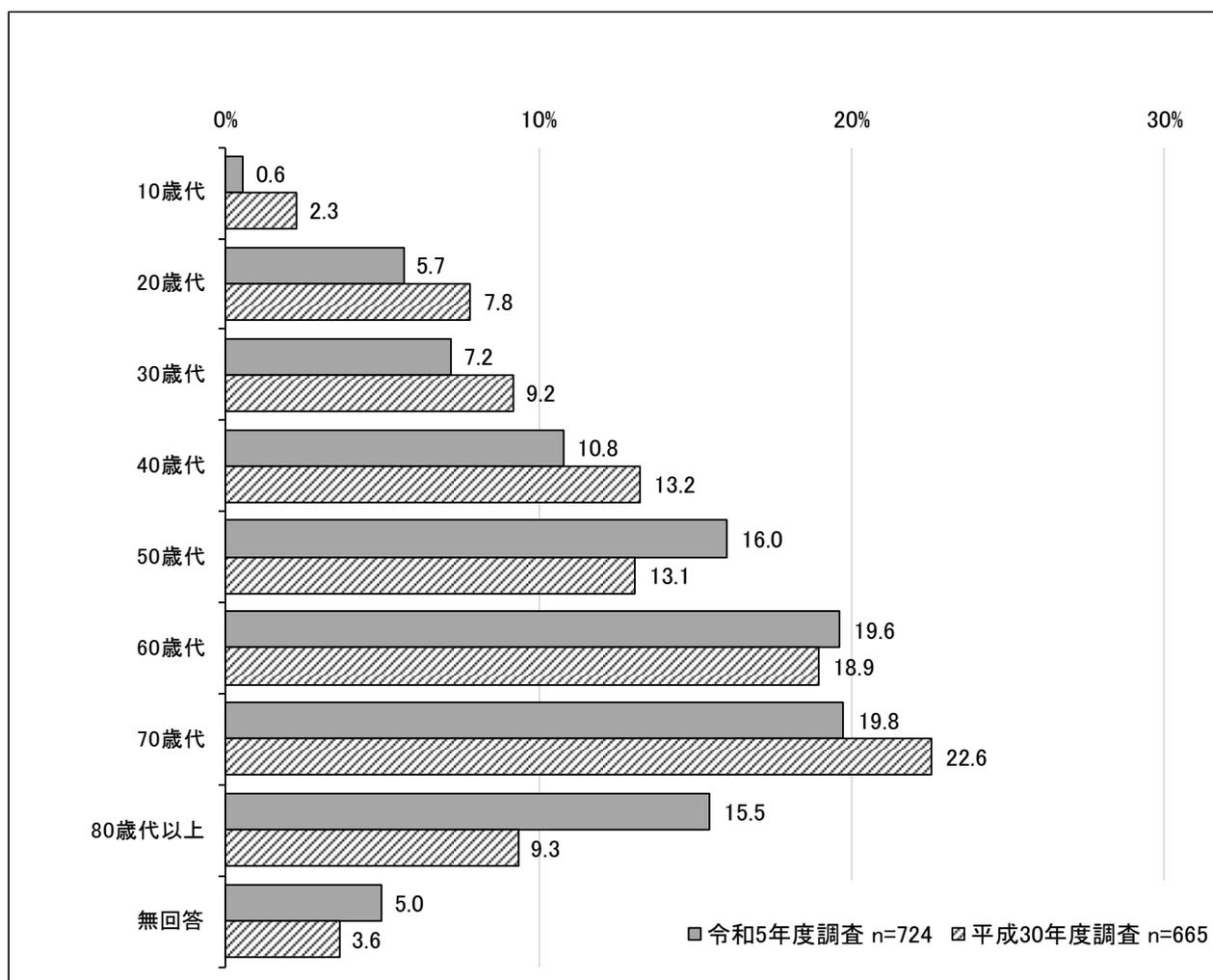
問1 あなたの性別をお答えください。(SA)

回答者の性別については、「女性」が55.7%と、「男性」(43.1%)より「女性」の比率が高くなっており、平成30年度調査(以下、「前回調査」と表記する)と比較して、大きな変化はありません。



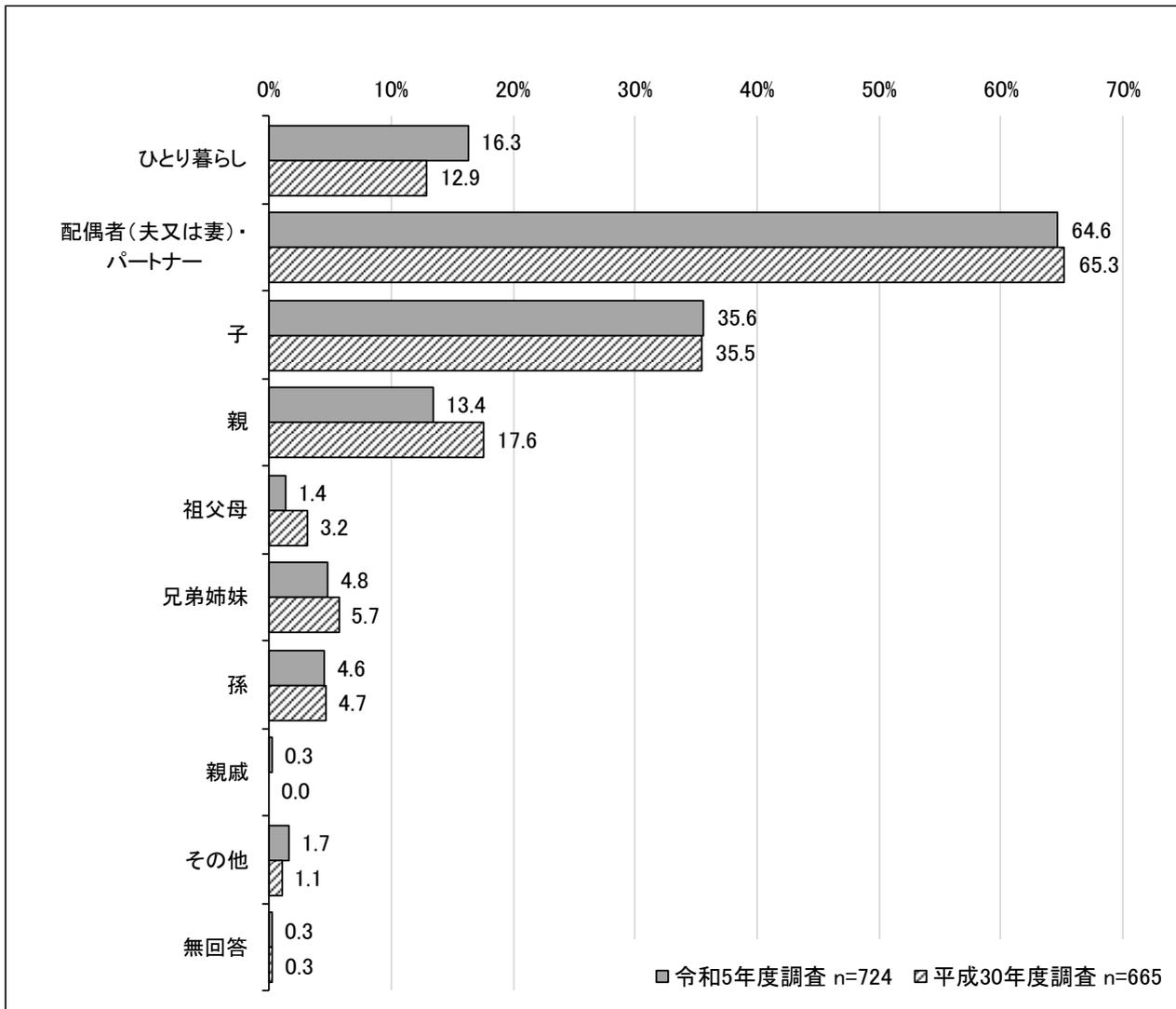
問2 あなたの年齢をお答えください。(令和6年1月1日現在)

回答者の年齢については、「60歳代」以上が半数を超えており（54.9%）、前回調査より「80歳代以上」の比率が特に高くなっています。



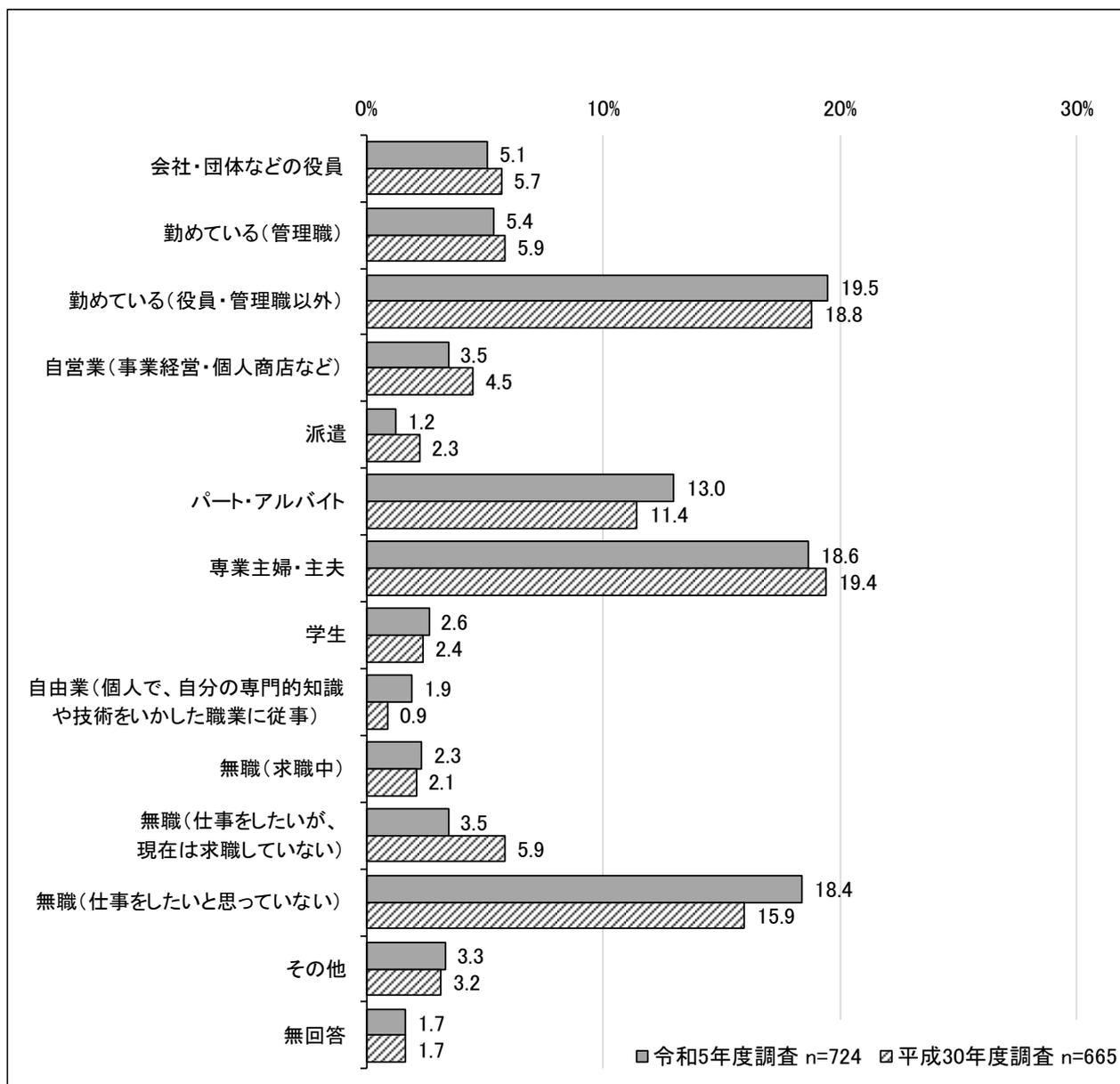
問3 現在、あなたが一緒に暮らしている人はどなたですか。(MA)

一緒に暮らしている人については、「配偶者」が64.6%で最も比率が高く、以下、「子」が35.6%、「親」が13.4%となっています。一方、「ひとり暮らし」は16.3%となっており、前回調査と比較して、親と暮らす人が減り、ひとり暮らしをする人の比率が高くなっています。



問4 あなたの職業をお答えください。(SA)

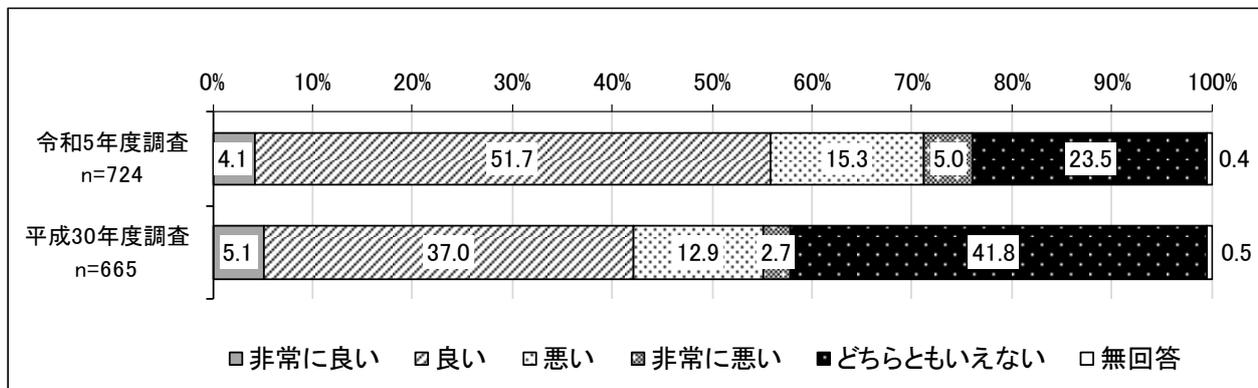
職業については、「役員・管理職以外」が19.5%で最も比率が高く、「専業主婦・主夫」が18.6%、「無職（仕事をしたいと思っていない）」が18.4%と、前回調査と比較して順位の変動はありますが、比率として大きな変更はありません。



問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(SA)

経済的にみた暮らしの状況については、「非常に良い」(4.1%)と「良い」(51.7%)を合わせた『良い』が55.8%となっており、「非常に悪い」(5.0%)と「悪い」(15.3%)を合わせた『悪い』の20.3%を大きく上回っています。

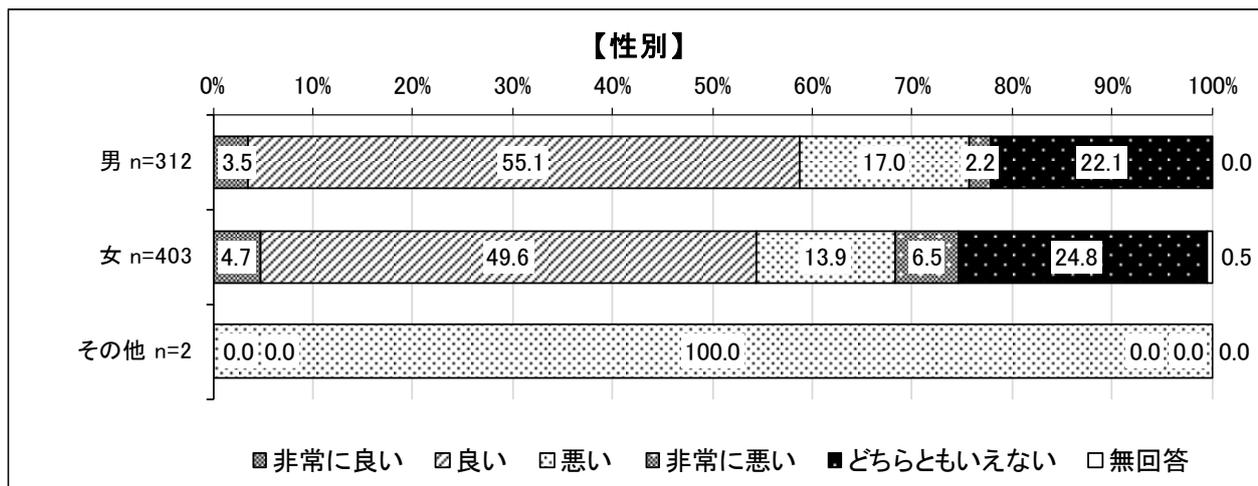
前回調査と比較して『良い』の比率が13.7ポイント高くなっています。

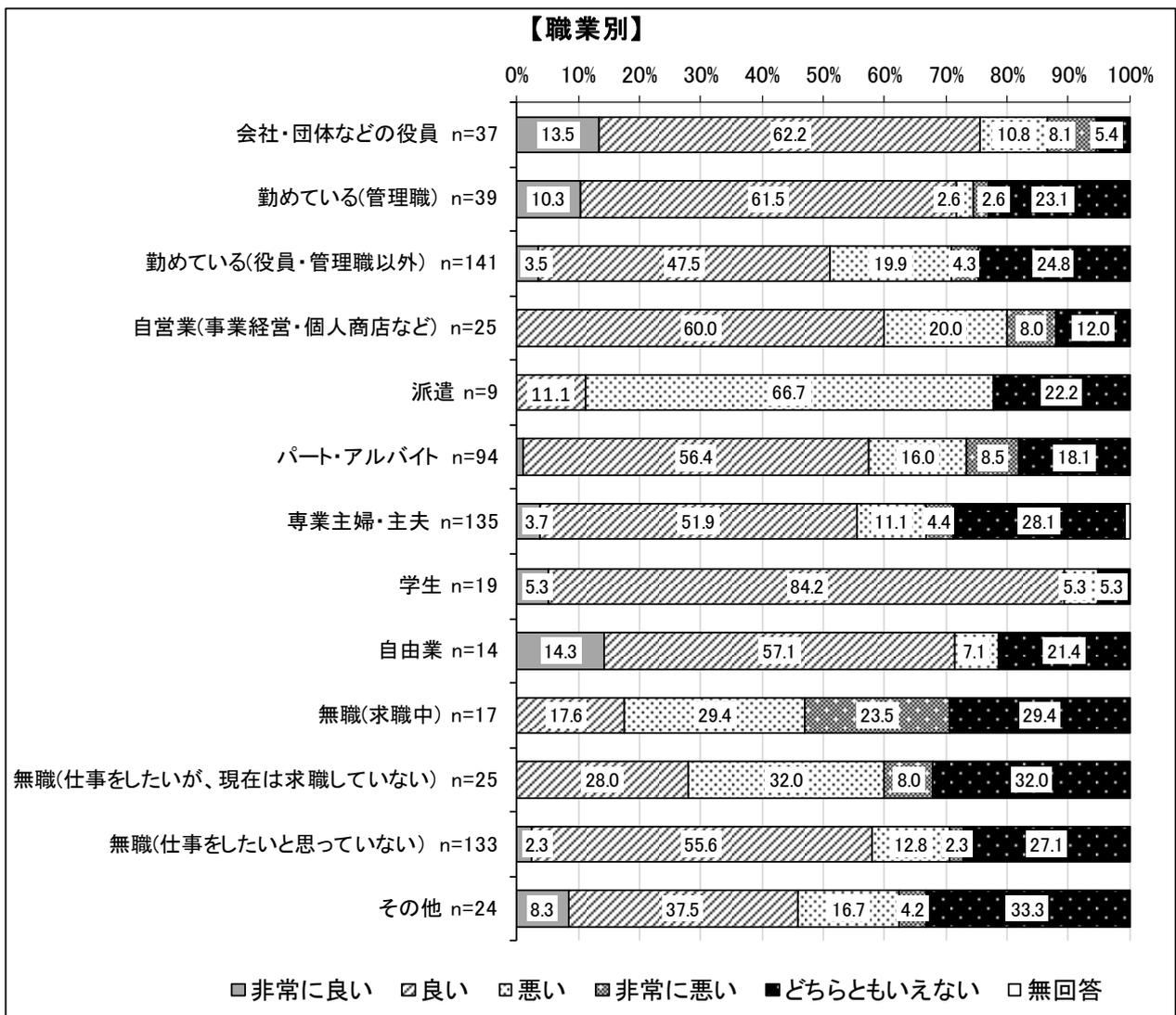
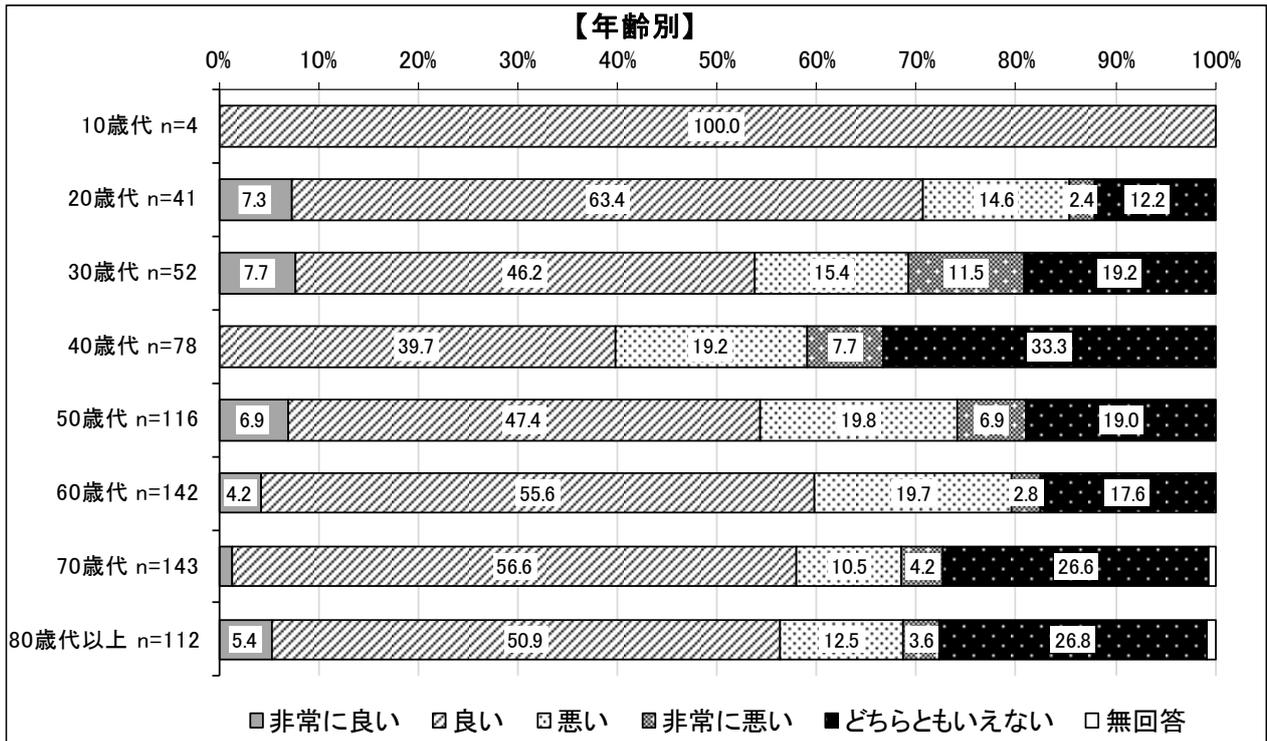


性別にみると、『良い』は“男性”が58.6%、“女性”が54.3%と、“男性”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『良い』は“10歳代”では100%、“20歳代”で70.7%と比率が高く、一方“40歳代”は39.7%と最も低い比率となっています。

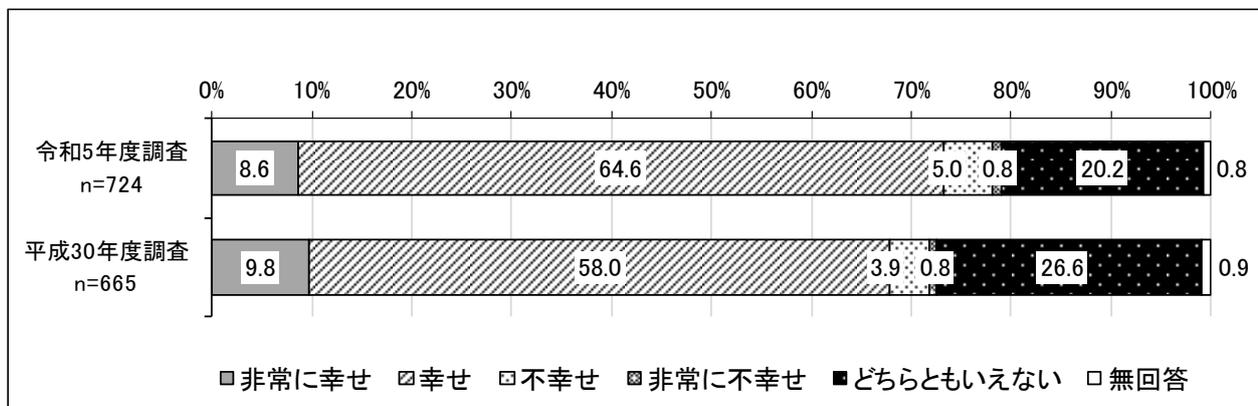
職業別にみると、『良い』は“学生”、“会社・団体などの役員”で比率が高く、一方、“派遣”や“無職(求職中)”、“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”などは他と比較して比率が低くなっています。





問6 現在、あなたはどの程度幸せですか。(SA)

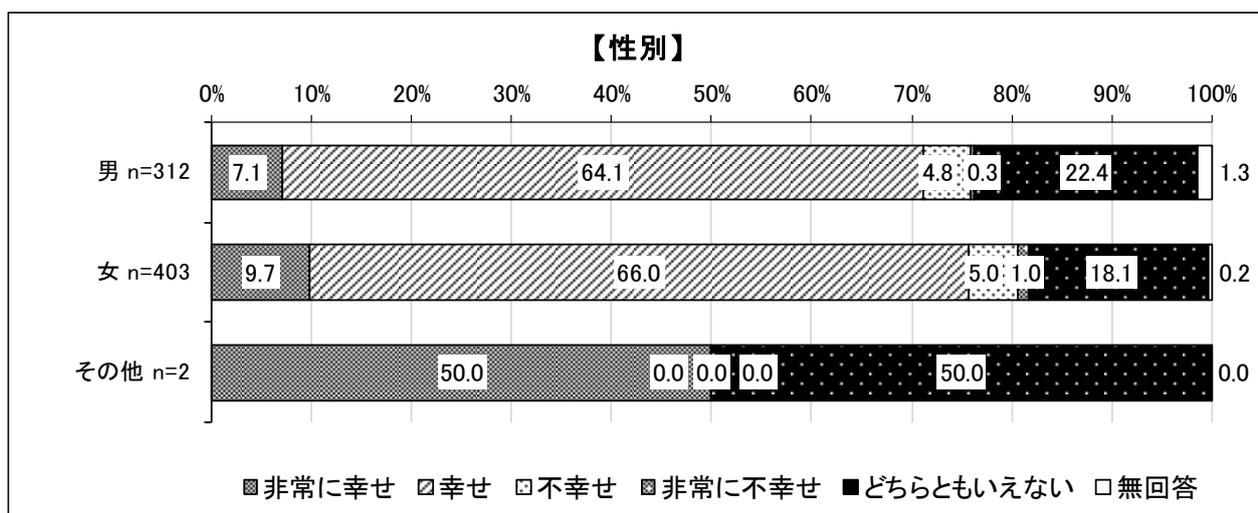
現在の幸せの程度については、「非常に幸せ」(8.6%)と「幸せ」(64.6%)を合わせた『幸せ』が73.2%となっており、一方、「非常に不幸せ」(0.8%)と「不幸せ」(5.0%)を合わせた『不幸せ』は5.8%となっています。

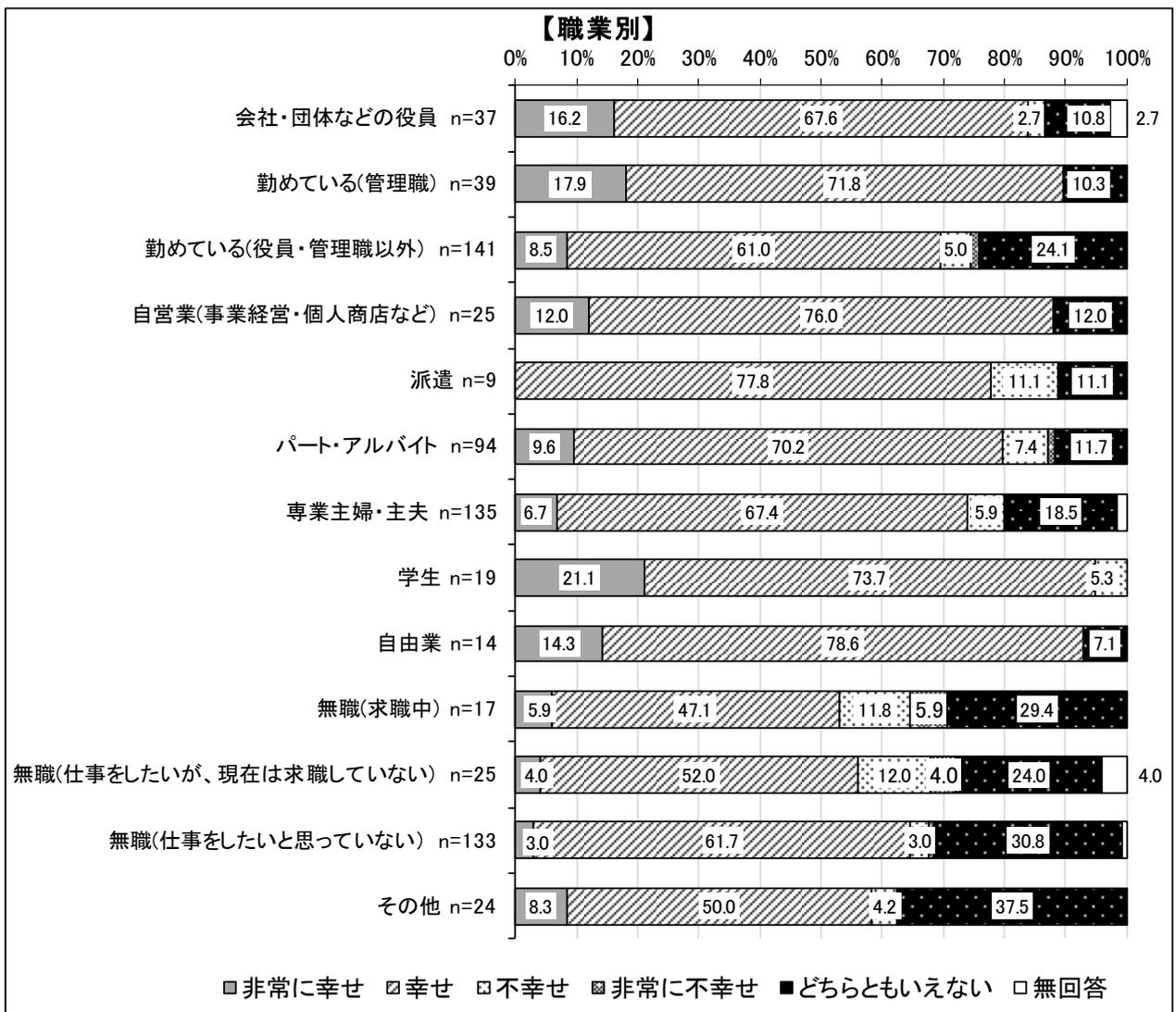
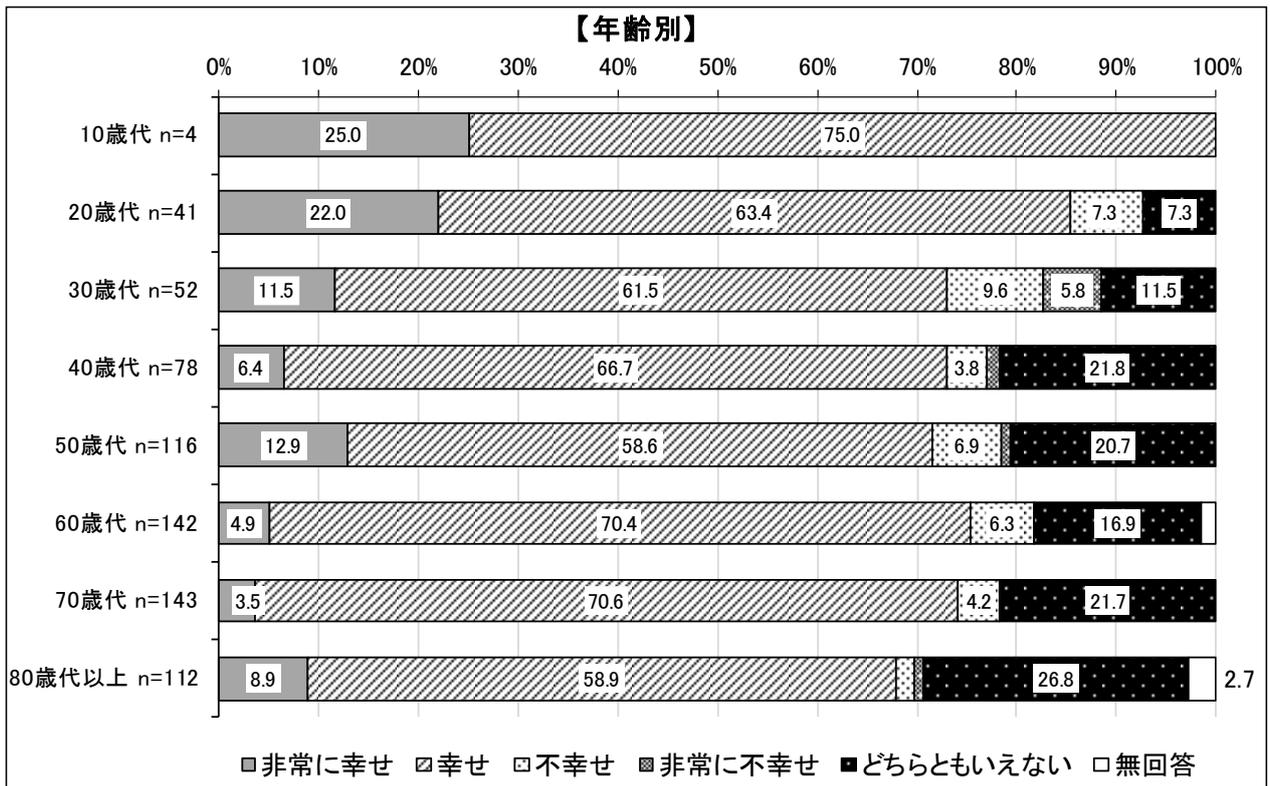


性別にみると、『幸せ』は、“女性”が75.7%、“男性”は71.2%と、“女性”が高くなっています。

年齢別にみると、『幸せ』の比率が低いのは“80歳代以上”(67.8%)ですが、『不幸せ』の比率が高いのは、“30歳代”(15.4%)となっています。

職業別にみると、“学生”、“自由業”は『幸せ』が90%以上と高く、一方、“無職(求職中)”や“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”は『幸せ』が60%未満と他より低い比率となっています。

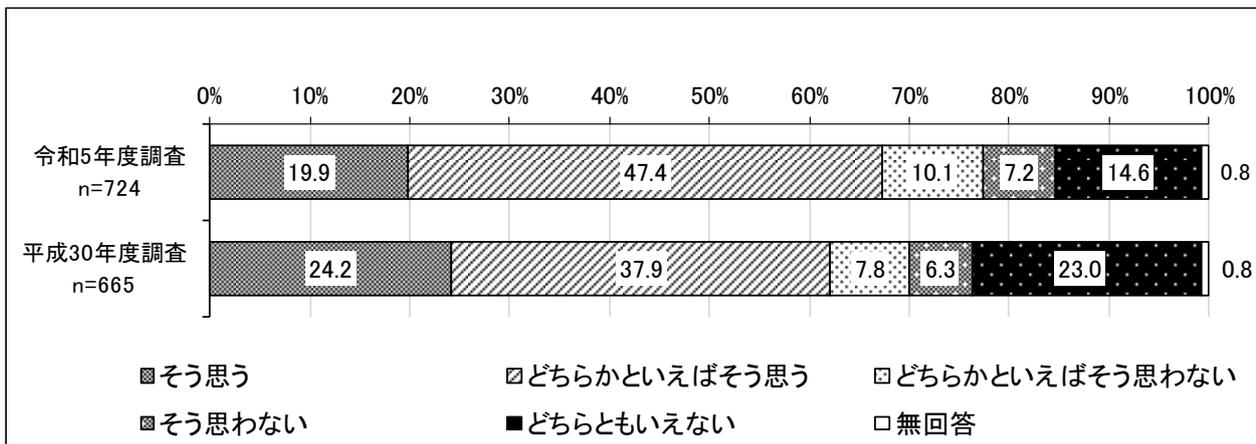




問7 あなたは自分のことが好きだと思いますか。(SA)

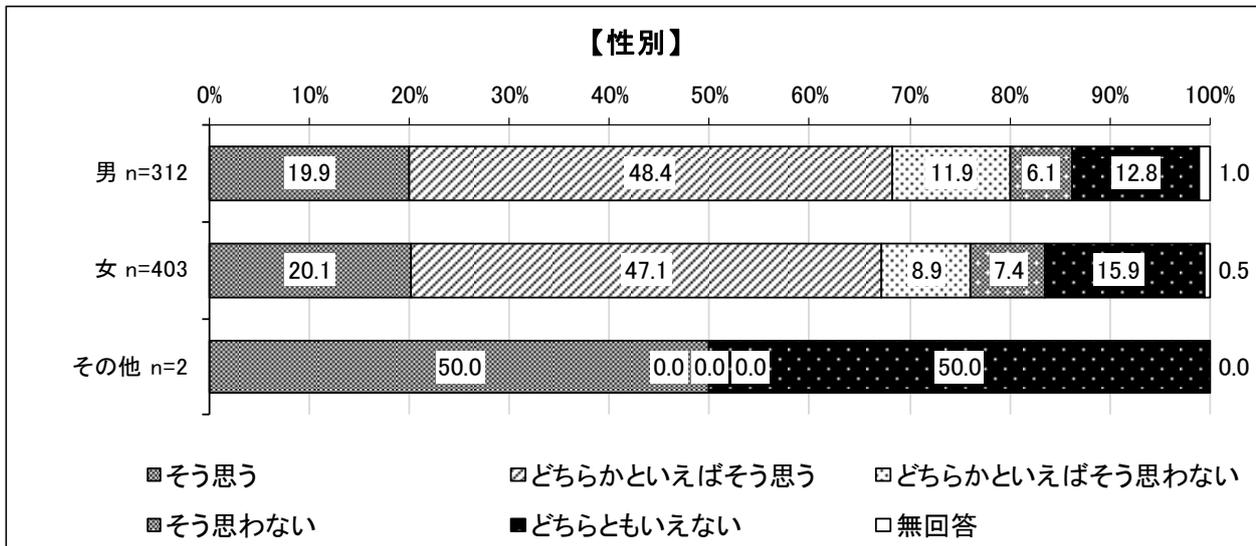
自分のことを好きだと思うかについては、「そう思う」(19.9%)と「どちらかといえばそう思う」(47.4%)を合わせた『思う』が67.3%となっており、一方、「そう思わない」(7.2%)と「どちらかといえばそう思わない」(10.1%)を合わせた『思わない』は17.3%となっています。

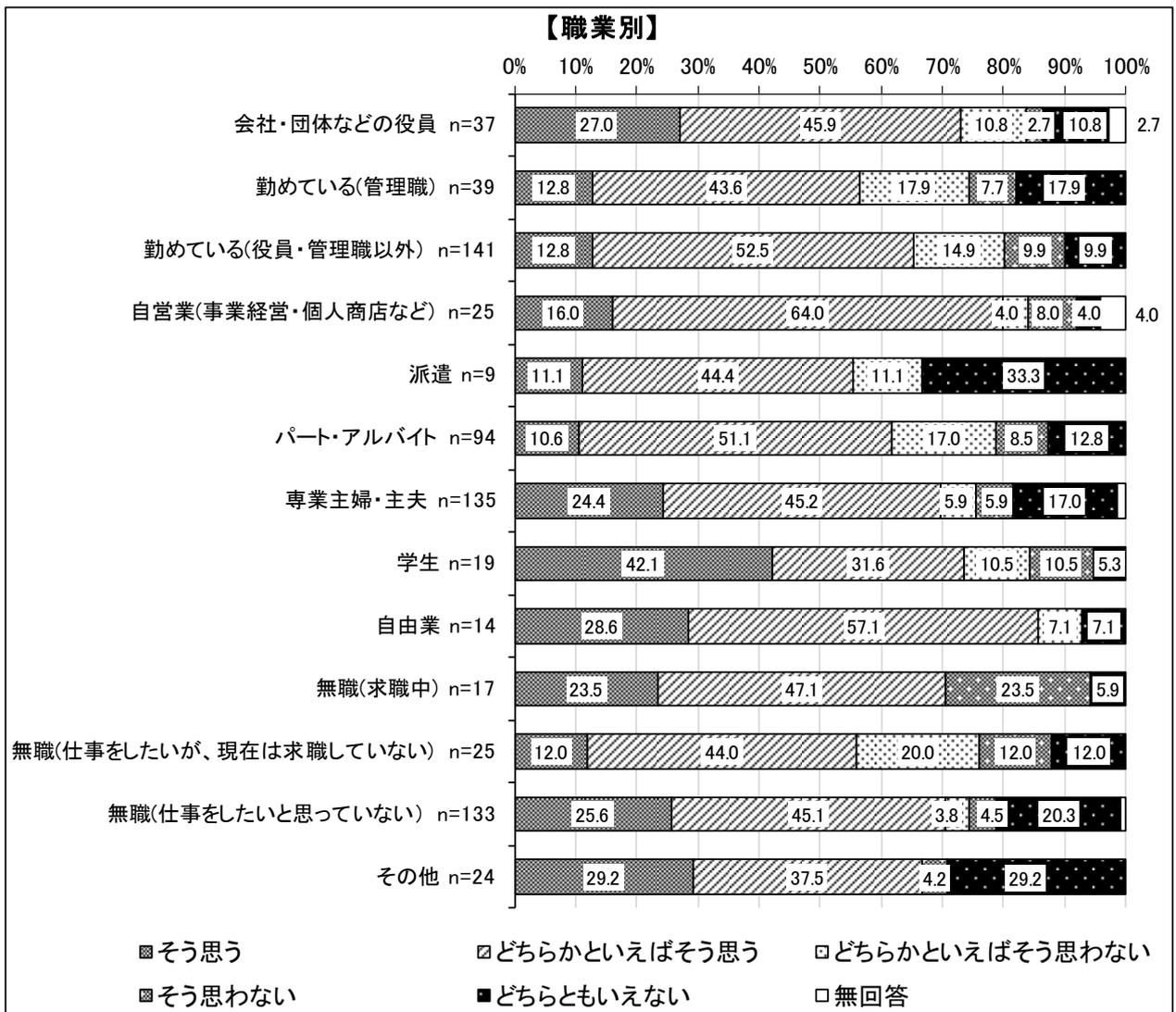
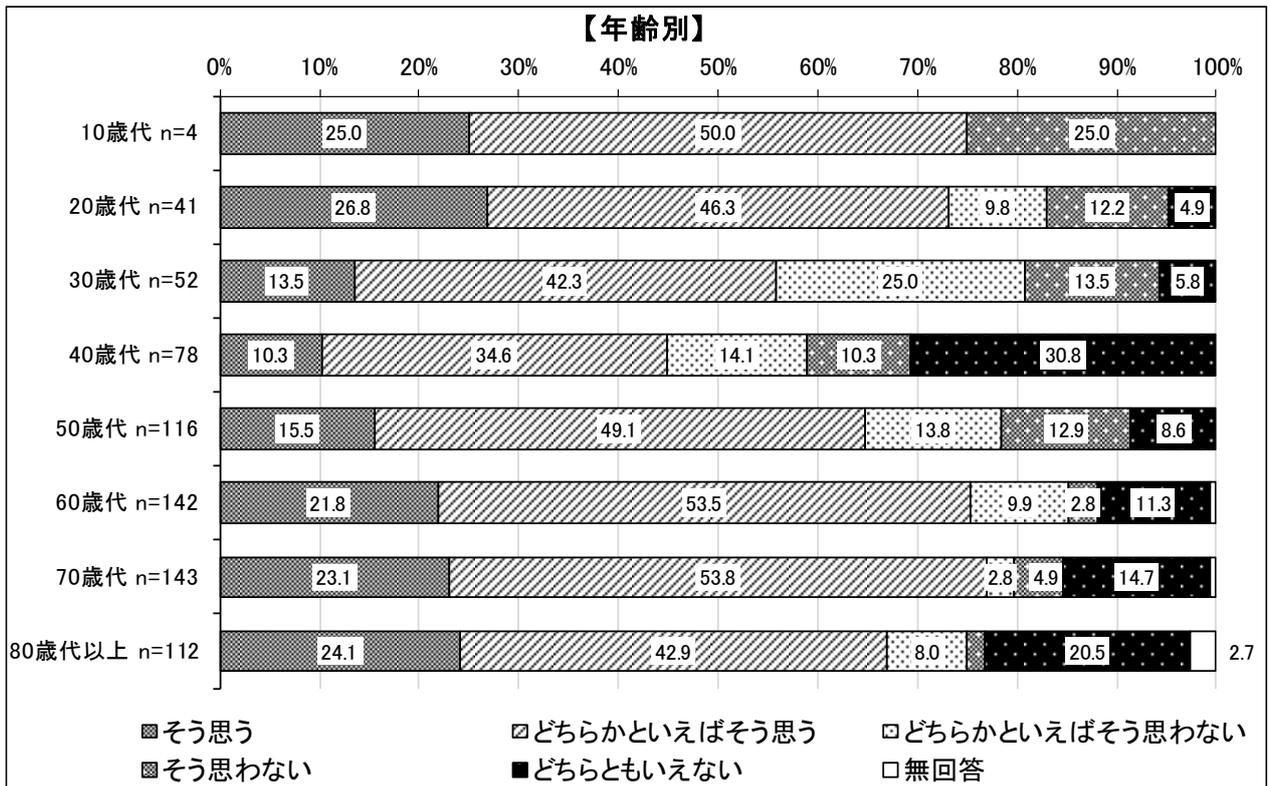
前回調査と比較して『思う』と回答した人の比率が高くなっています。



性別にみると、『思う』の比率は“男性”、“女性”ともに60%台となっています。

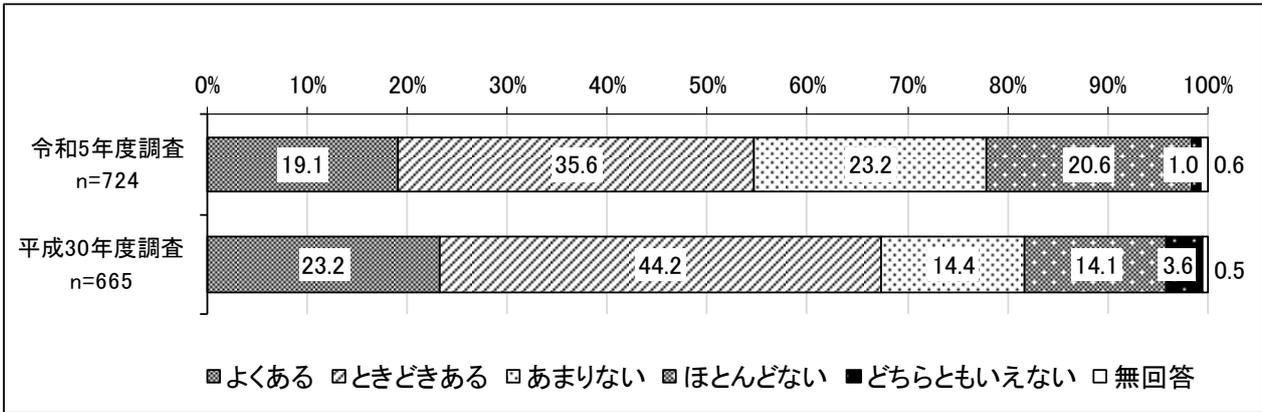
年齢別にみると、『思う』の比率は、“40歳代”が44.9%、職業別にみると“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”が56.0%と最も低くなっています。





問8 あなたは、町内の人や地域の人と話をしたり、交流したりする機会がありますか。(SA)

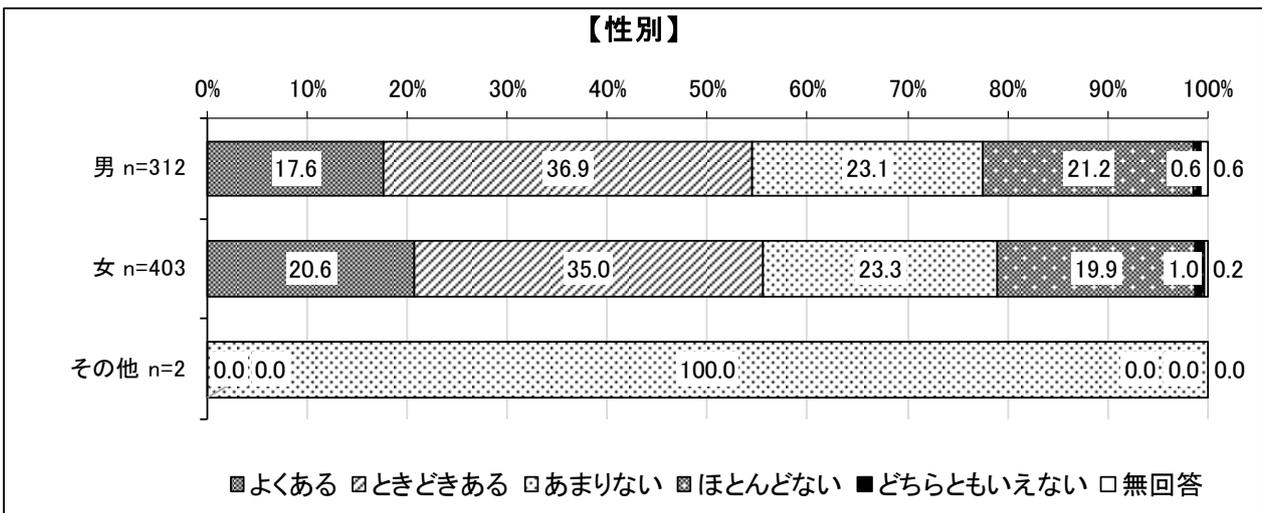
町内や地域の人と話をしたり、交流したりする機会については、「よくある」(19.1%)と「ときどきある」(35.6%)を合わせた『ある』が54.7%となっており、一方、「ほとんどない」(20.6%)と「あまりない」(23.2%)を合わせた『ない』は43.8%となっています。

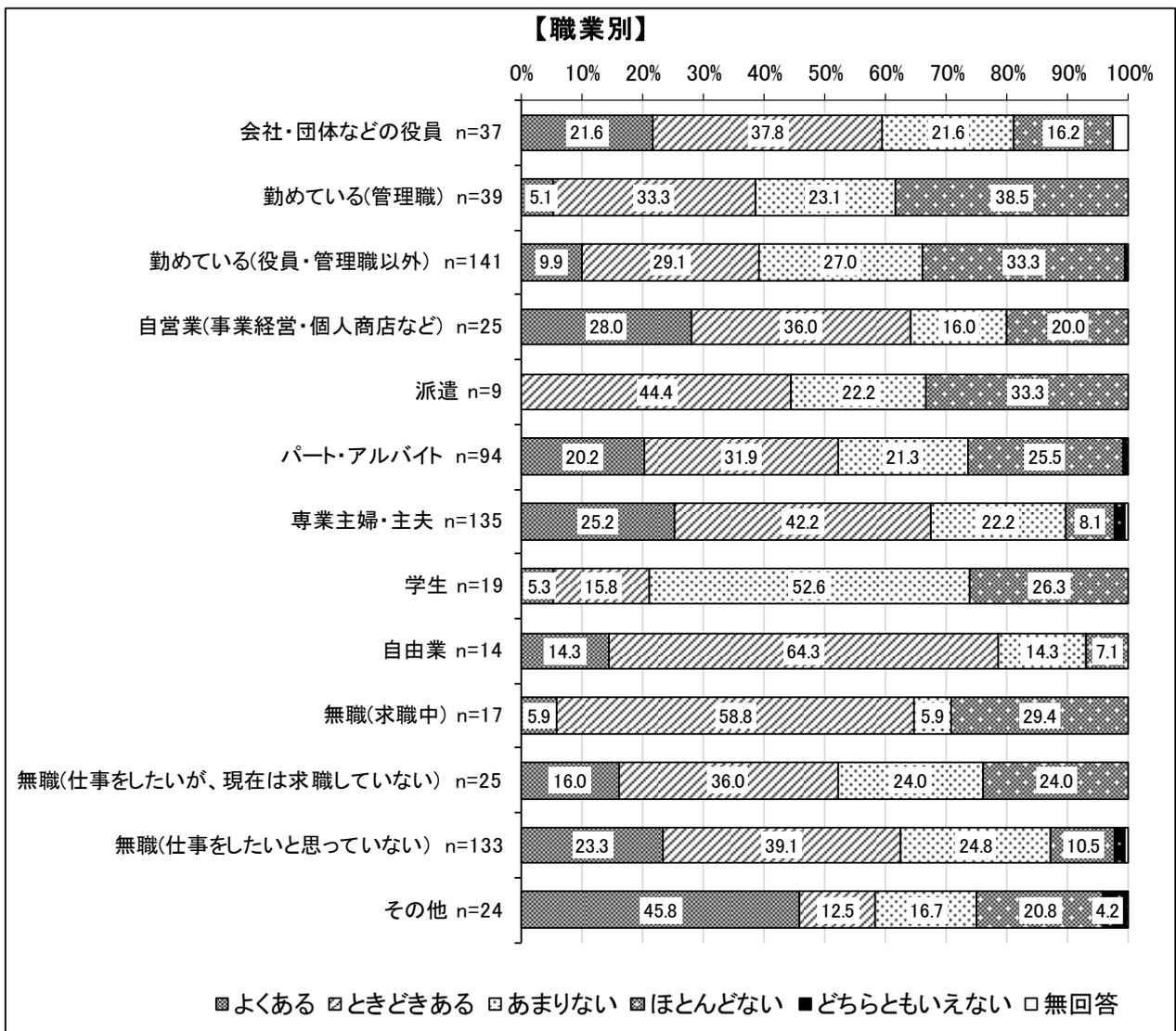
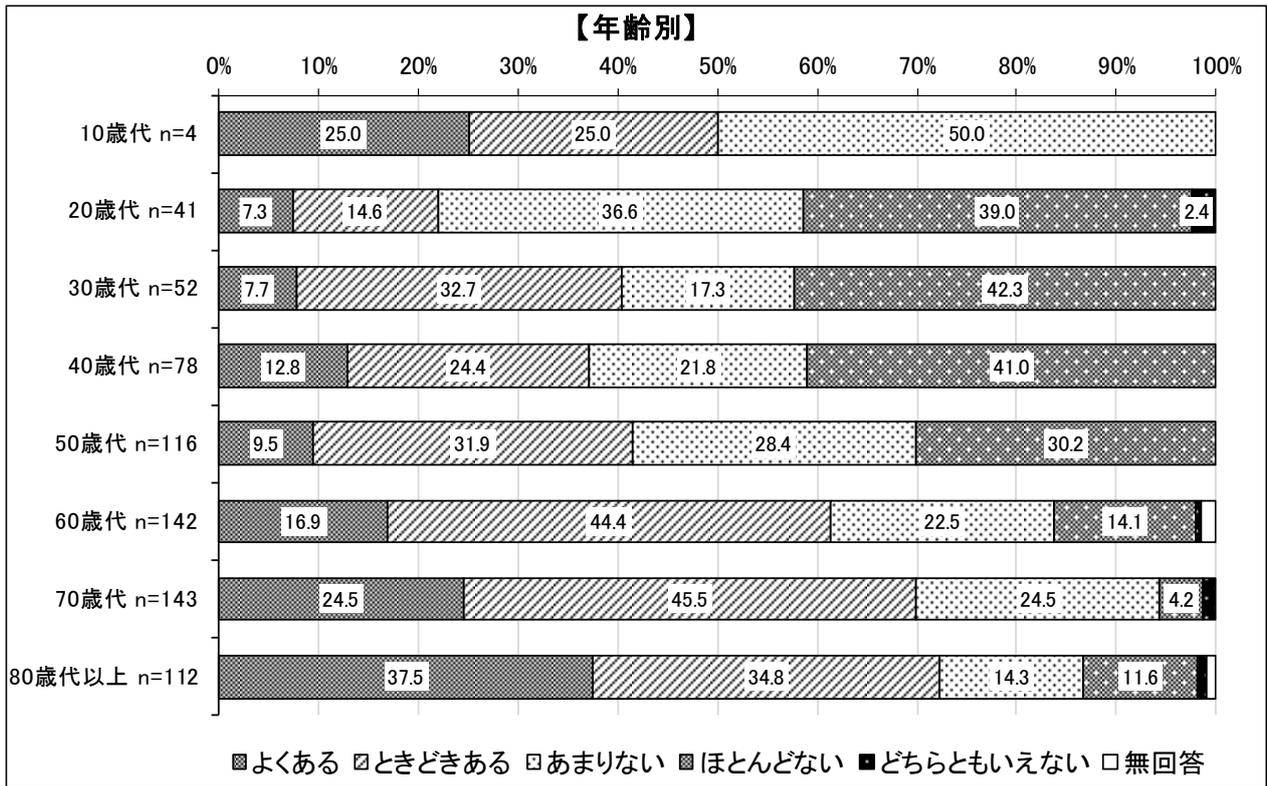


性別にみると、『ある』は“女性”が55.6%、“男性”が54.5%と、“女性”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『ある』は“20歳代”が21.9%で最も低く、年齢が高くなるとともに比率も高くなり、“60歳代”以上では60%を超える結果となっています。

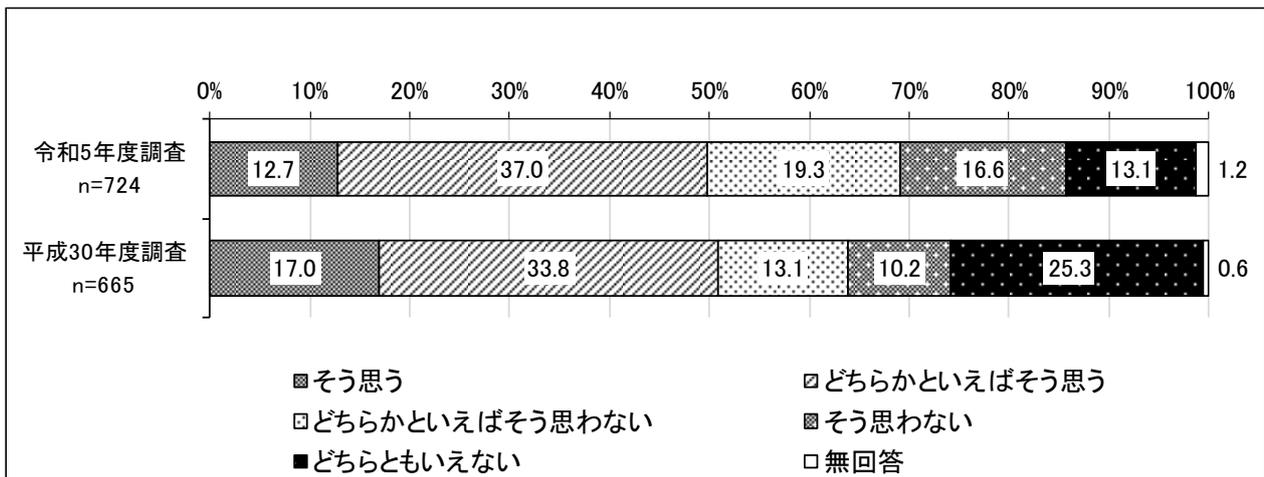
職業別にみると、『ある』の比率が“学生”が21.1%、“管理職”や“役員・管理職以外”はいずれも30%台と低く、一方、“自由業”は78.6%と他より高い比率となっています。





問9 あなたがお住まいの地域の人々は、日頃から互いに気遣ったり声を掛け合っていると思いますか。(SA)

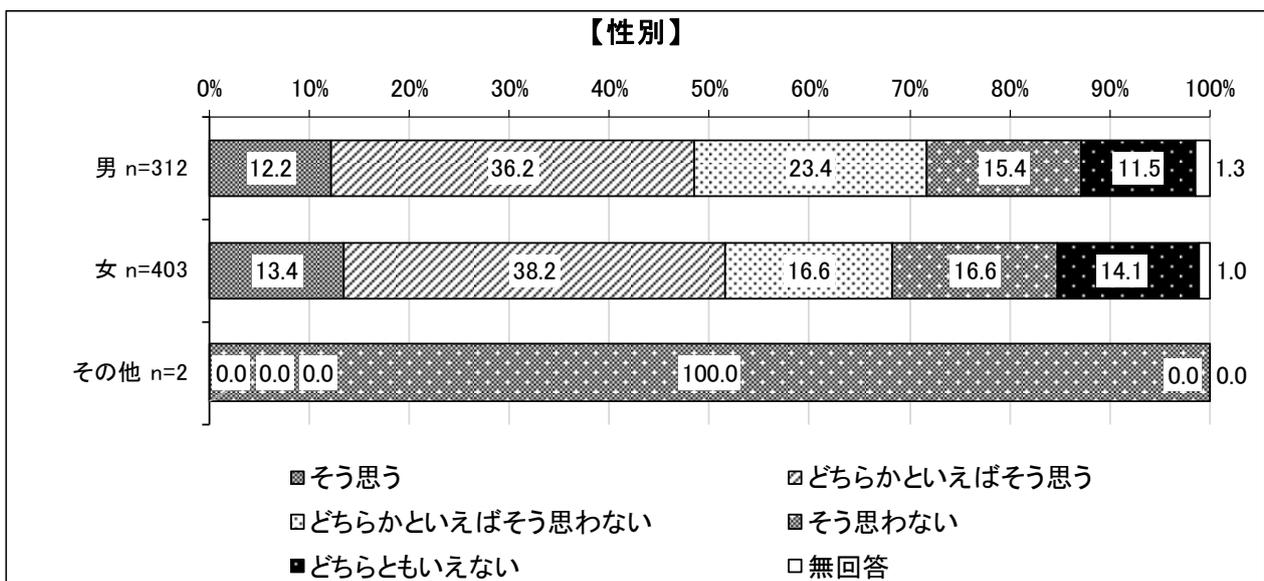
お住まいの地域の人々は、日頃から互いに気遣ったり声を掛け合っていると思うかについては、「そう思う」(12.7%)と「どちらかといえばそう思う」(37.0%)を合わせた『思う』が49.7%となっており、一方、「そう思わない」(16.6%)と「どちらかといえばそう思わない」(19.3%)を合わせた『思わない』は35.9%となっています。

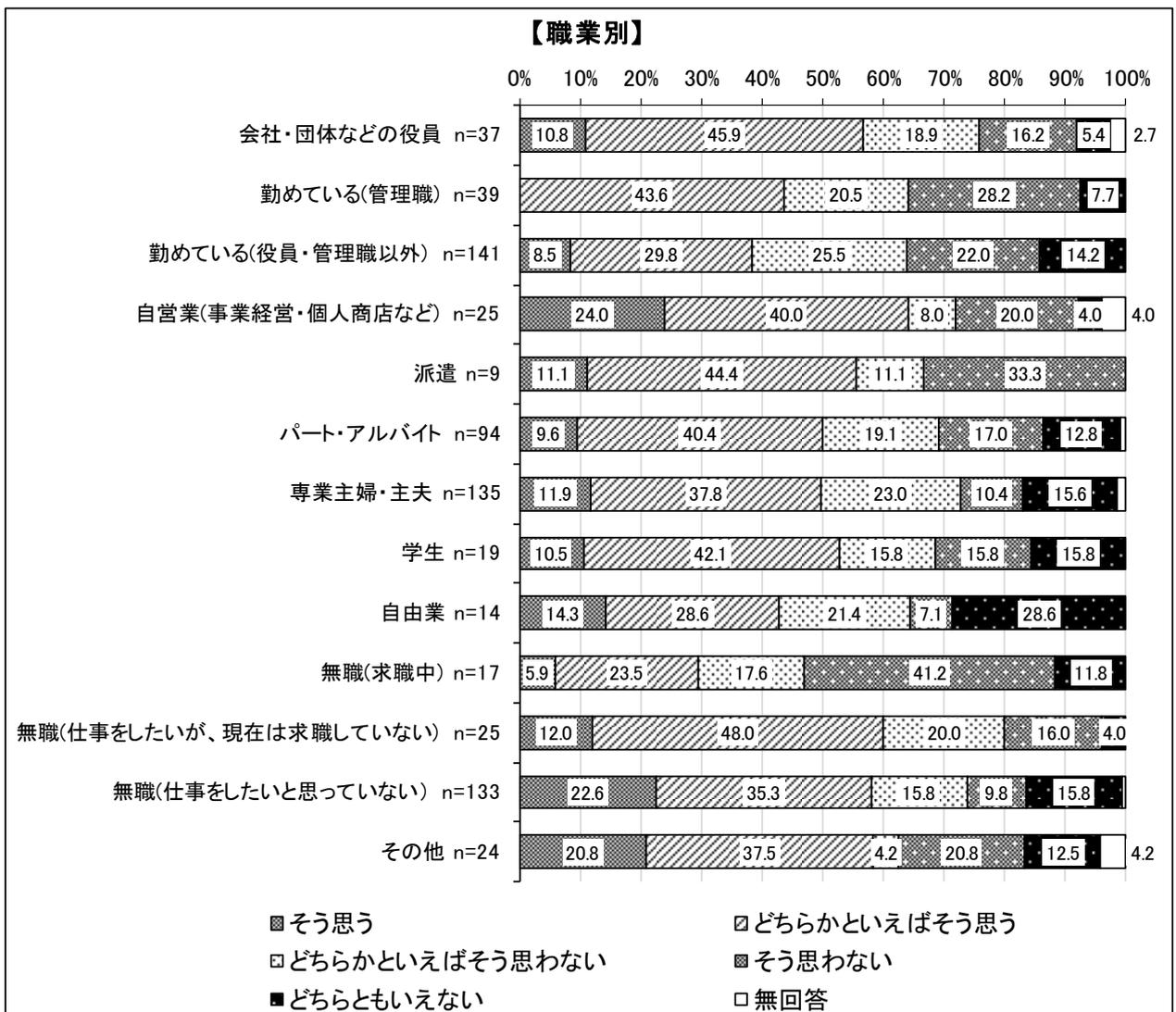
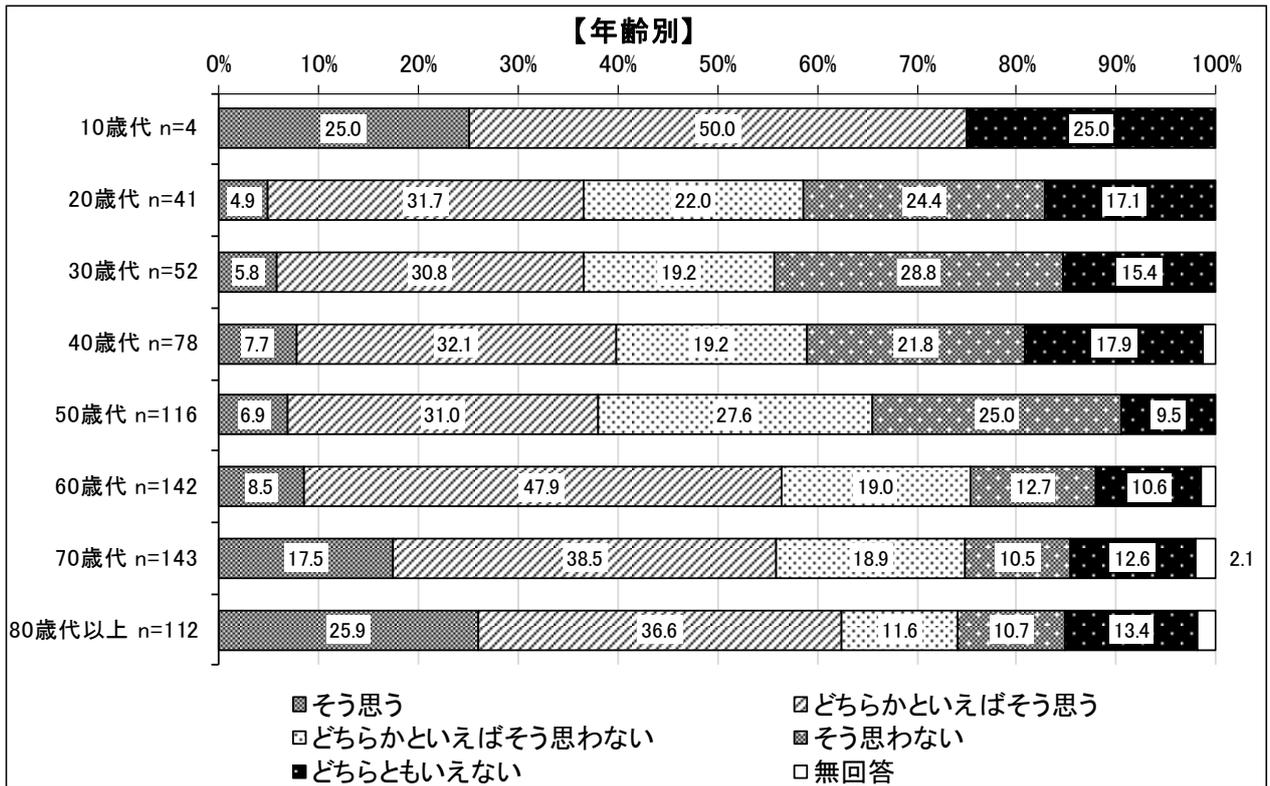


性別にみると、『思う』は“女性”が51.6%、“男性”が48.4%と、“女性”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『思う』の比率が低いのは、“20歳代”(36.6%)、“30歳代”(36.6%)となっています。

職業別にみると、『思う』は“無職(求職中)”(29.4%)や“役員・管理職以外”(38.3%)、“自由業”(42.9%)などで他より低い比率となっています。

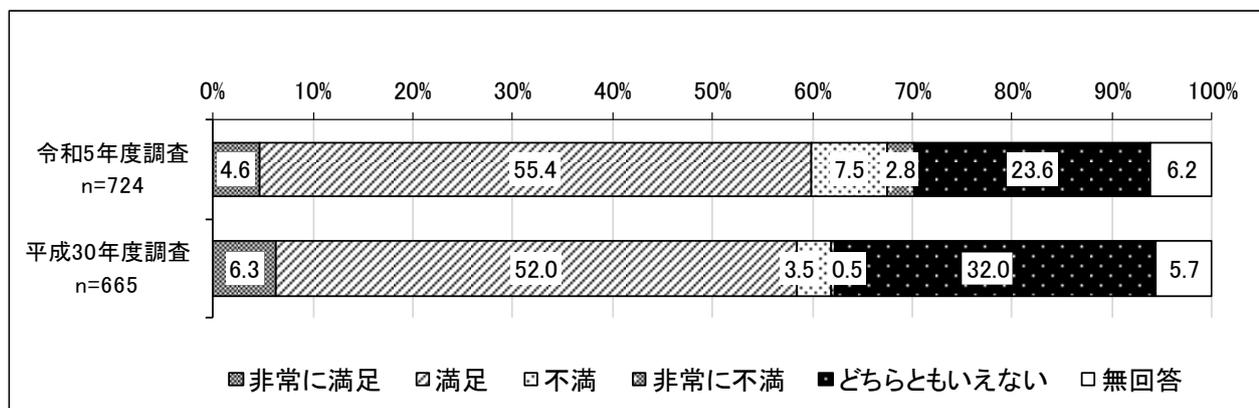




問 10 学校や職場（もしくは地域）での人間関係は満足していますか。（SA）

※前回調査（平成 30 年度実施）「1. 非常に良い 2. 良い 3. どちらともいえない 4. 悪い 5. 非常に悪い」から本選択肢へ変更。

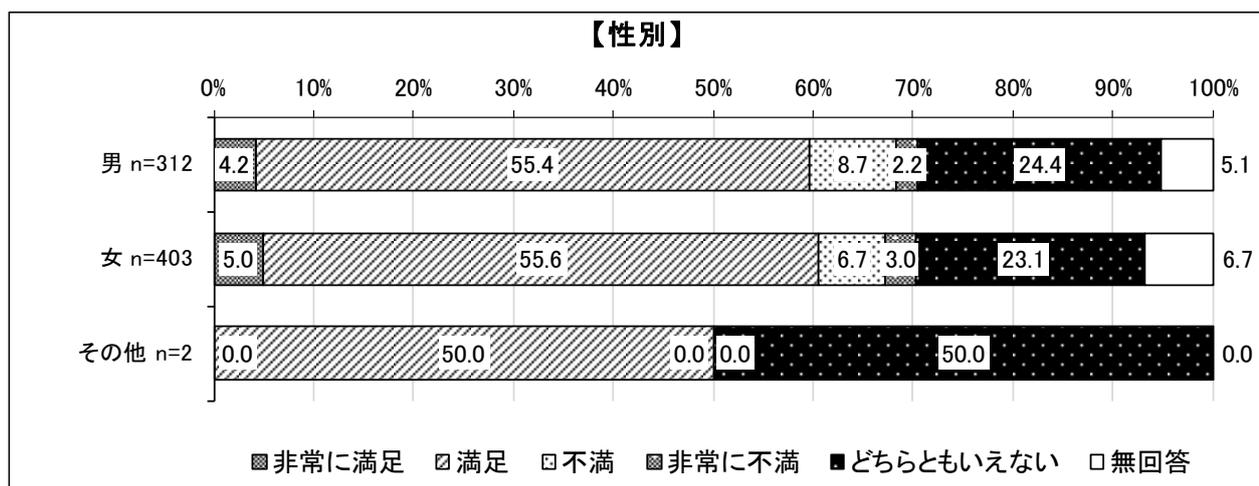
学校や職場（もしくは地域）での人間関係については、「非常に満足」（4.6%）と「満足」（55.4%）を合わせた『満足』が 60.0%となっており、一方、「非常に不満」（2.8%）と「不満」（7.5%）を合わせた『不満』は 10.3%となっています。

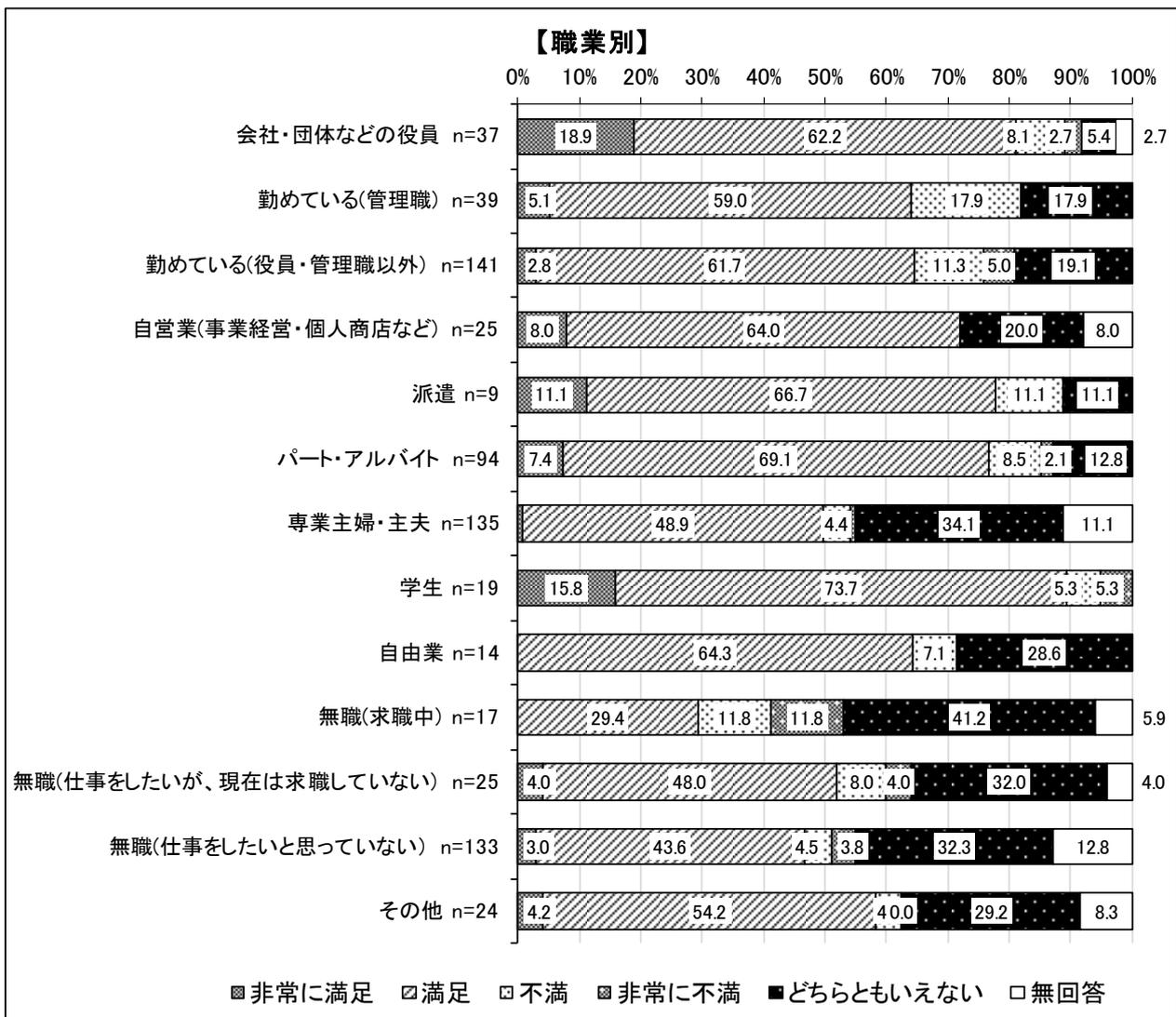
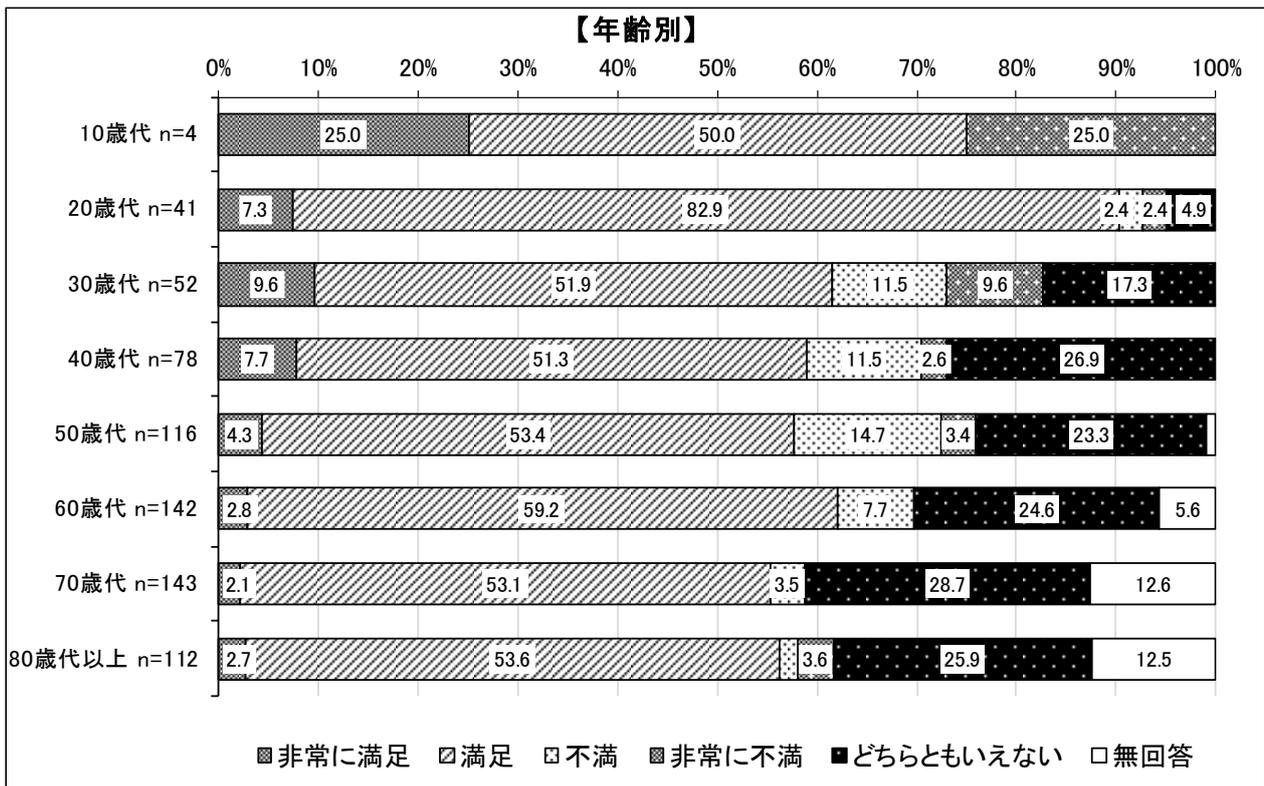


性別にみると、『満足』は“女性”が 60.6%、“男性”が 59.6%と、“女性”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『満足』は全年代で 50%を超える比率となっています。

職業別にみると、『満足』の比率が低いのは“無職（求職中）”（29.4%）、“無職（仕事をしたいと思っていない）”（46.6%）、“専業主婦・主夫”（49.6%）などとなっています。



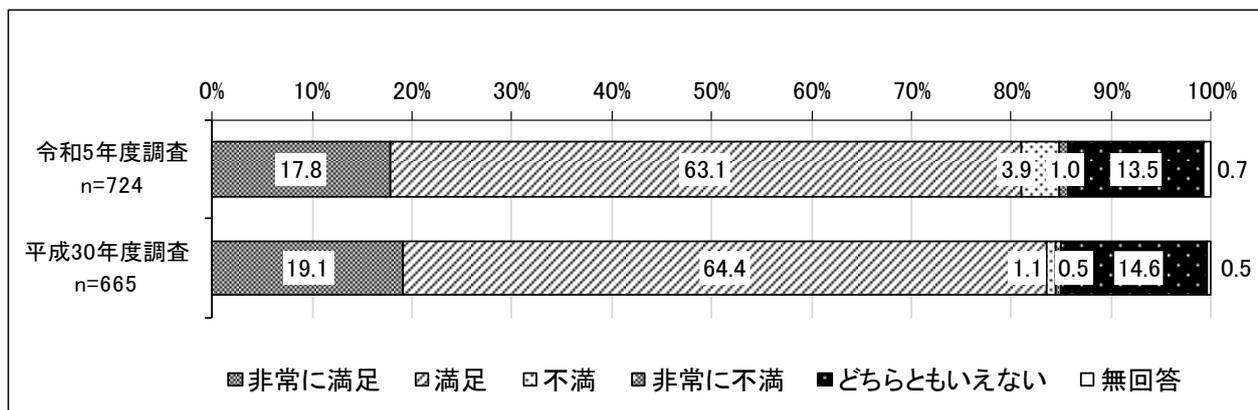


問 11 友人や家族等との関係は満足していますか。(SA)

※前回調査(平成 30 年度実施)「1. 非常に良い 2. 良い 3. どちらともいえない 4. 悪い 5. 非常に悪い」から本選択肢へ変更。

友人や家族等との関係については、「非常に満足」(17.8%)と「満足」(63.1%)を合わせた『満足』が80.9%となっており、一方、「非常に不満」(1.0%)と「不満」(3.9%)を合わせた『不満』は4.9%となっています。

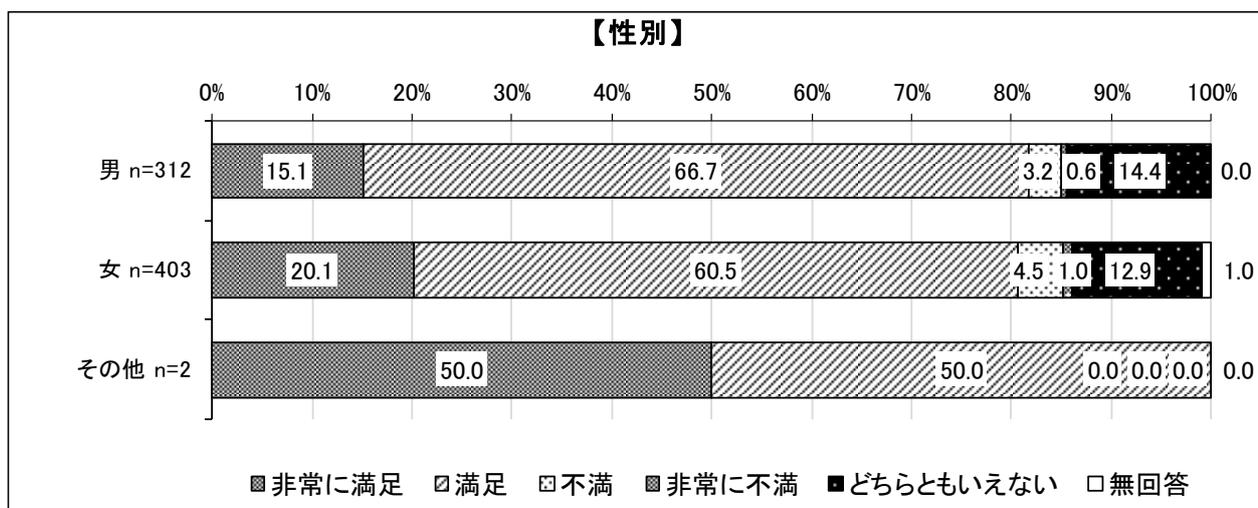
前回調査と比較して、大きな変化はありません。

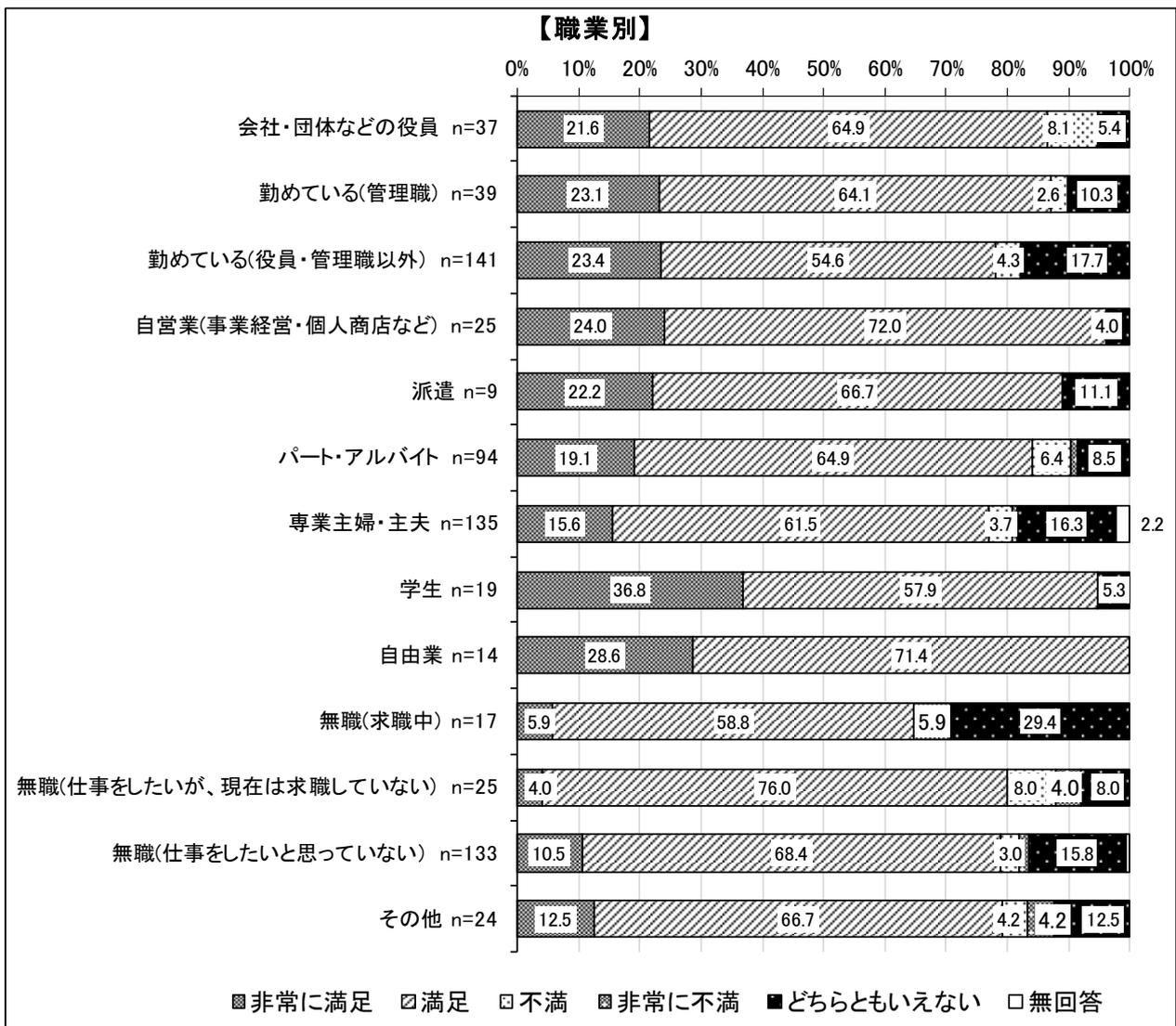
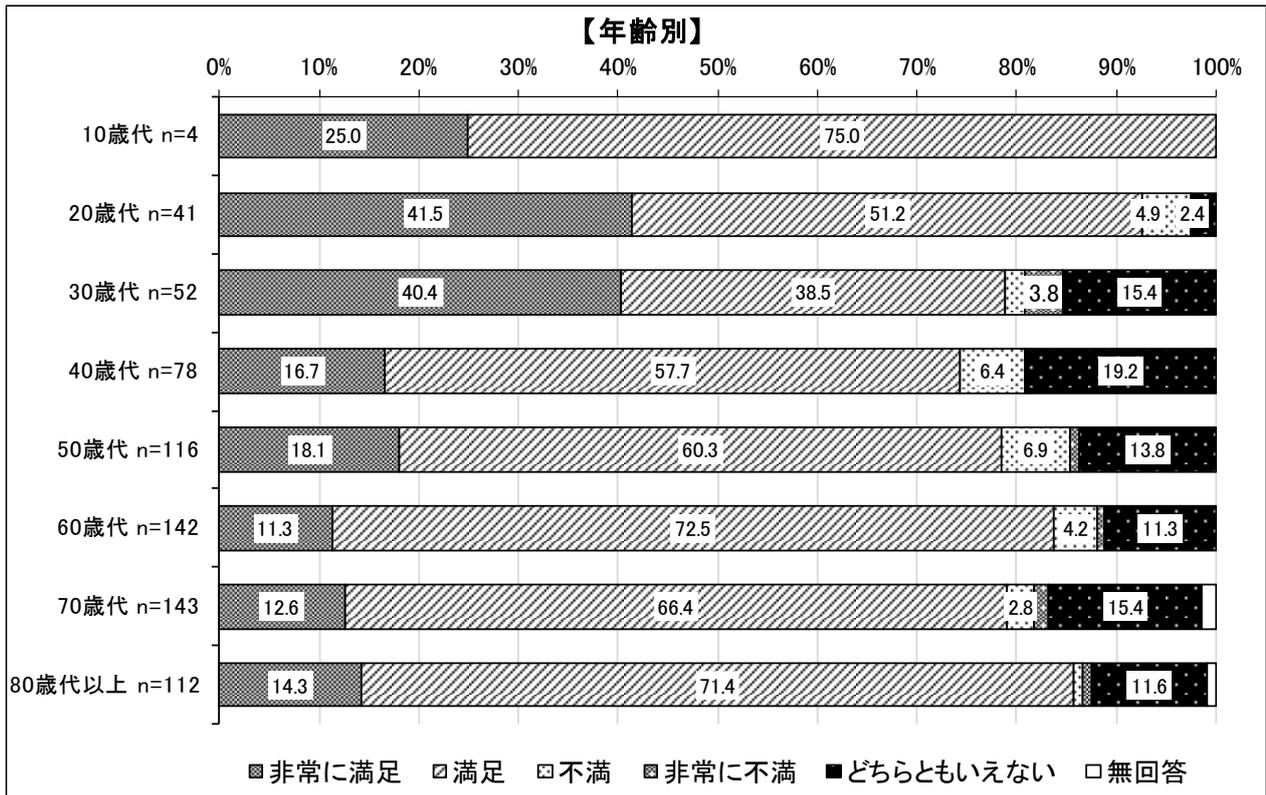


性別にみると、『満足』は“男性”が81.8%、“女性”が80.6%と、ともに80%以上の高い比率となっています。

年齢別にみると、最も低い数値でも“40歳代”が74.4%と高水準であり、特に“10歳代”は100.0%、“20歳代”は92.7%と非常に高くなっています。

職業別にみると、『満足』の比率が低いのは“無職(求職中)”(64.7%)や“専業主婦”(77.1%)であり、一方、“自由業”(100%)や“自営業”(96.0%)“学生”(94.7%)などは高い比率となっています。





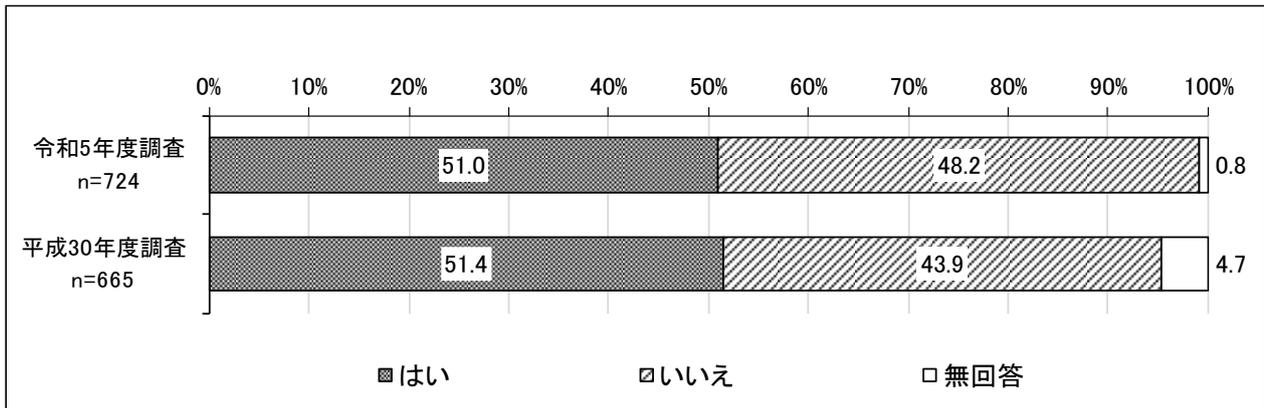
2 自殺対策の現状等について

問 12 全国では、令和4年に約2万2,000人の方が自殺により亡くなっています。

あなたは、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。(SA)

多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていたかについては、「はい」が51.0%、「いいえ」が48.2%と、「はい」の比率が高くなっています。

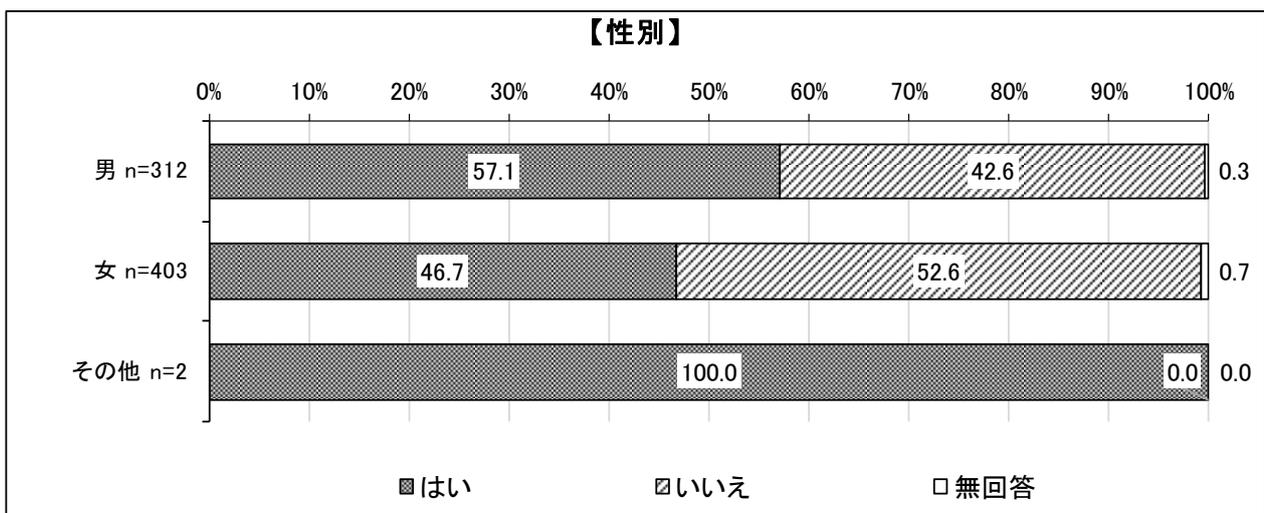
前回調査と比較して、大きな変化はありません。

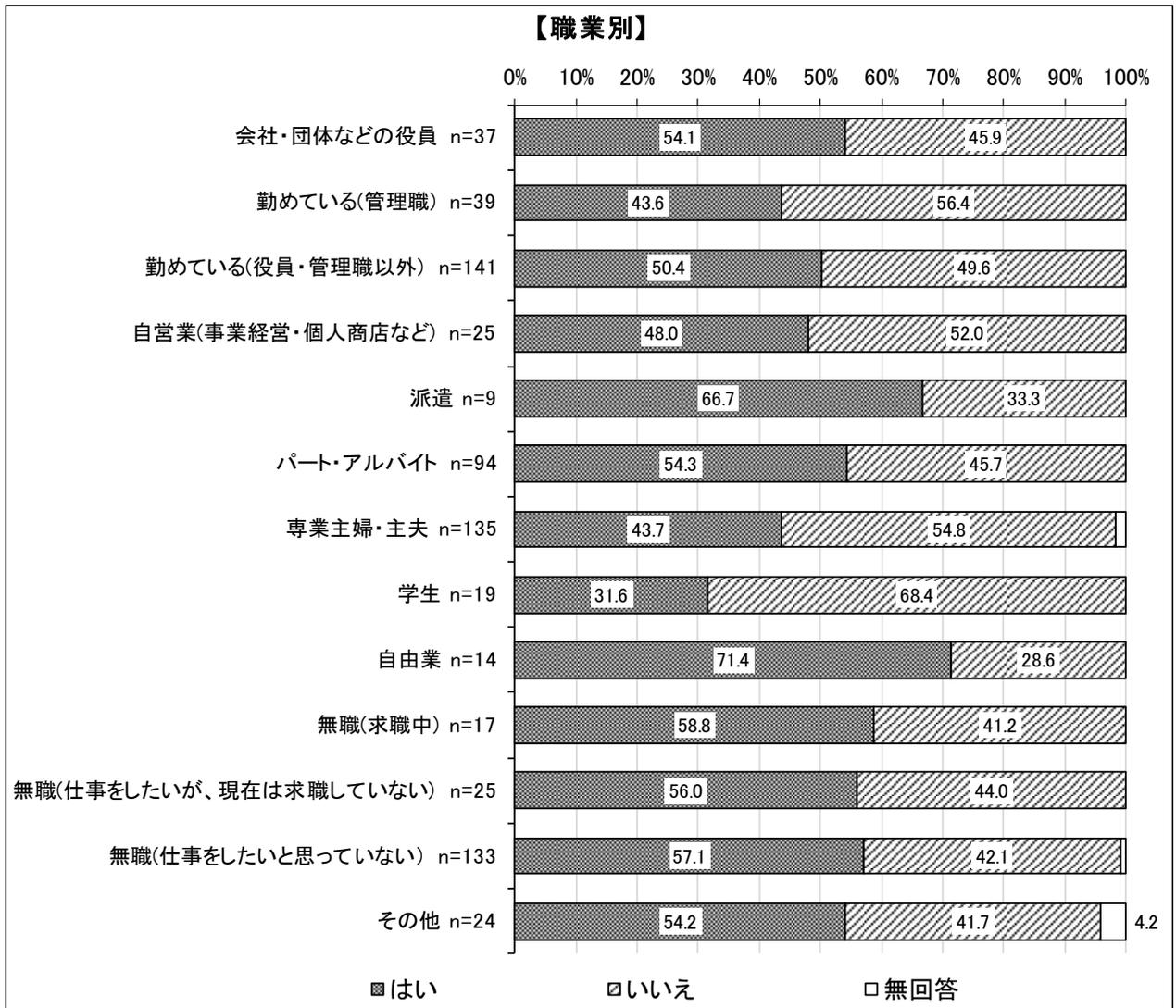
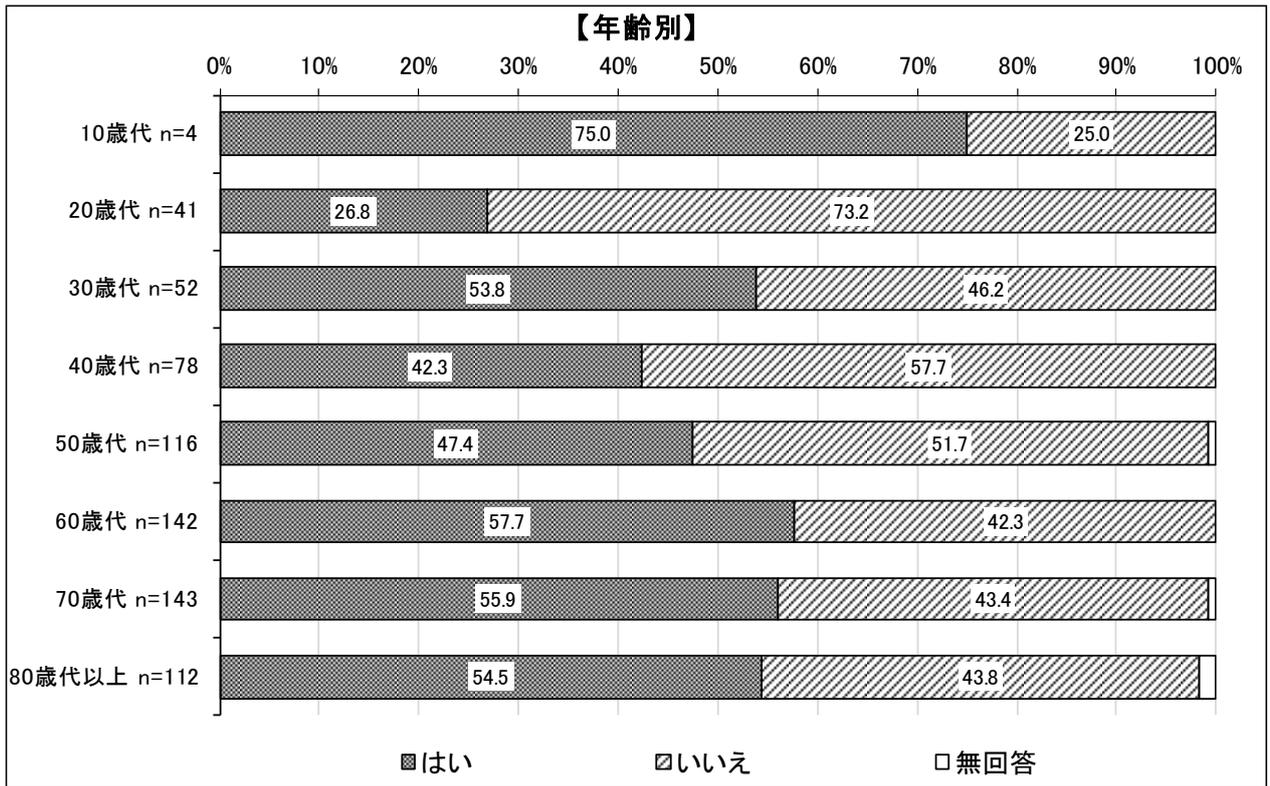


性別にみると、「はい」は“男性”が57.1%、“女性”が46.7%と、“男性”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、「はい」は“10歳代”が75.0%と高い比率となっています。

職業別にみると、「はい」の比率が高いのは、“自由業”(71.4%)や“派遣”(66.7%)となっています。

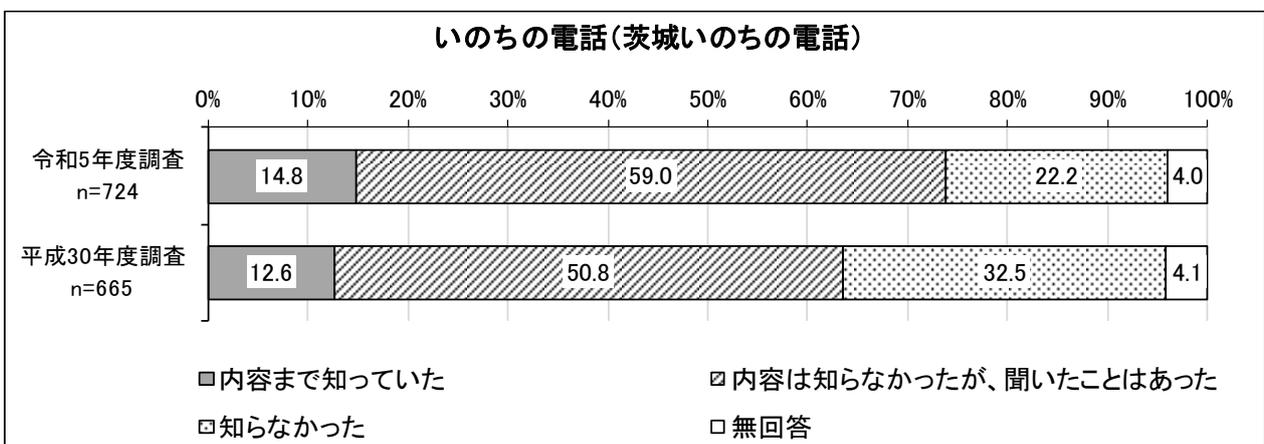
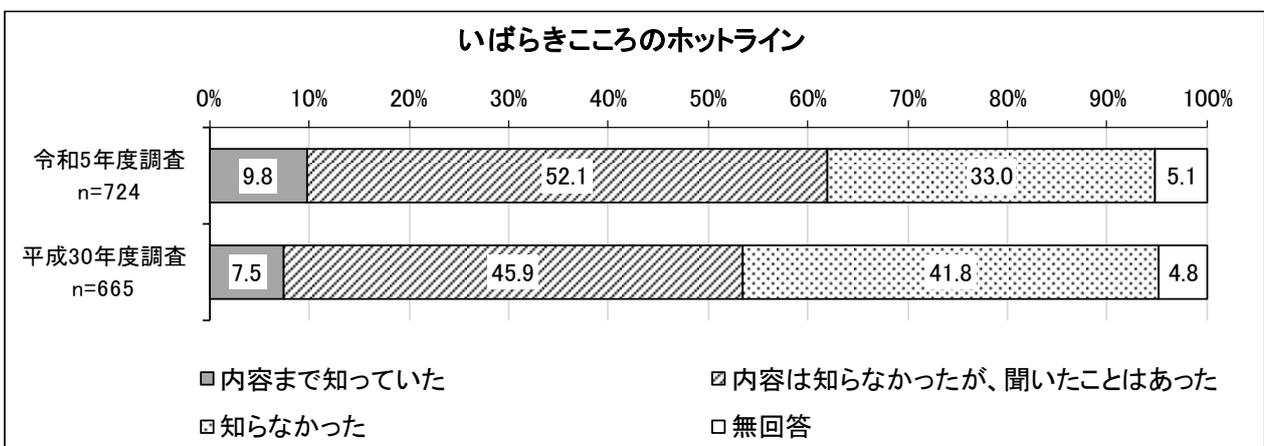
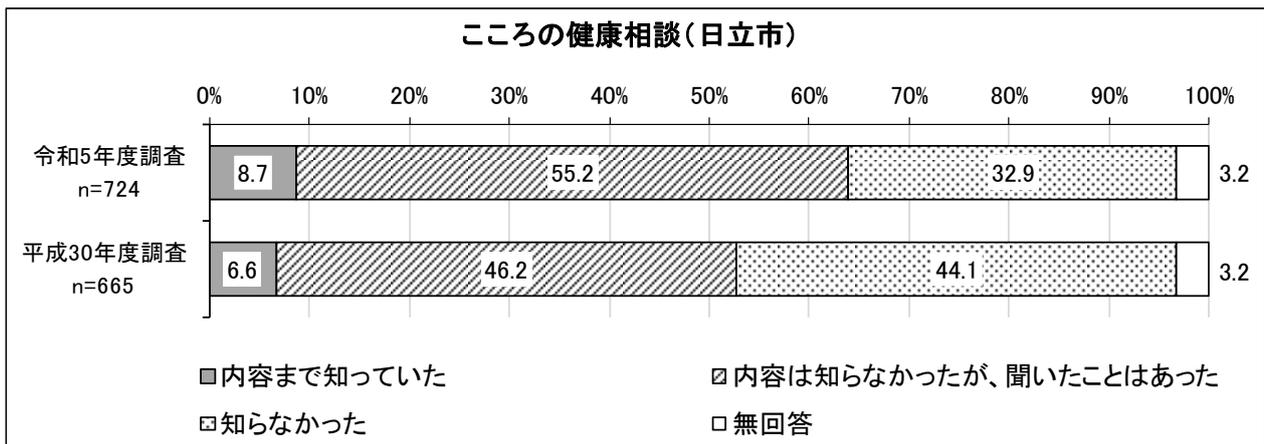


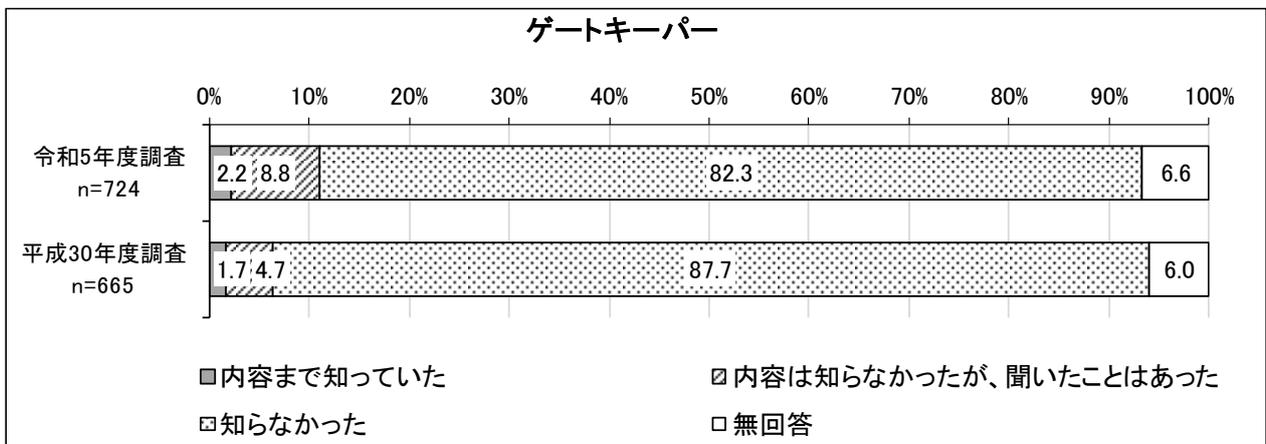
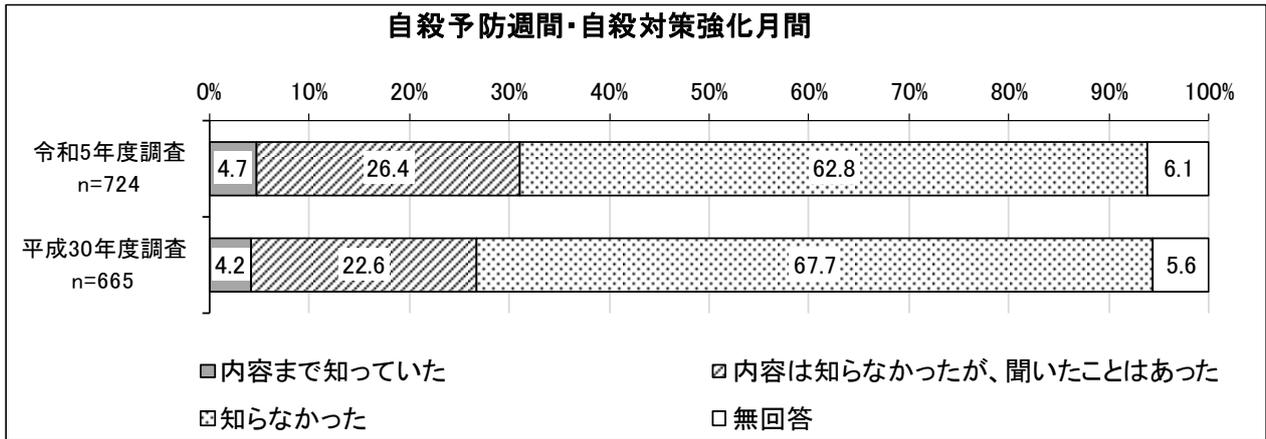


問 13 自殺対策に関する以下の事項について、どの程度ご存じでしたか。（それぞれ SA）

最も認知度が高いのは、「いのちの電話（茨城いのちの電話）」で、「内容まで知っていた」が14.8%、「内容は知らなかったが、聞いたことはあった」が59.0%、となっています。「知らなかった」は、「ゲートキーパー」（82.3%）や「自殺予防週間・自殺対策強化月間」（62.8%）で特に比率が高くなっています。

前回調査と比較してすべての項目において、「内容まで知っていた」、「内容は知らなかったが、聞いたことはあった」の比率が高くなっています。

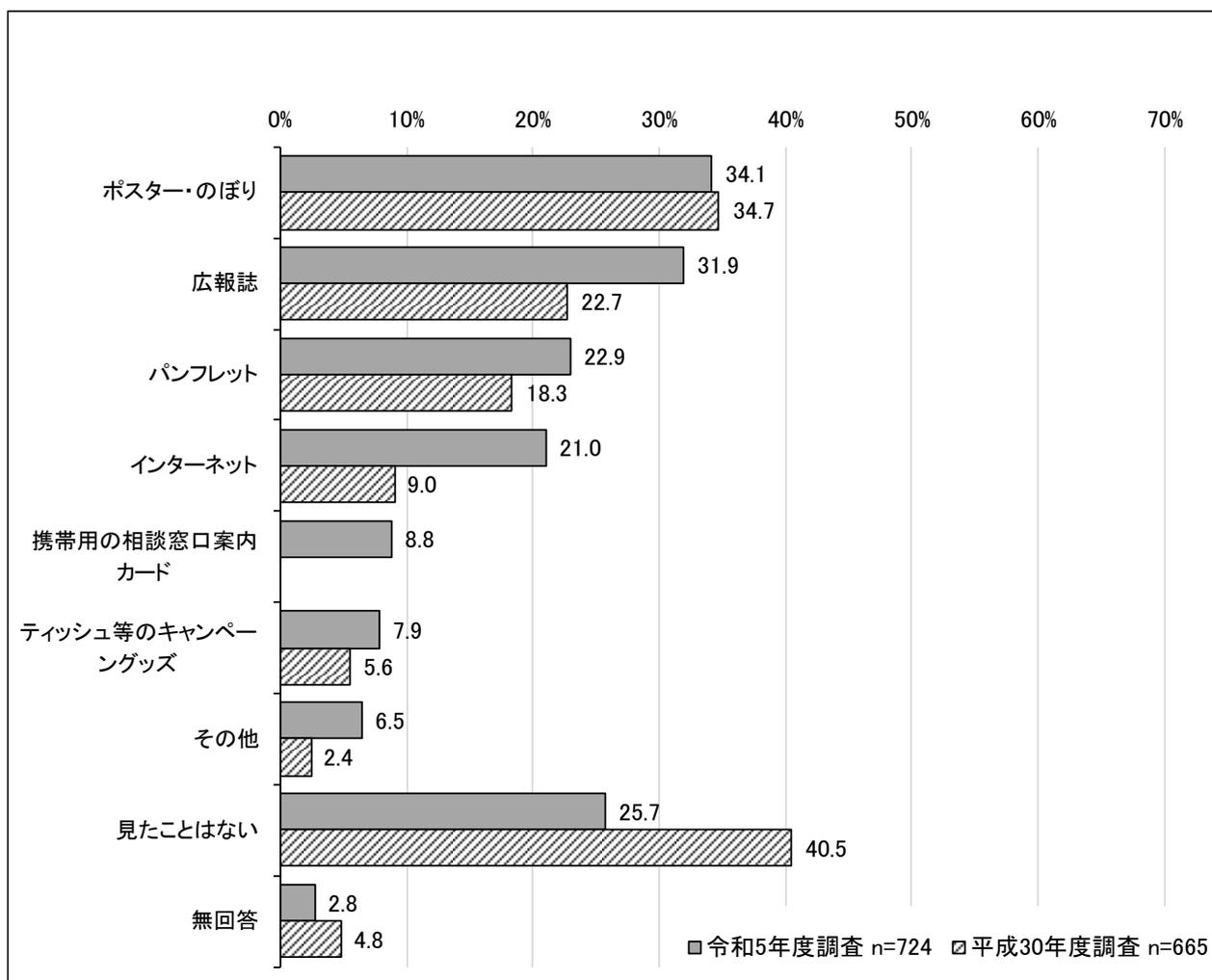




問 14 あなたはこれまで自殺対策に関するどのような啓発物等を見たことがありますか。(MA)

見たことがある啓発物は、「ポスター・のぼり」が34.1%で最も高く、以下、「広報誌」(31.9%)、「パンフレット」(22.9%)、「インターネット」(21.0%)と続いています。一方、「見たことはない」は25.7%となっています。

前回調査と比較して「見たことはない」の比率が特に低くなっています。



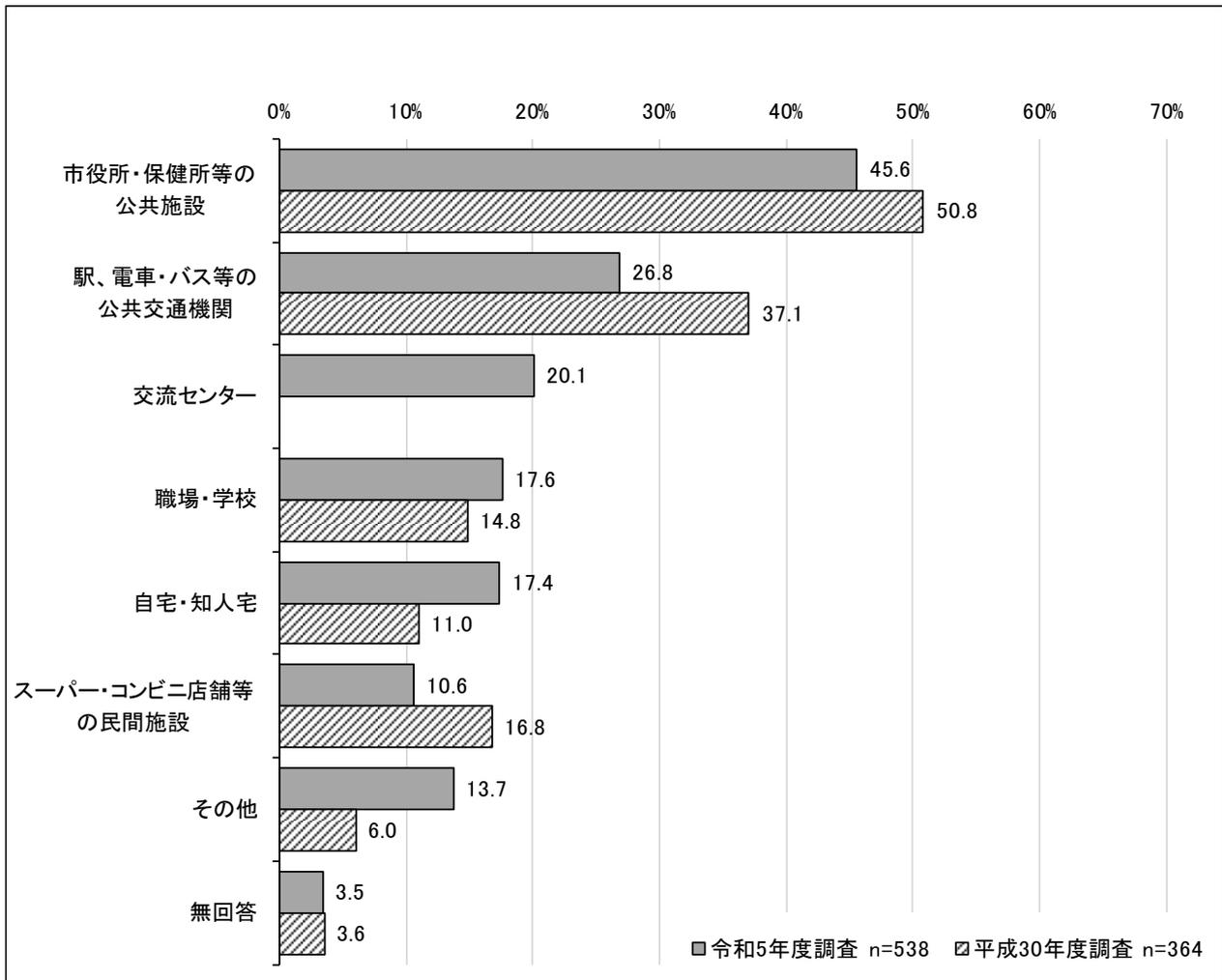
【問 14 で「啓発物等を見たことがある」と回答した方にお尋ねします。】

問 15 その啓発物等は、どこで見ましたか。(MA)

※選択肢「2. 交流センター」は今回調査より追加

啓発物等をどこを見たかについては、「市役所・保健所等の公共施設」が45.6%で最も高く、以下、「駅、電車・バス等の公共交通機関」(26.8%)、「交流センター」(20.1%)と続いています。

前回調査と比較して「駅、電車・バス等の公共交通機関」の比率が特に低くなっています。

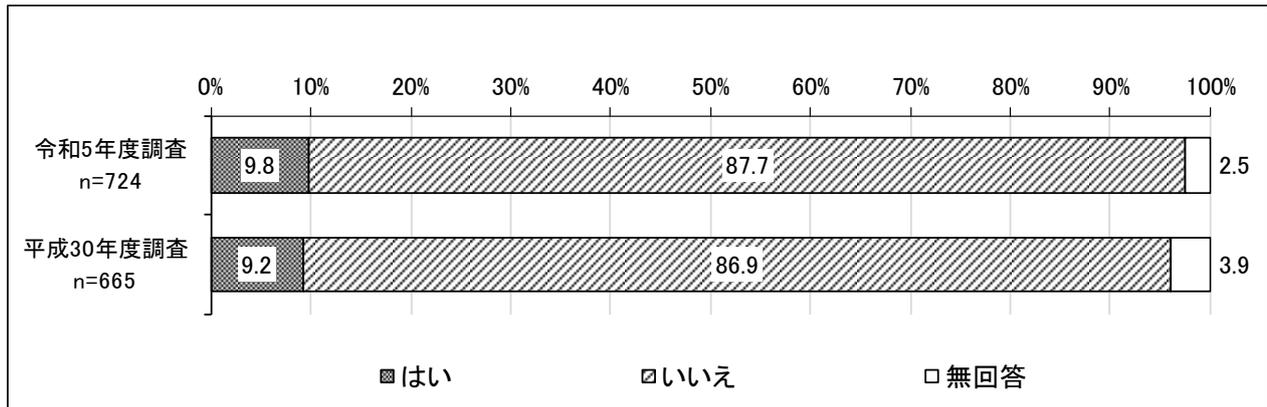


問 16 日立市では、毎年、自殺を防止するため、精神疾患や心の健康づくりに関する正しい知識を普及する講演会を開催していますが、知っていましたか。(SA)

※前回調査(平成30年度実施)「日立市では、毎年、自殺を防止するため、自殺と関連の深いうつ病を予防するための講演会を開催していますが、知っていましたか」から、本設問へ変更

講演会を開催していることを知っていたかについては、「はい」は9.8%であり、「いいえ」が87.7%と多数を占めています。

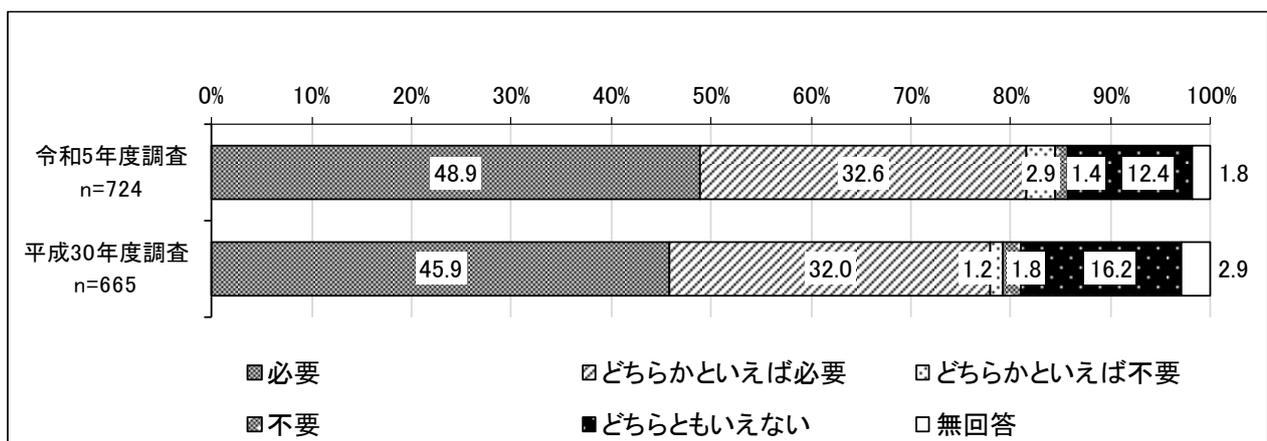
前回調査と比較して、大きな変化はありません。



問 17 自殺対策に関するPR活動(啓発物や講演会など)について必要だと思いますか。(SA)

自殺対策に関するPR活動について、「必要」(48.9%)と「どちらかといえば必要」(32.6%)を合わせた『必要』は81.5%と多数を占めています。

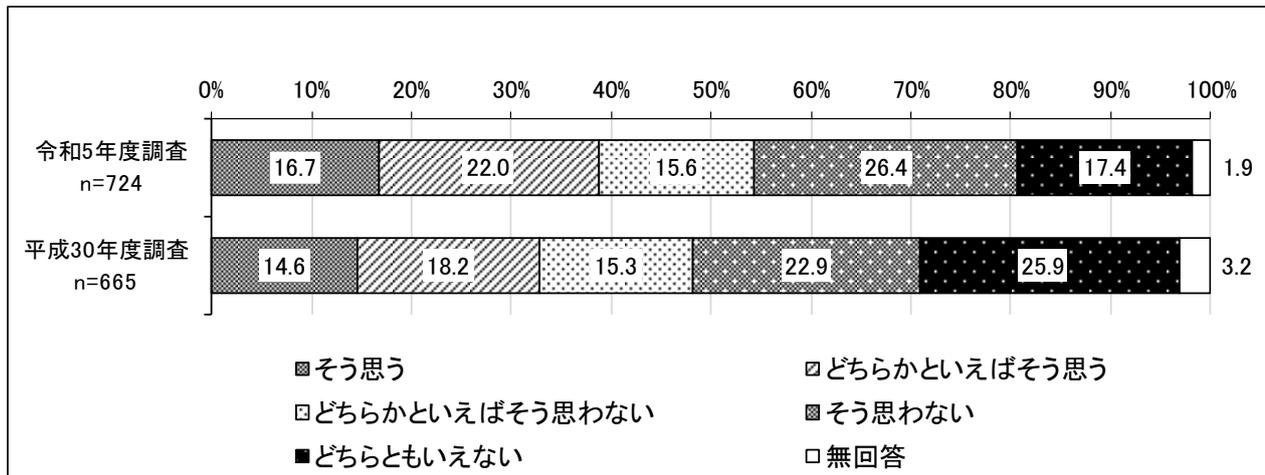
前回調査と比較して『必要』の比率が高くなっています。



問 18 自殺対策は自分自身に関わる問題だと思いますか。(SA)

自殺対策は自分自身に関わる問題だと思うかについては、「そう思う」(16.7%)と「どちらかといえばそう思う」(22.0%)を合わせた『思う』は38.7%であるのに対し、「そう思わない」(26.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(15.6%)を合わせた『思わない』は42.0%となっており、『思わない』と回答した方が多い結果となっています。

前回調査と比較して『思う』と『思わない』の比率の差が少なくなっています。



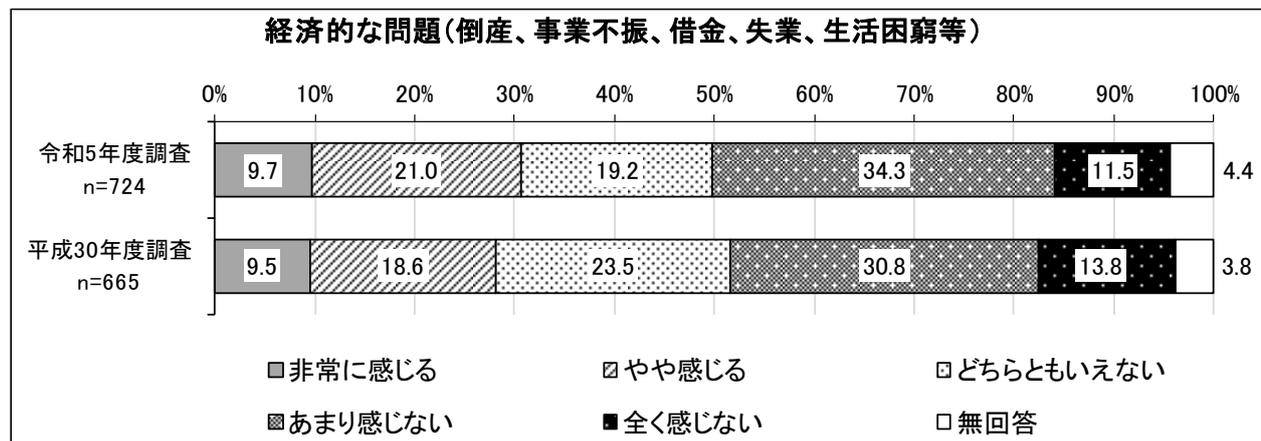
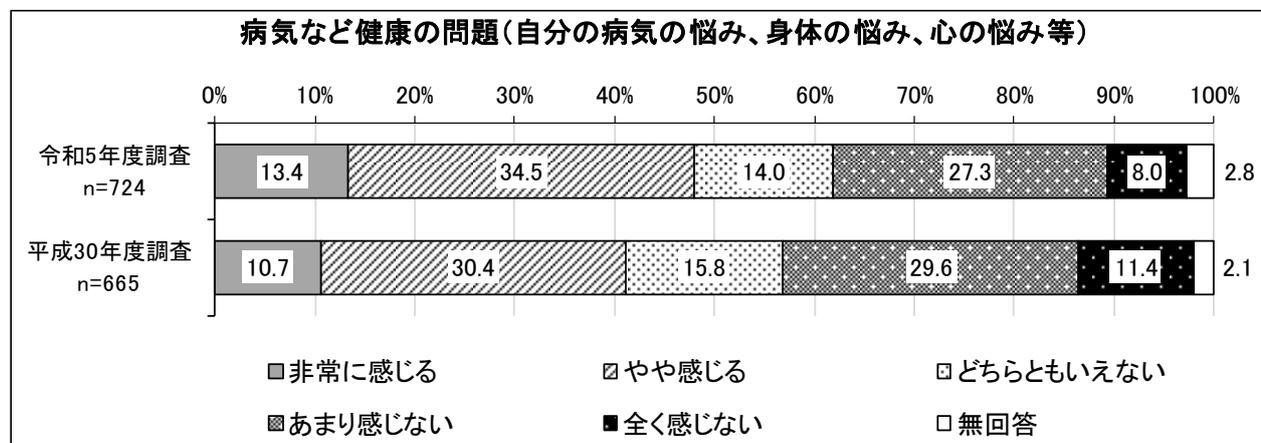
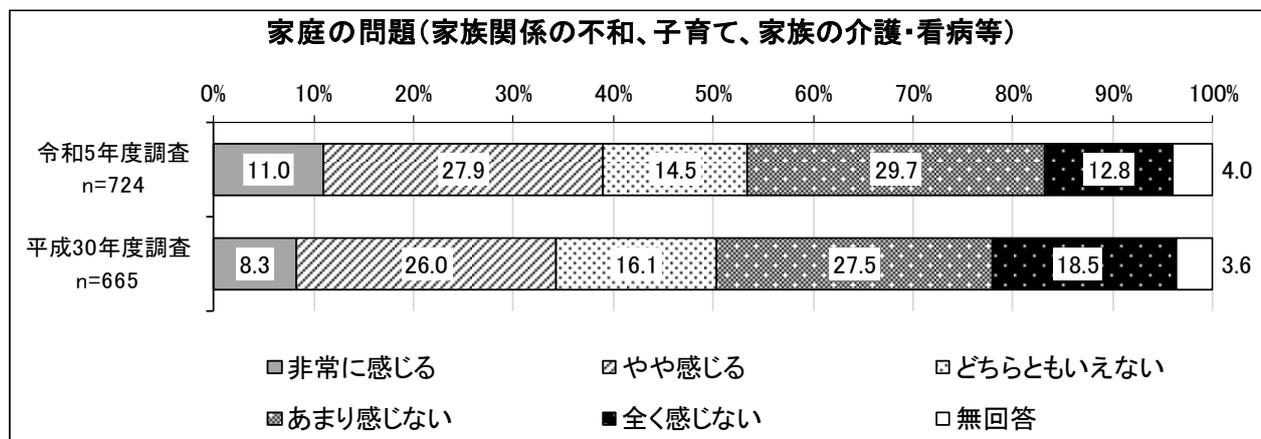
3 悩みやストレスに関することについて

問 19 あなたは日頃、以下の問題に関して、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じることはありませんか。（それぞれ SA）

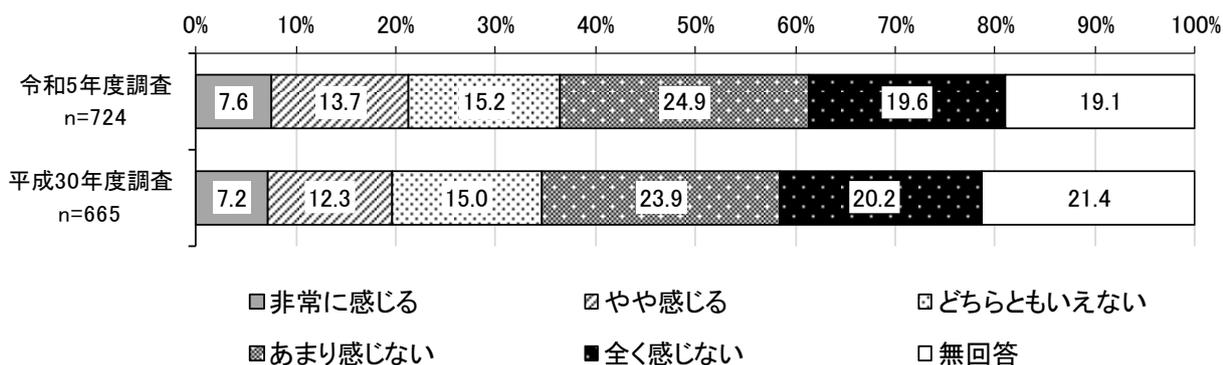
悩みや苦勞、ストレス、不満を感じることについては、「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率が高いのは、「病気など健康の問題」（47.9%）や「家庭の問題」（38.9%）、「経済的な問題」（30.7%）となっています。

前回調査と比較して、すべての選択肢において『感じる』の比率が高くなっています。

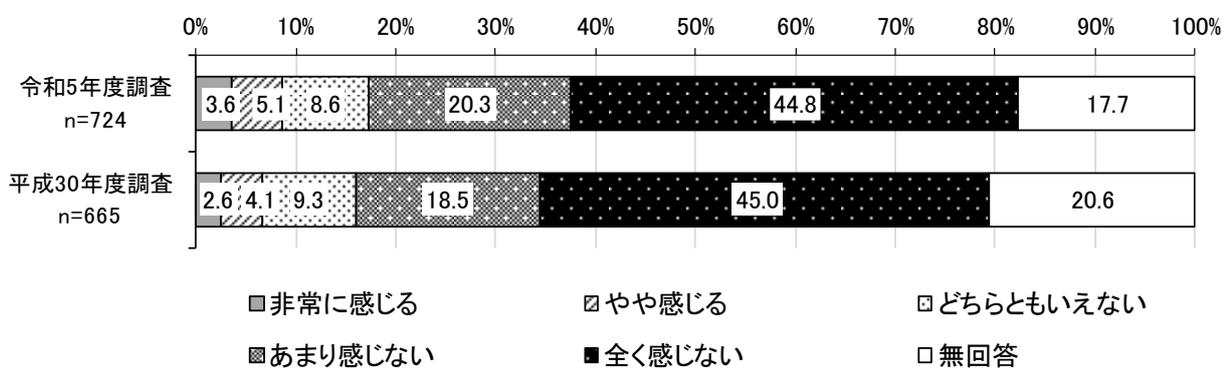
「その他」に記載があったのは 33 名で、「将来の問題」、「災害の問題」、「町内の問題」などがありました。



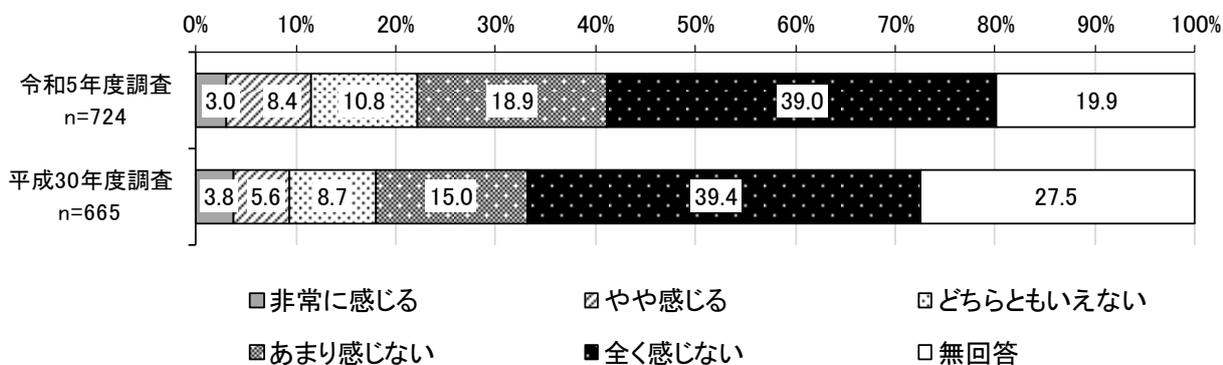
勤務関係の問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)



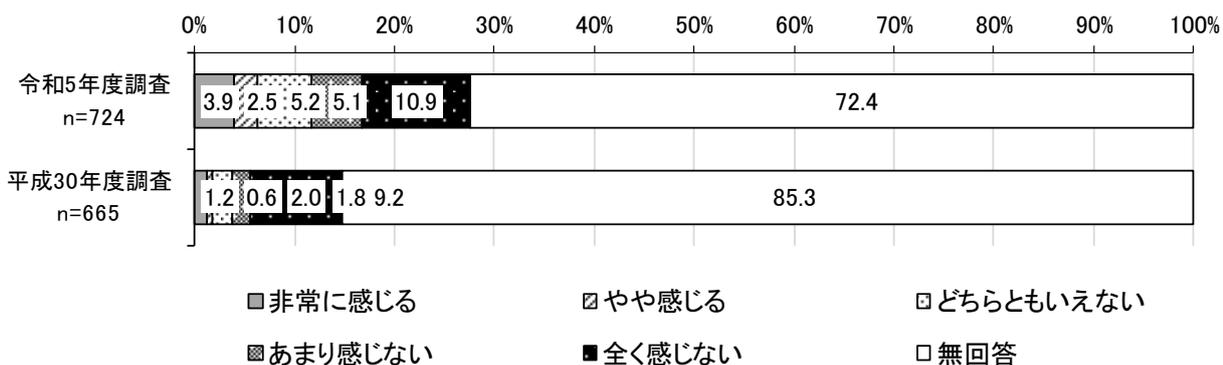
恋愛関係の問題(失恋、結婚を巡る悩み等)



学校の問題(いじめ、学業不振、先生や友人との人間関係等)



その他

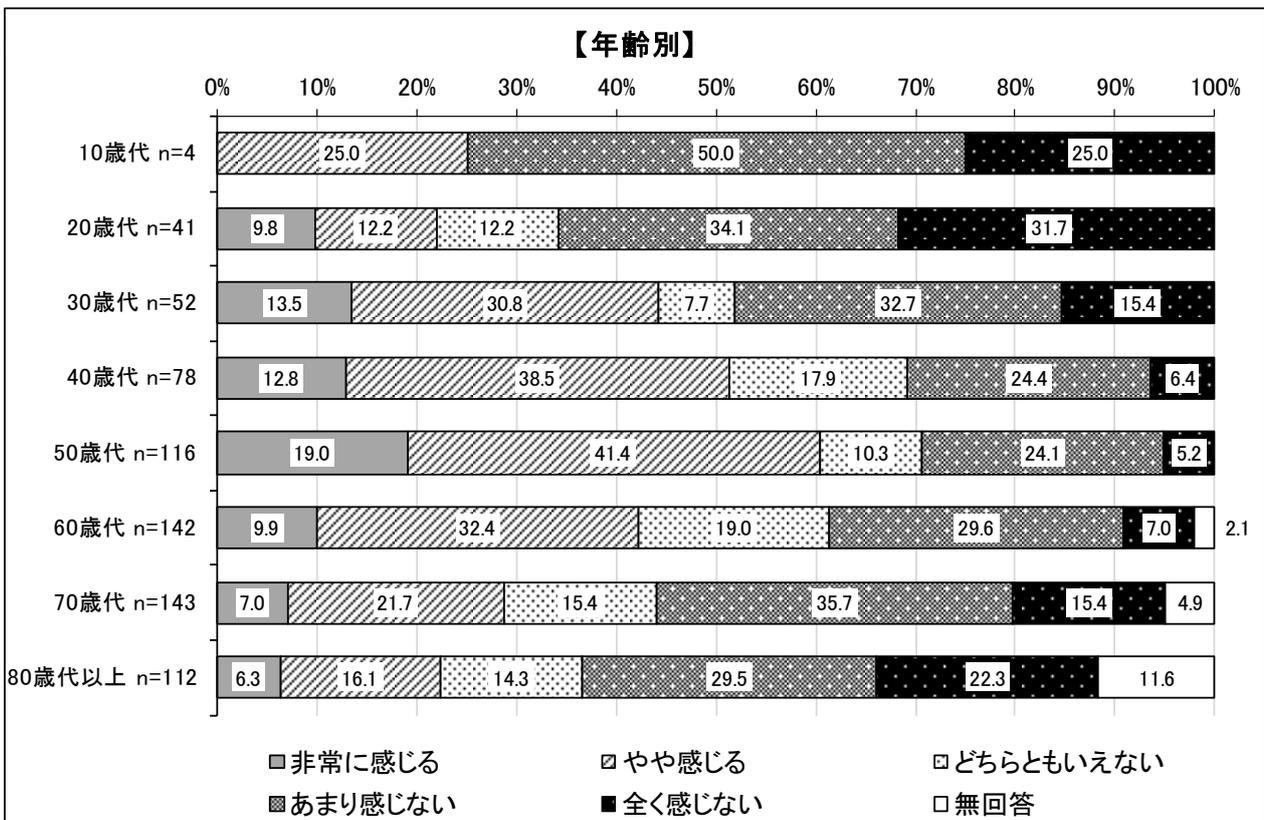
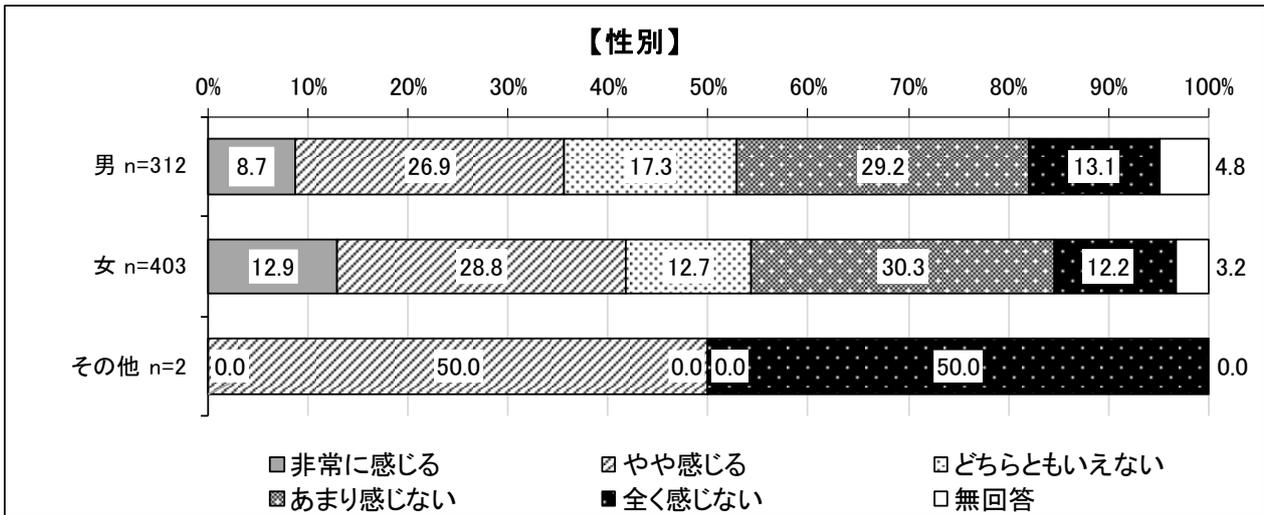


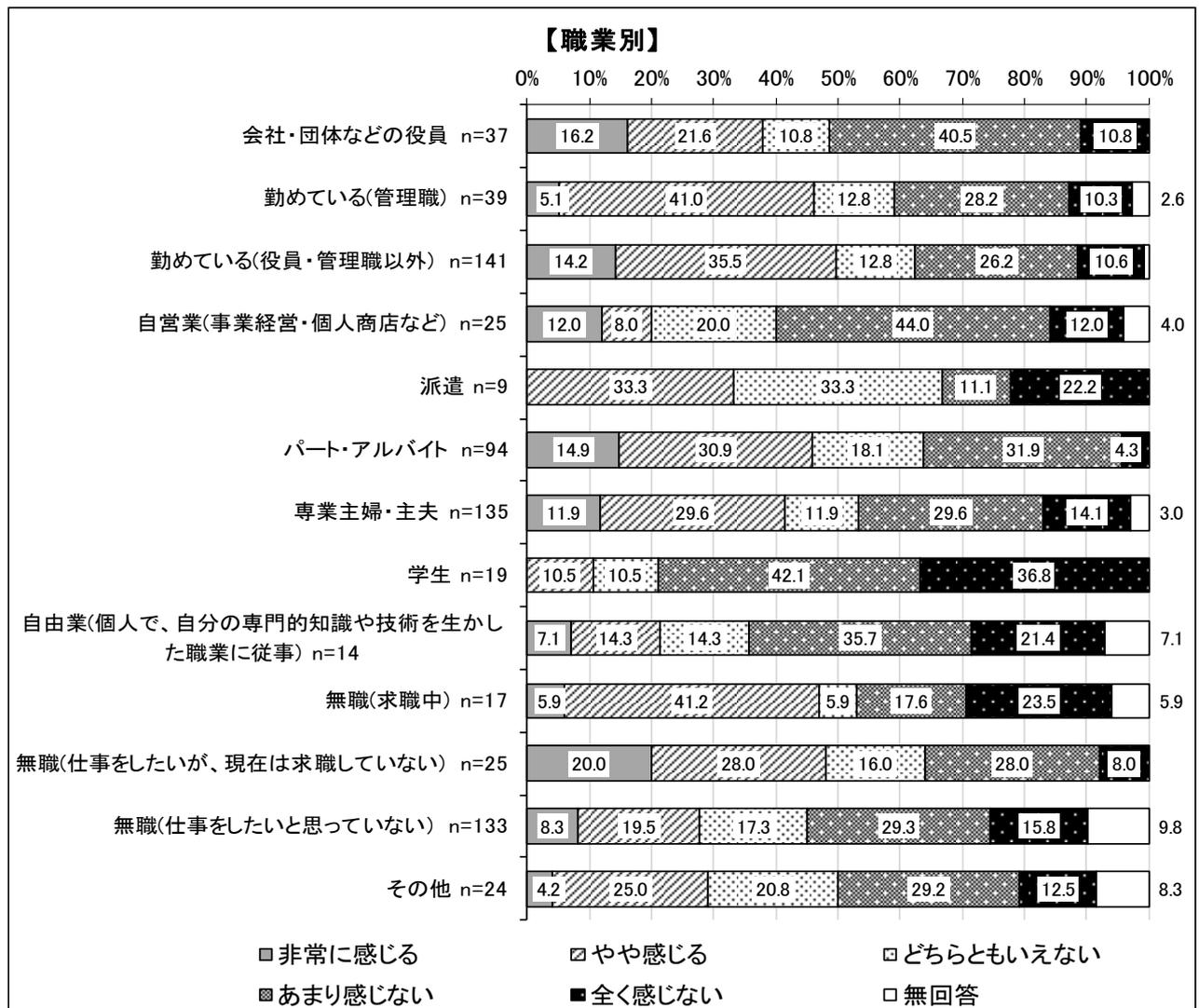
〔家庭の問題〕

家庭の問題について性別にみると、『感じる』は“女性”（41.7%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“30歳代”から“60歳代”で比率が高くなっています。

職業別にみると、『感じる』は“役員・管理職以外”（49.7%）や“無職（仕事をしたいが、現在は求職していない）”（48.0%）で高い比率となっています。



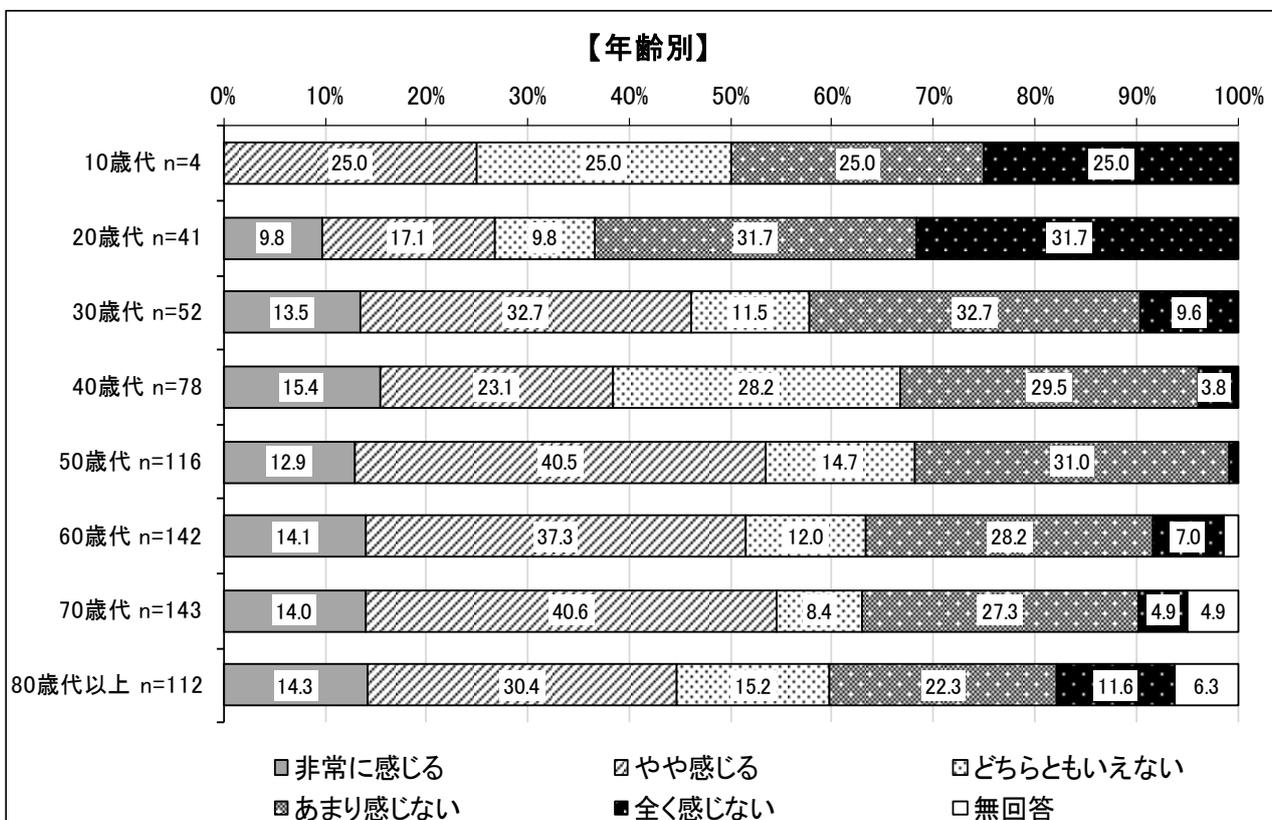
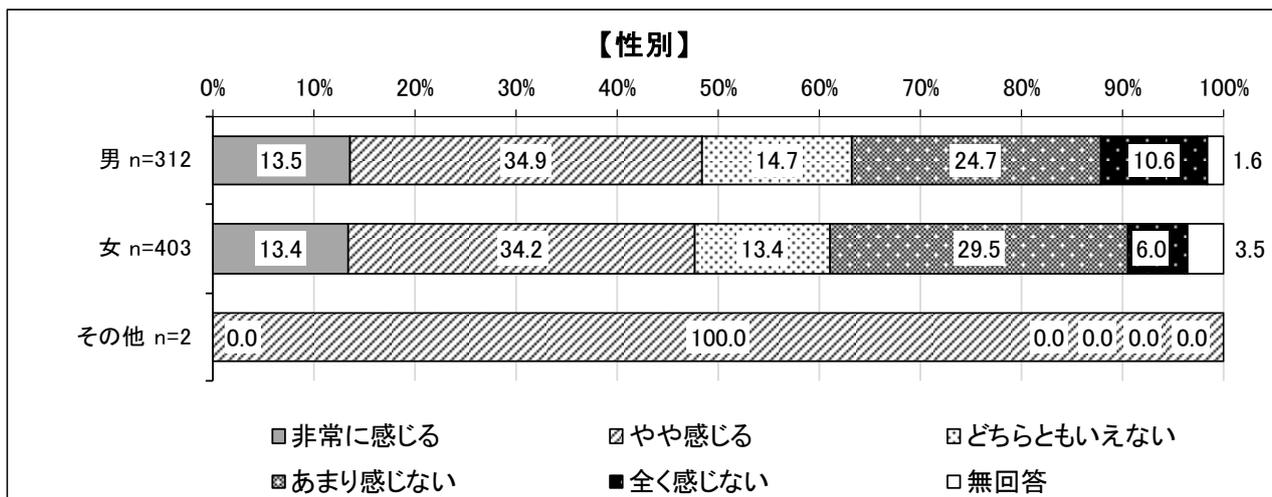


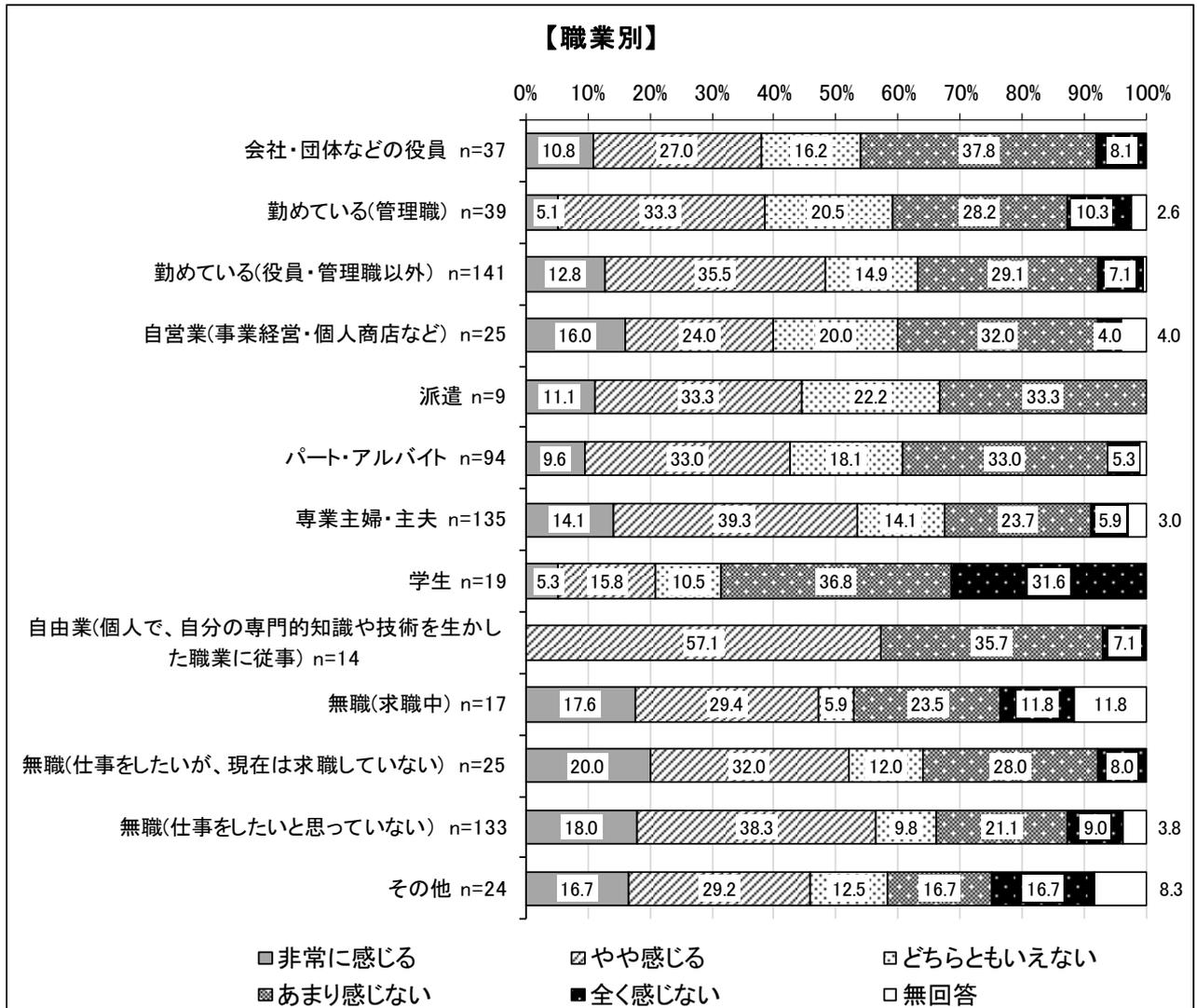
〔病気などの健康の問題〕

病気などの健康の問題について性別にみると、『感じる』は“男性”（48.4%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“70歳代”（54.6%）、“50歳代”（53.4%）の比率が高くなっています。

職業別にみると、『感じる』は“自由業”（57.1%）、“無職（仕事をしたいと思っていない）”（56.3%）、“専業主婦・主夫”（53.4%）で高い比率になっています。



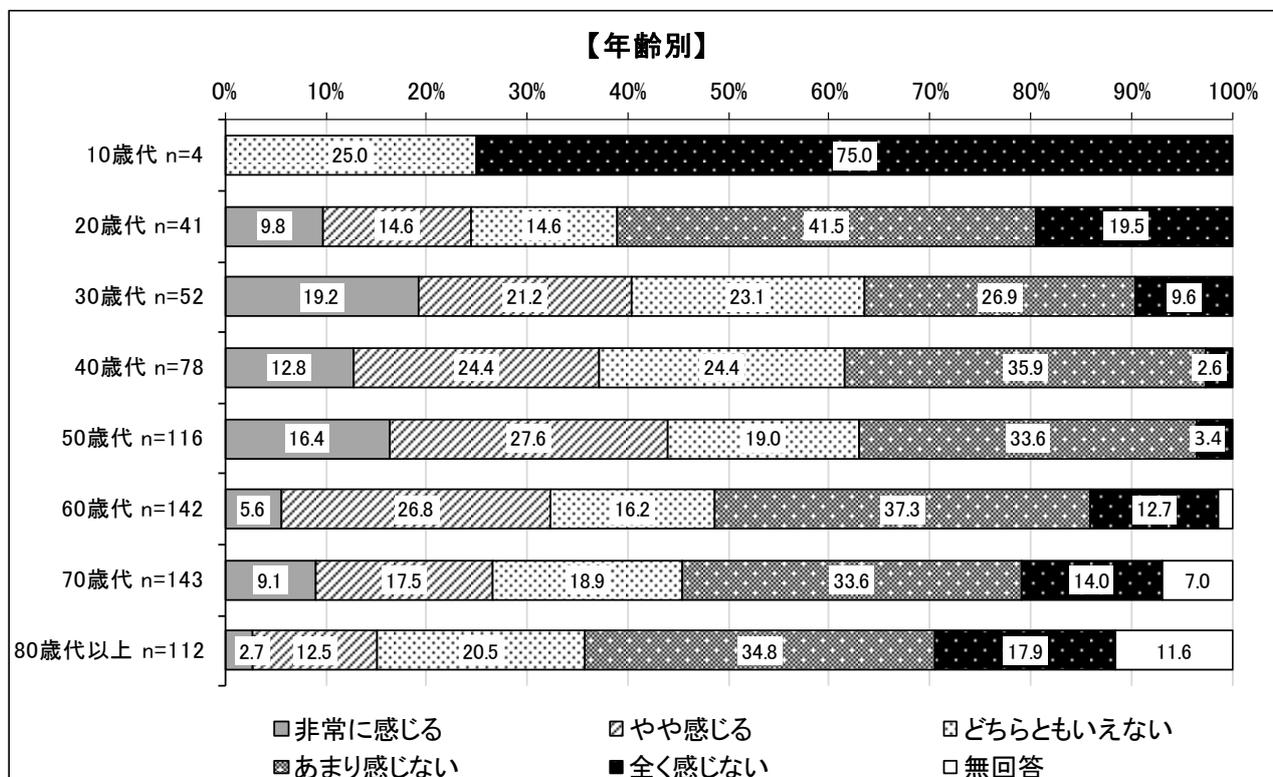
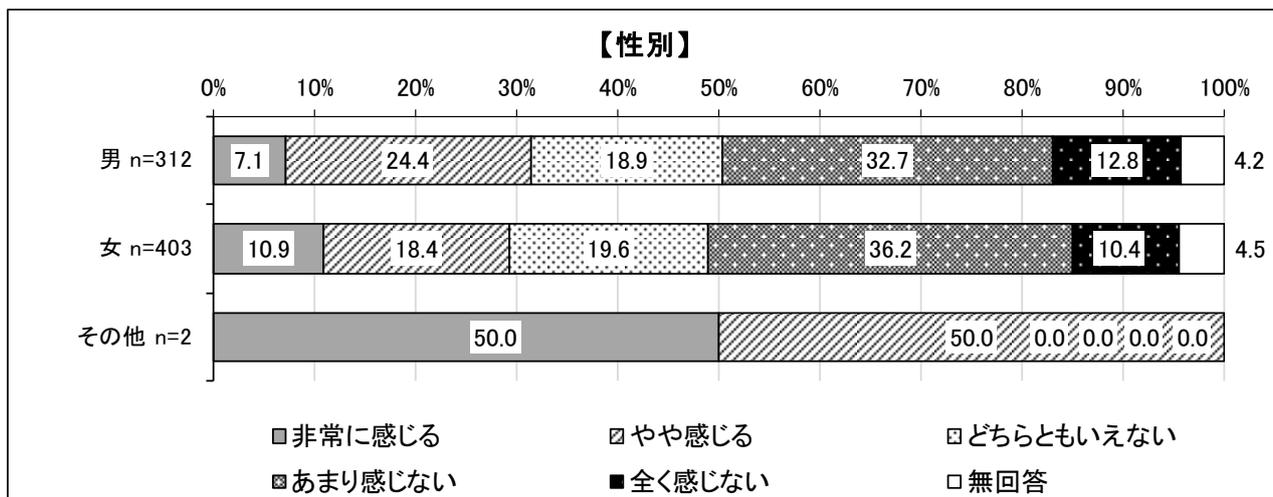


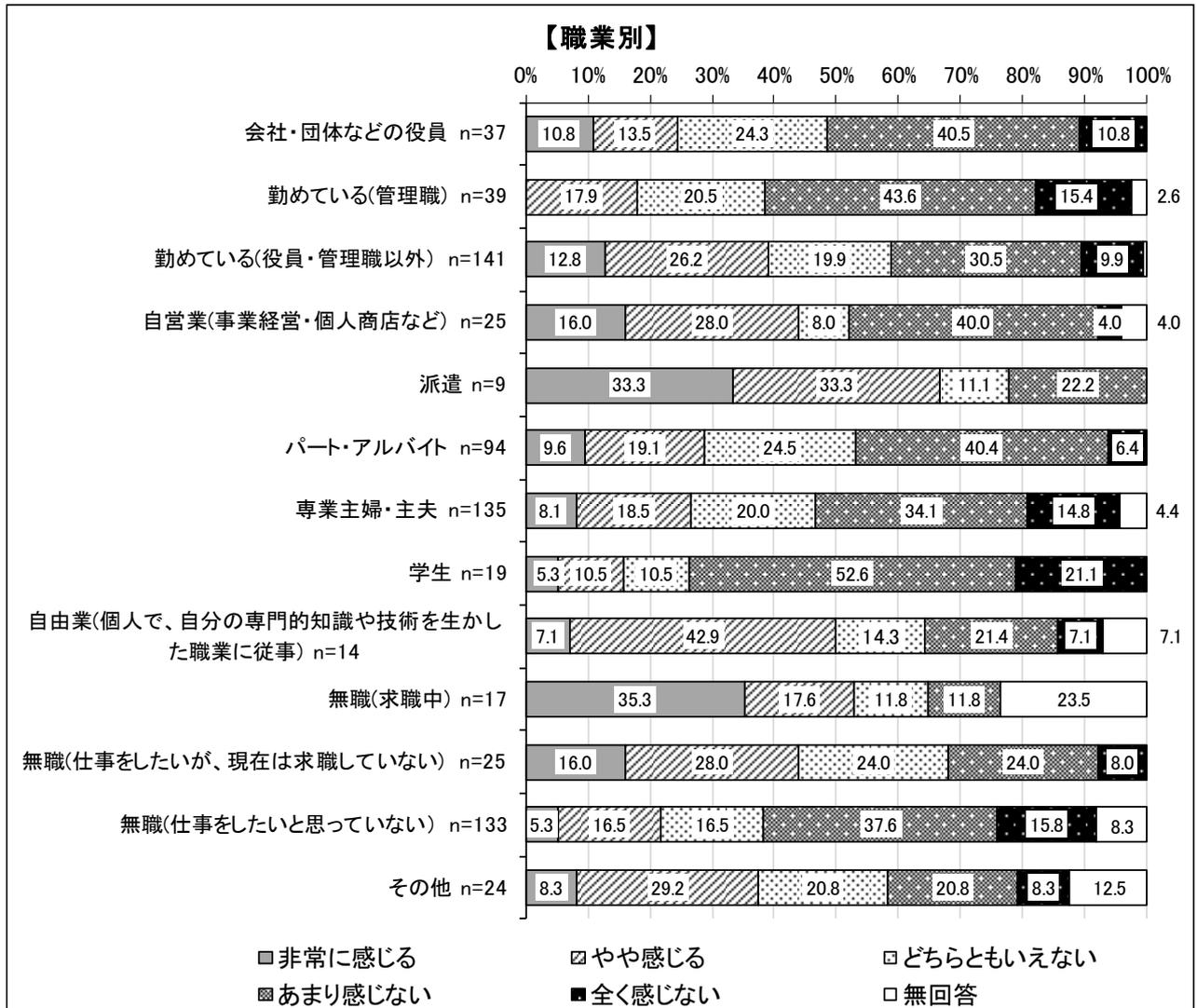
〔経済的な問題〕

経済的な問題について性別にみると、『感じる』は“男性”（31.5%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“50歳代”が44.0%で最も高くなっており、以下、“30歳代”が40.4%、“40歳代”が37.2%、“60歳代”が32.4%と続いています。

職業別にみると、『感じる』は“派遣”（66.6%）や“無職（求職中）”（52.9%）、“自由業”（50.0%）などで比率が高くなっています。



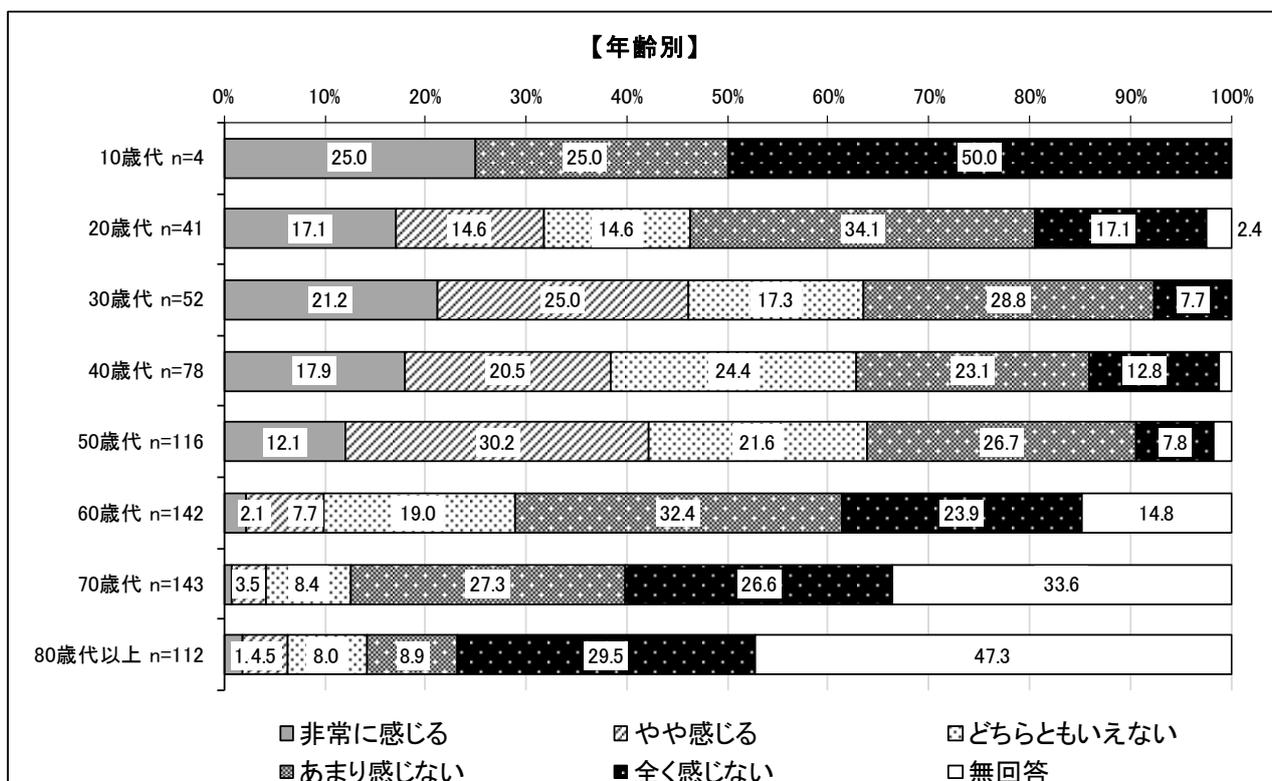
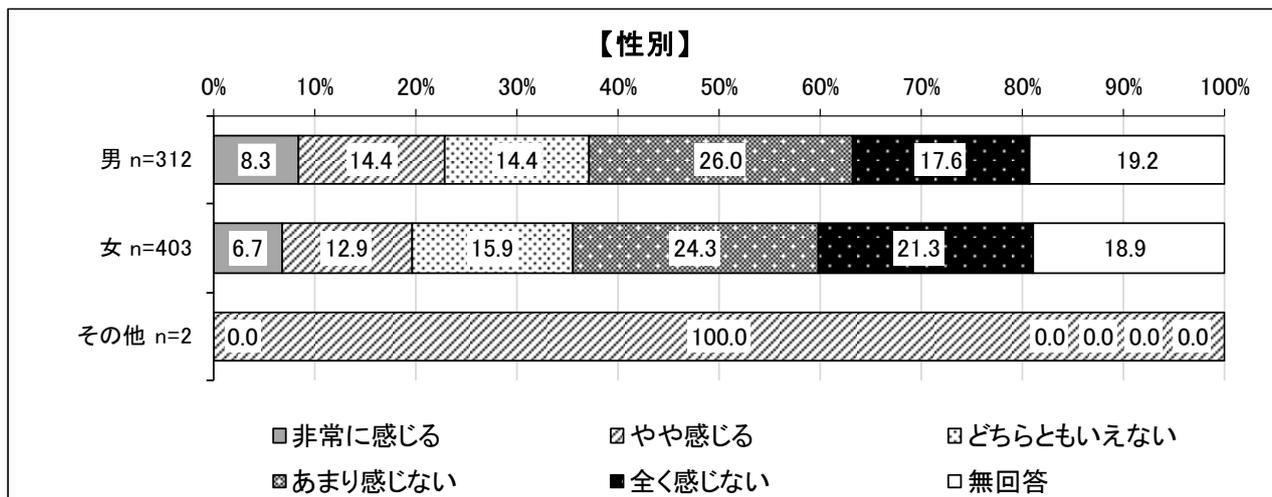


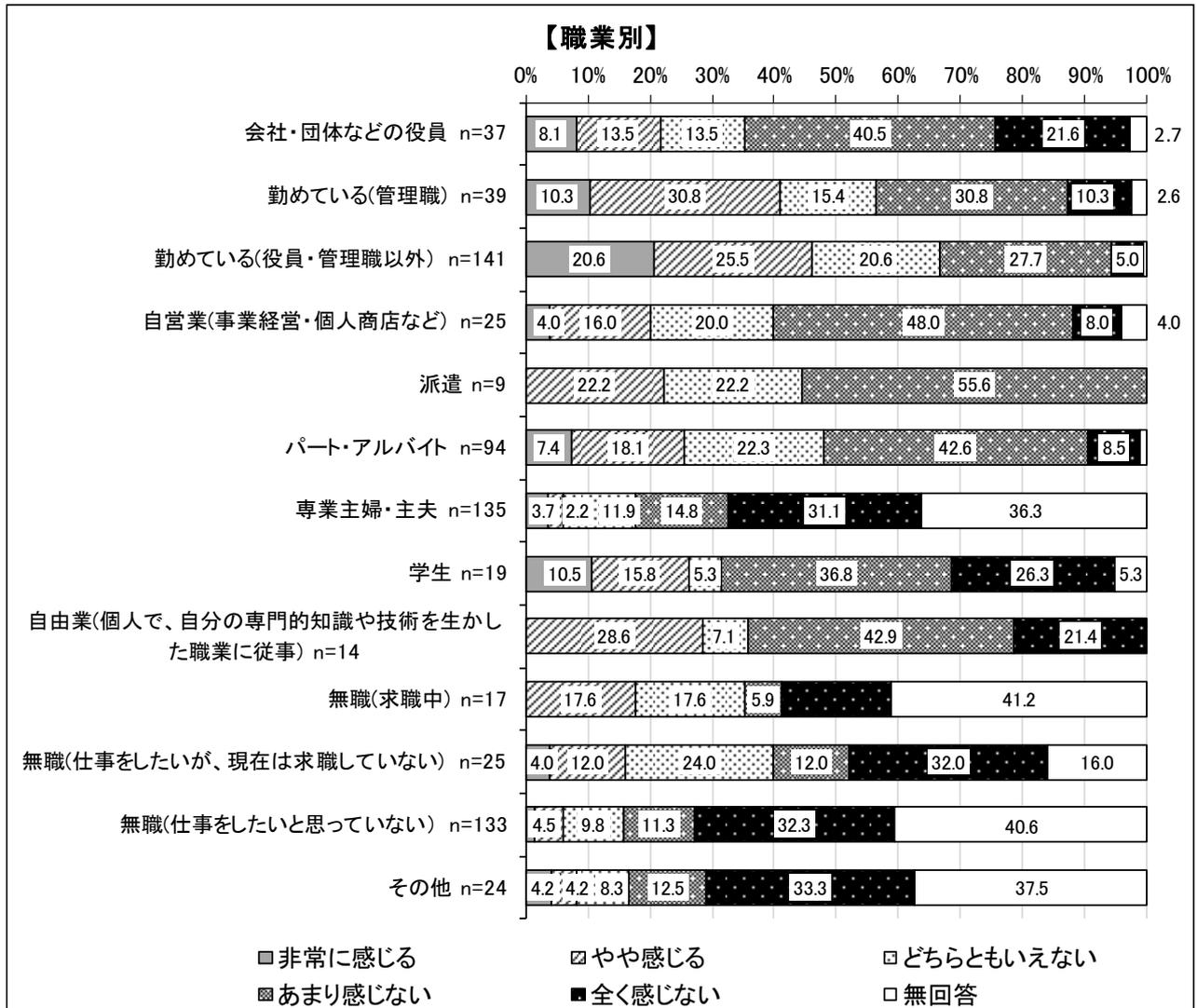
〔勤務関係の問題〕

勤務関係の問題について性別にみると、『感じる』は“男性”（22.7%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“30歳代”が46.2%で最も高くなっており、以下、“50歳代”が42.3%、“40歳代”が38.4%、“20歳代”が31.7%と続いています。

職業別にみると、『感じる』は“勤めている(役員・管理職以外)”（46.1%）や“勤めている(管理職)”（41.1%）、“自由業”（28.6%）などで比率が高くなっています。



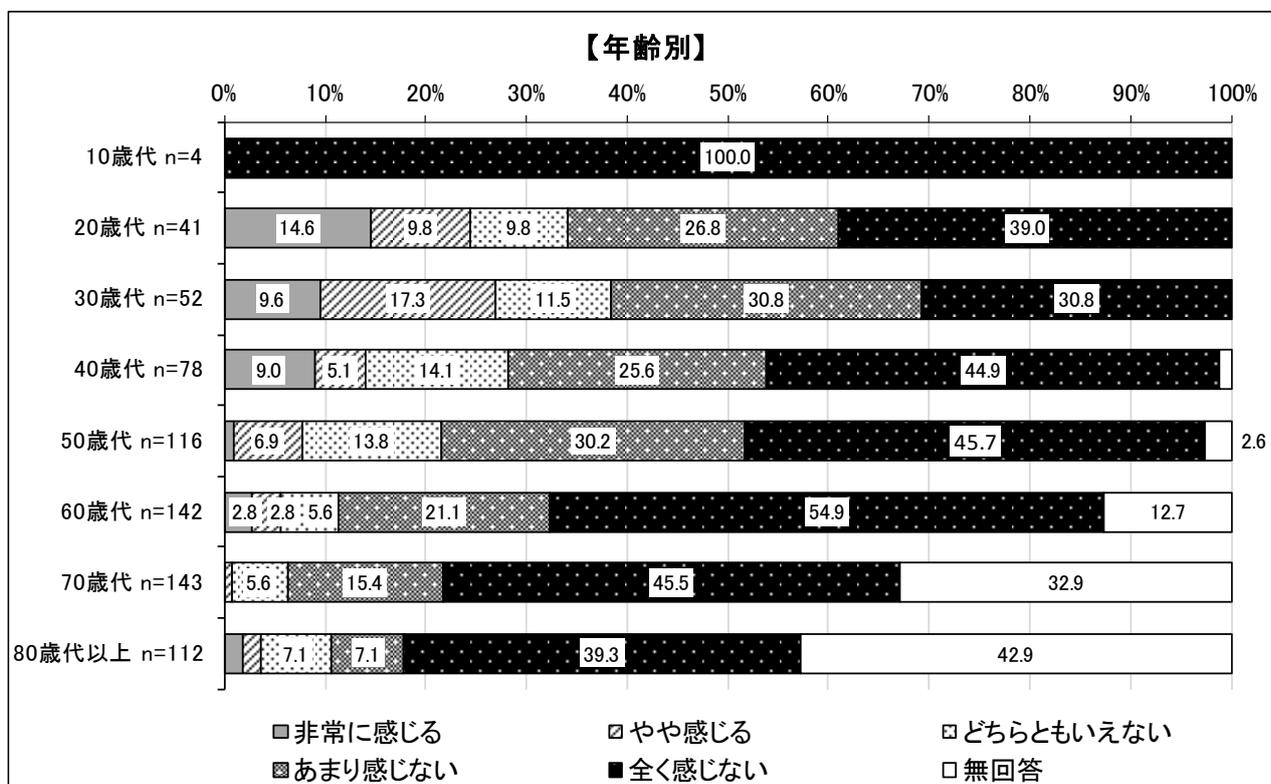
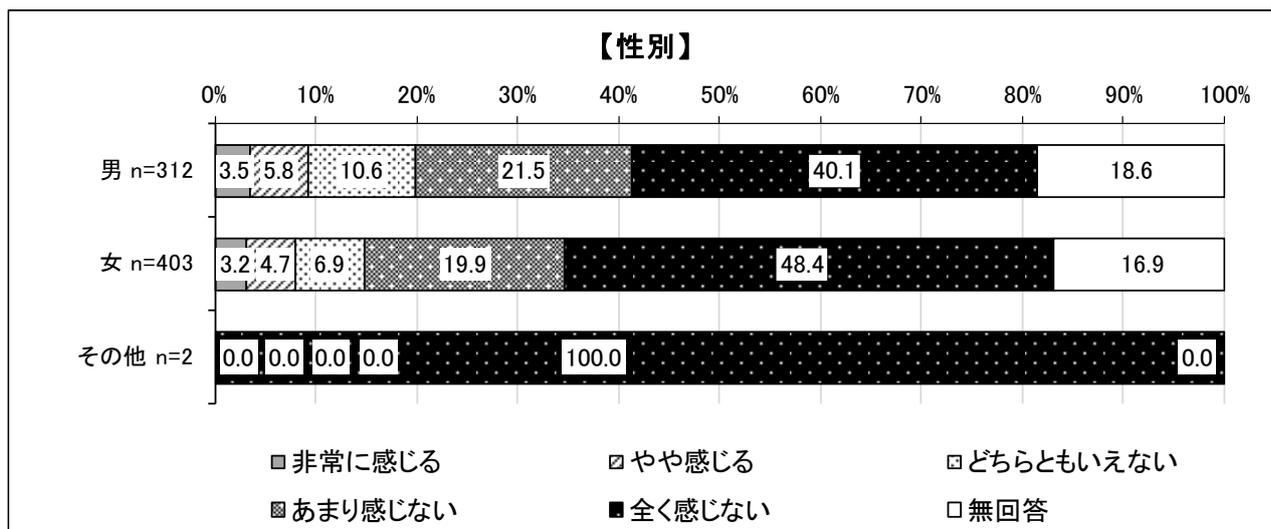


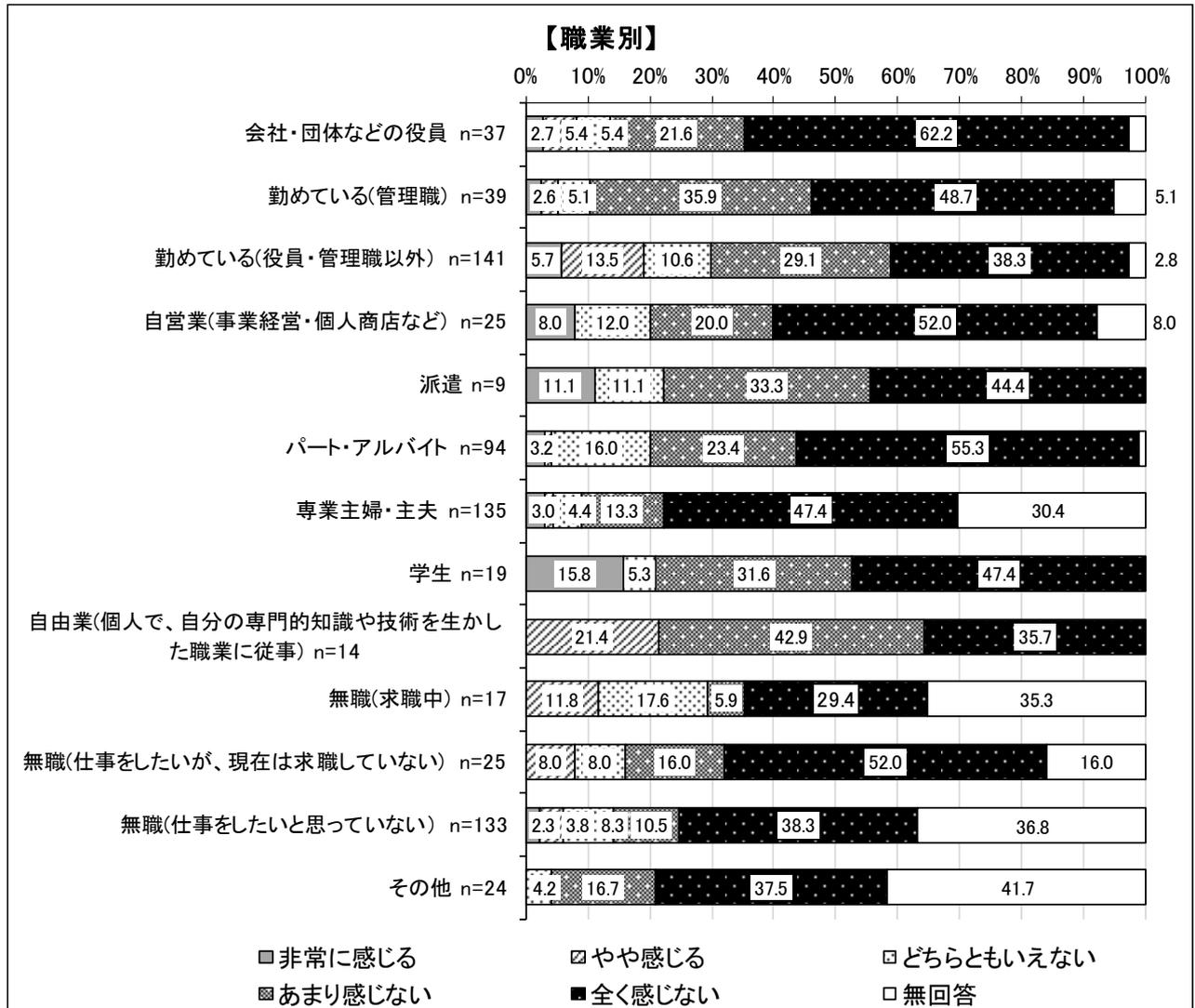
〔恋愛関係の問題〕

恋愛関係の問題について性別にみると、『感じる』の比率は“男性”（9.3%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“30歳代”が26.9%で最も高くなっており、以下、20歳代が24.4%、“40歳代”が14.1%と続いています。

職業別にみると、『感じる』は“自由業”（21.4%）や“勤めている（役員・管理職以外）”（19.2%）、“学生”（15.8%）などで比率が高くなっています。



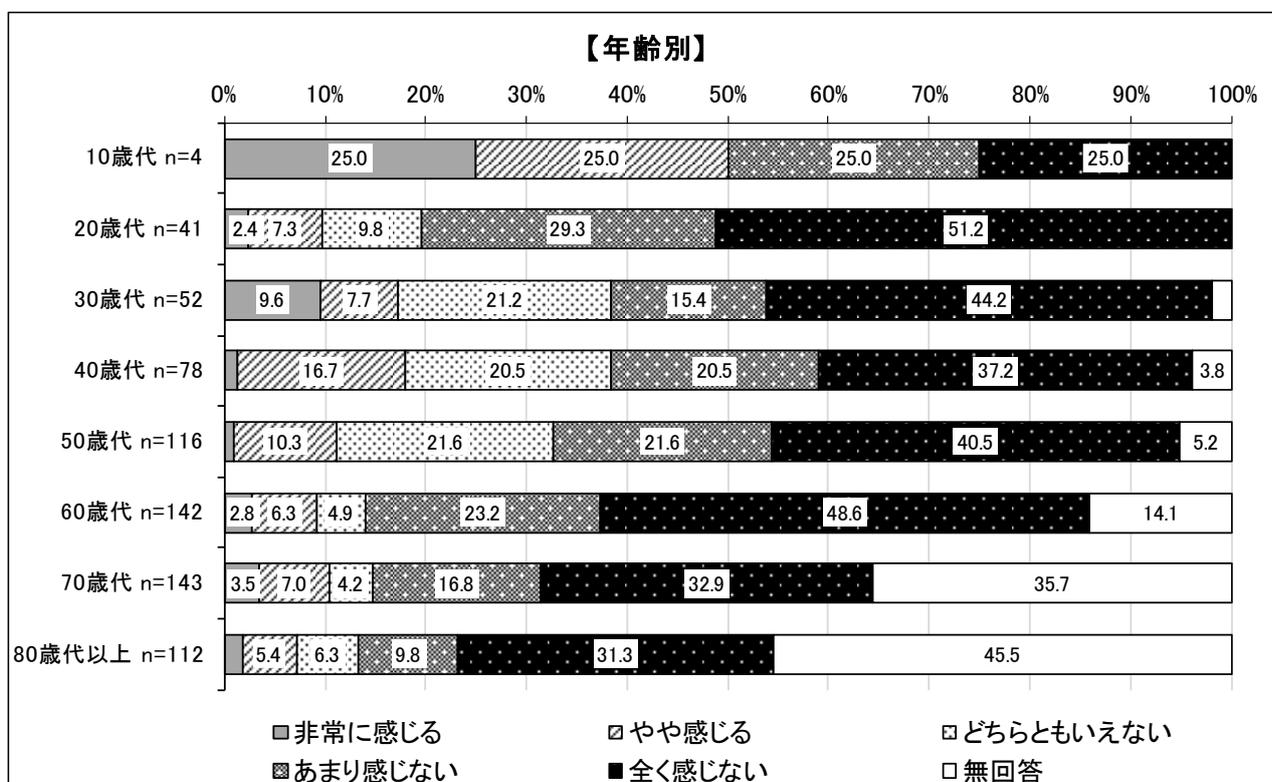
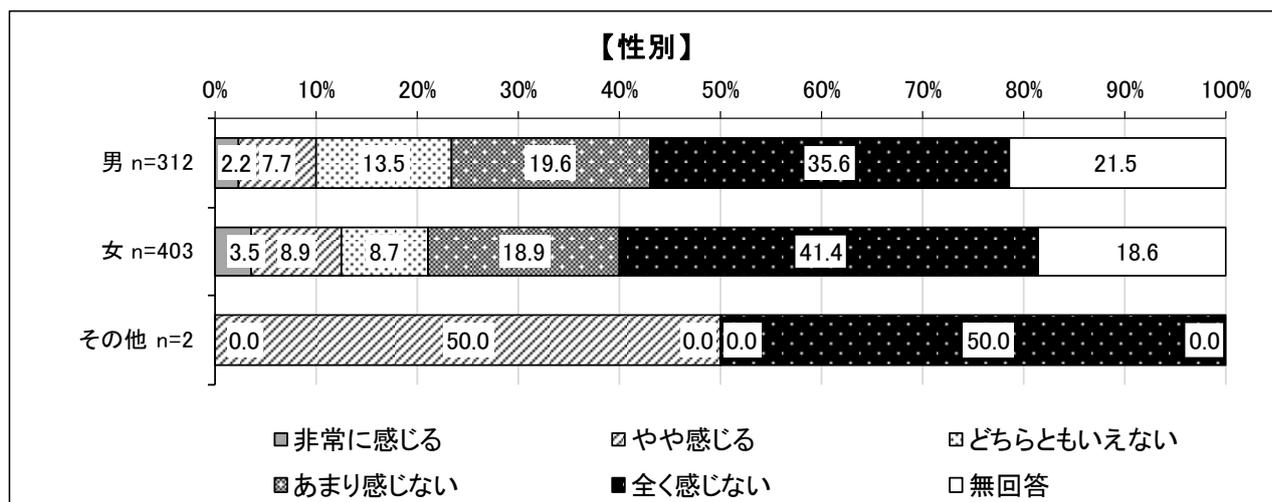


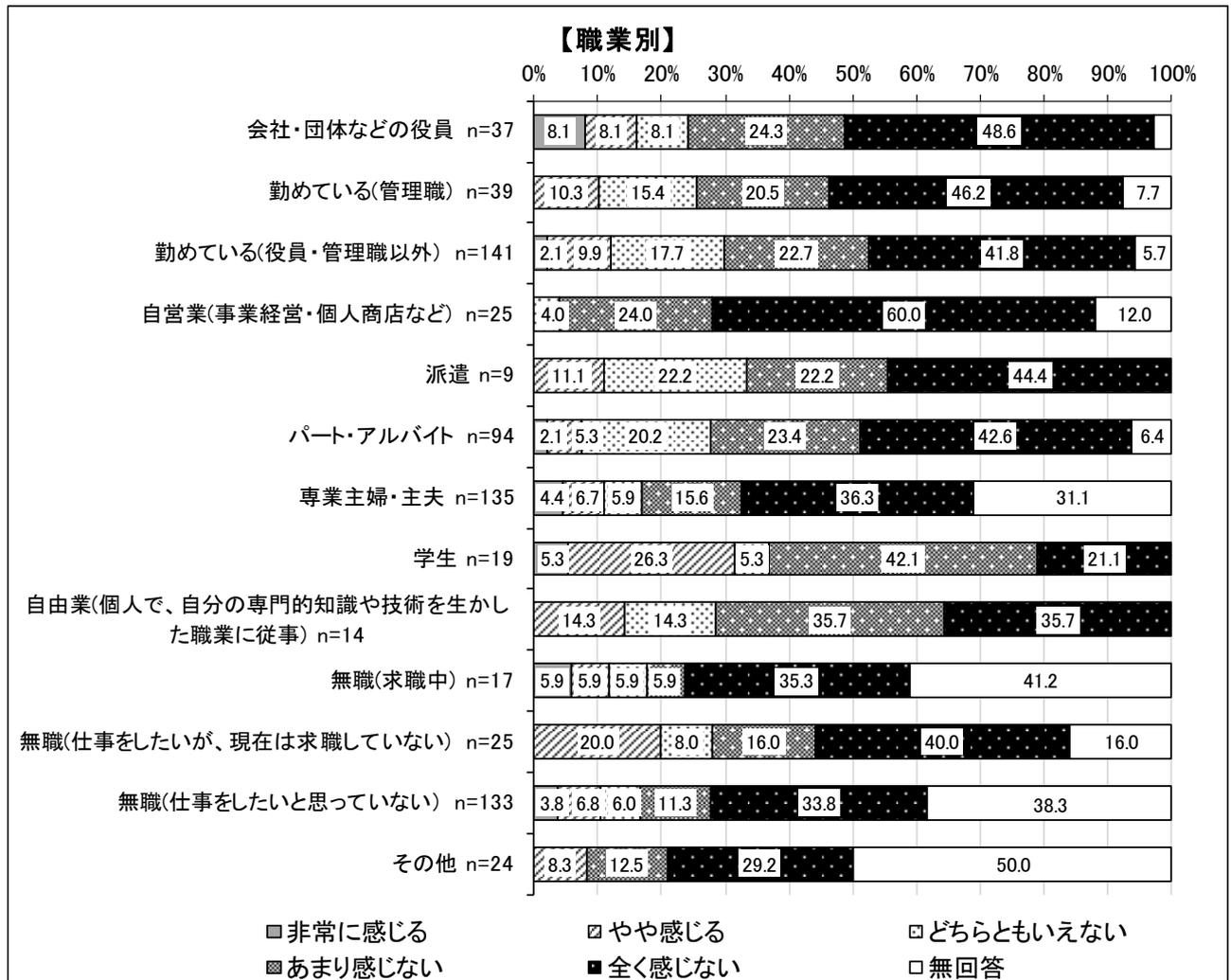
〔学校の問題〕

学校の問題について性別にみると、『感じる』の比率は“女性”（12.4%）の比率が高くなっています。

年齢別にみると、『感じる』は“10歳代”が50.0%で最も高くなっており、以下、“40歳代”が17.9%、“30歳代”が17.3%、“50歳代”が11.2%と続いています。

職業別にみると、『感じる』は“学生”（31.6%）や“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”（20.0%）、“会社・団体などの役員”（16.2%）などで比率が高くなっています。

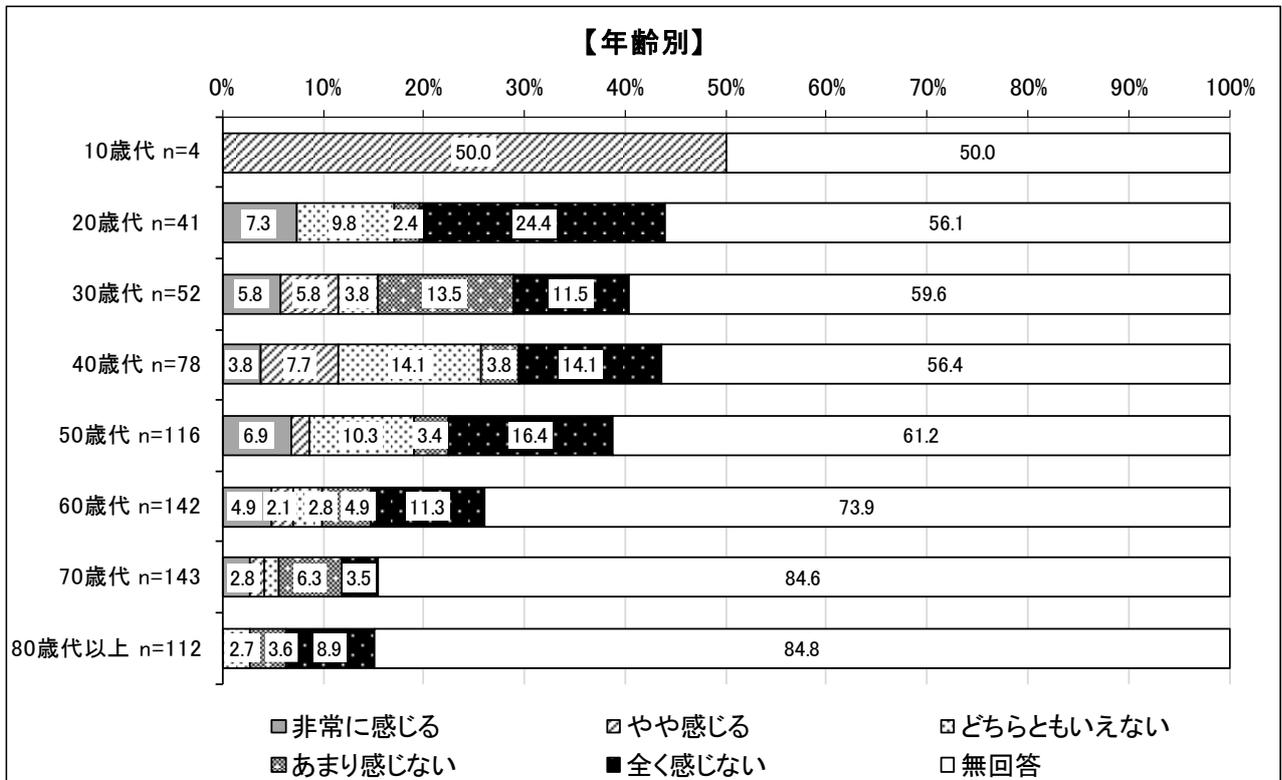
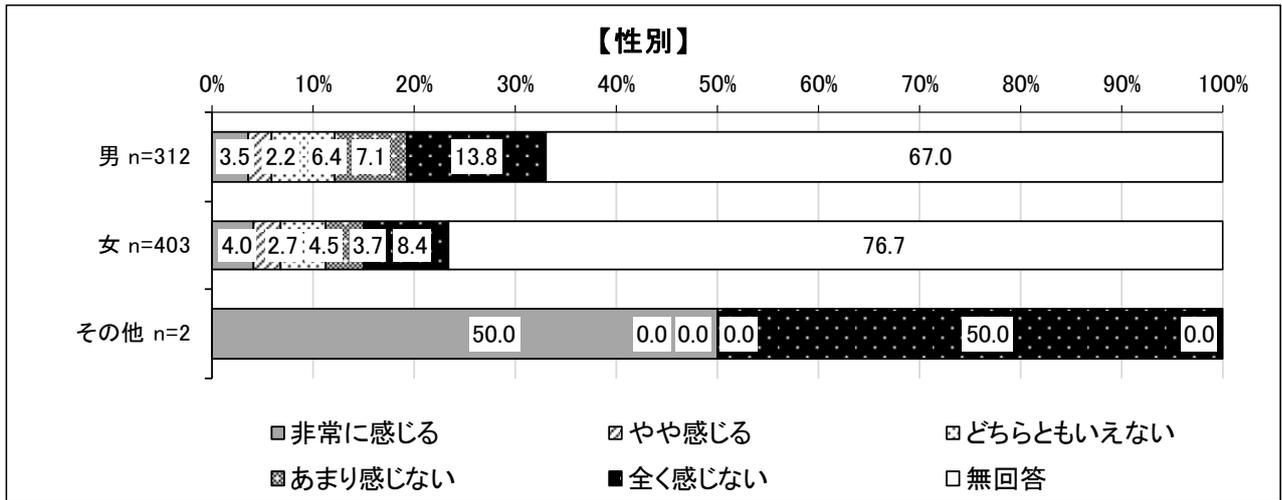


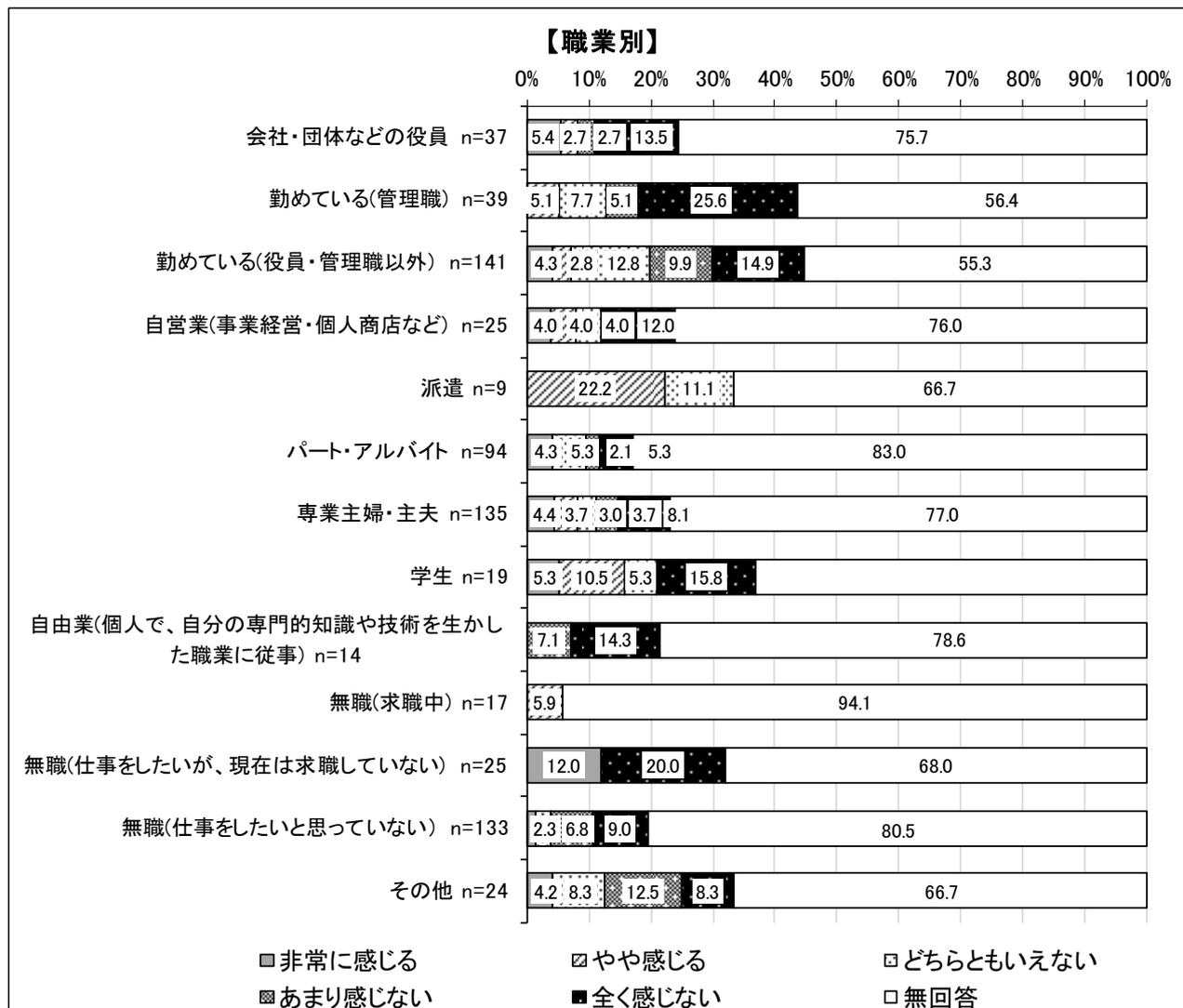


[その他]

その他について性別にみると、『感じる』の比率は“女性”（6.7%）の比率が高くなっています。年齢別にみると、『感じる』は“10歳代”が50.0%で最も高くなっており、以下、“30歳代”が11.6%、“40歳代”が11.5%、“50歳代”が8.6%と続いています。

職業別にみると、『感じる』は“派遣”（22.2%）や“学生”（15.8%）、“無職(仕事をしたいが、現在は求職していない)”（12.0%）などで比率が高くなっています。



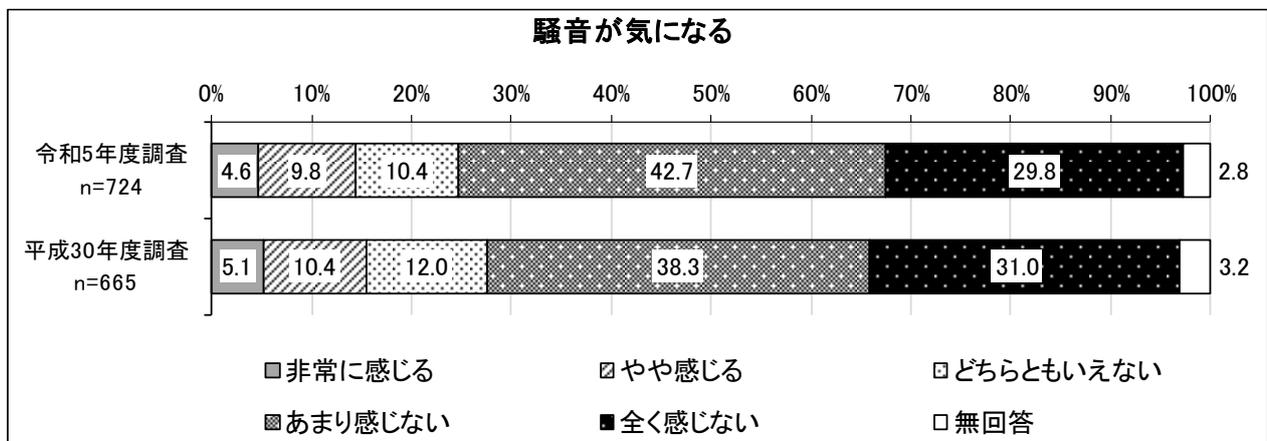
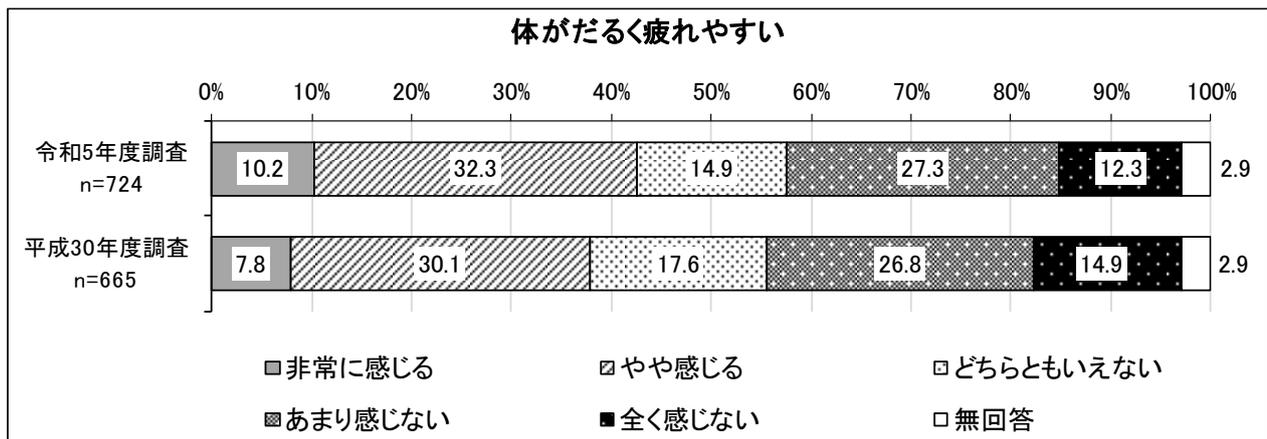
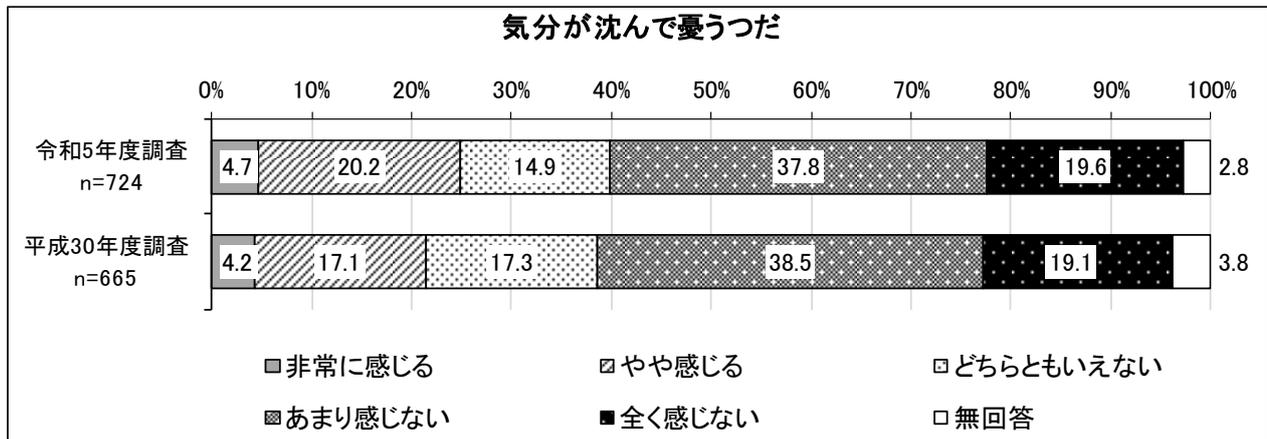


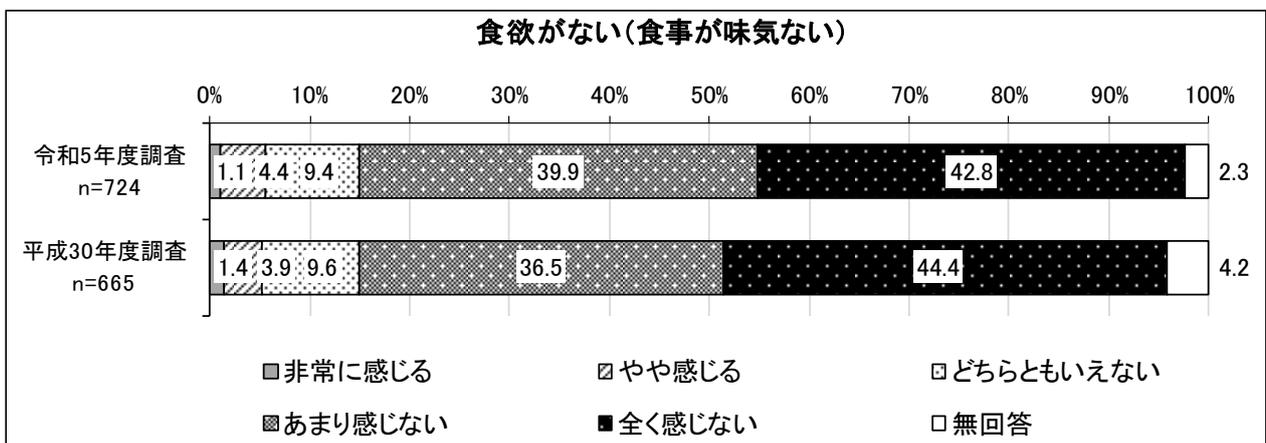
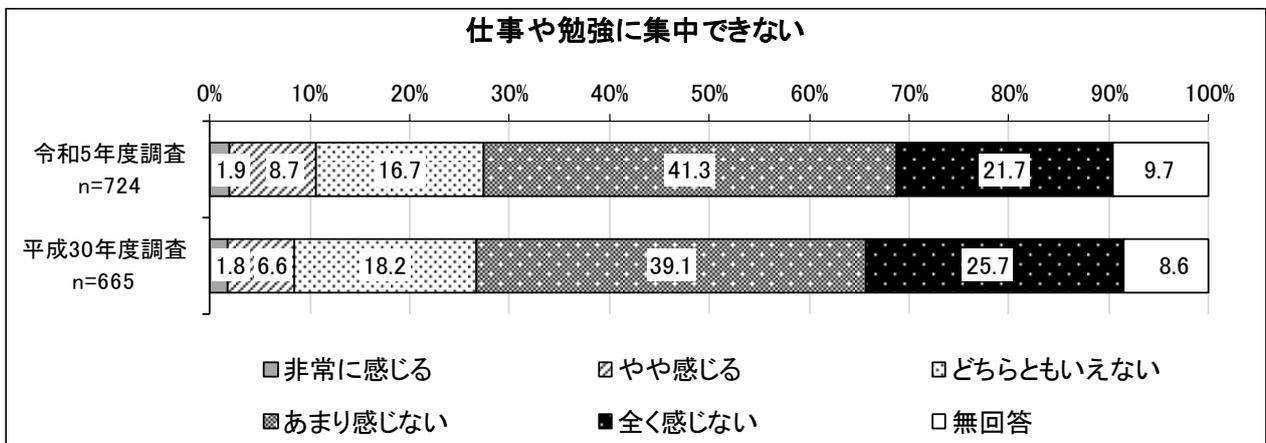
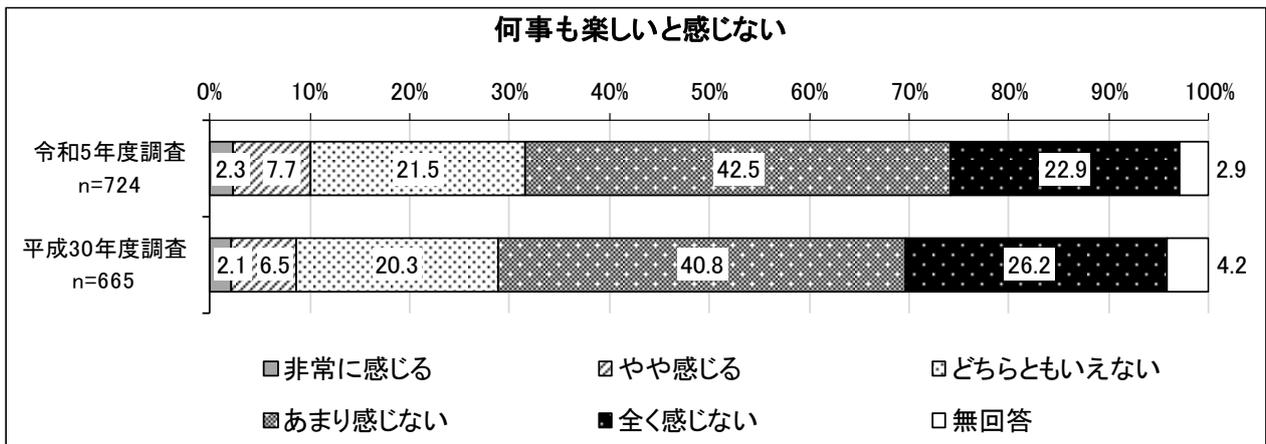
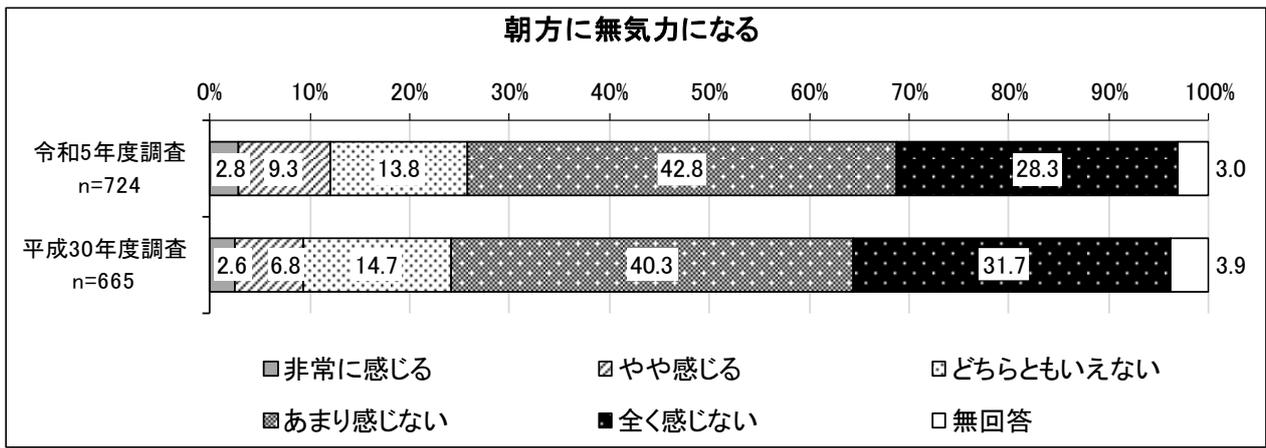
問 20 あなたは、日々の生活の中で、以下のように感じることはありますか。（それぞれ SA）

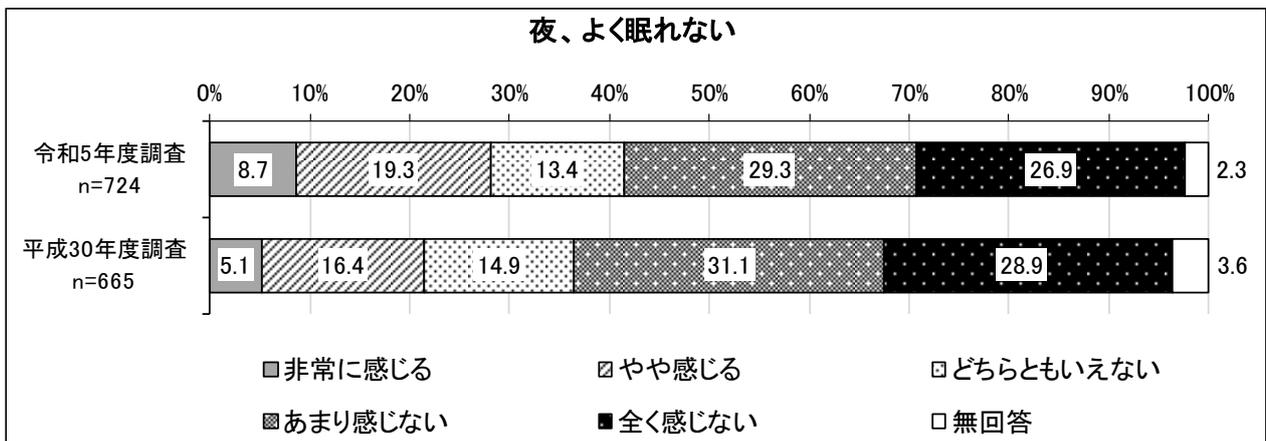
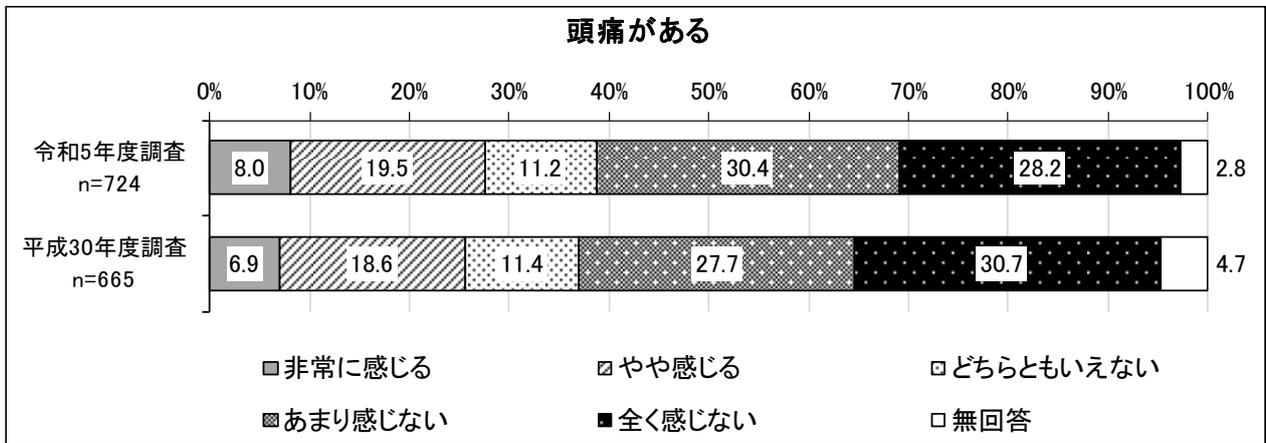
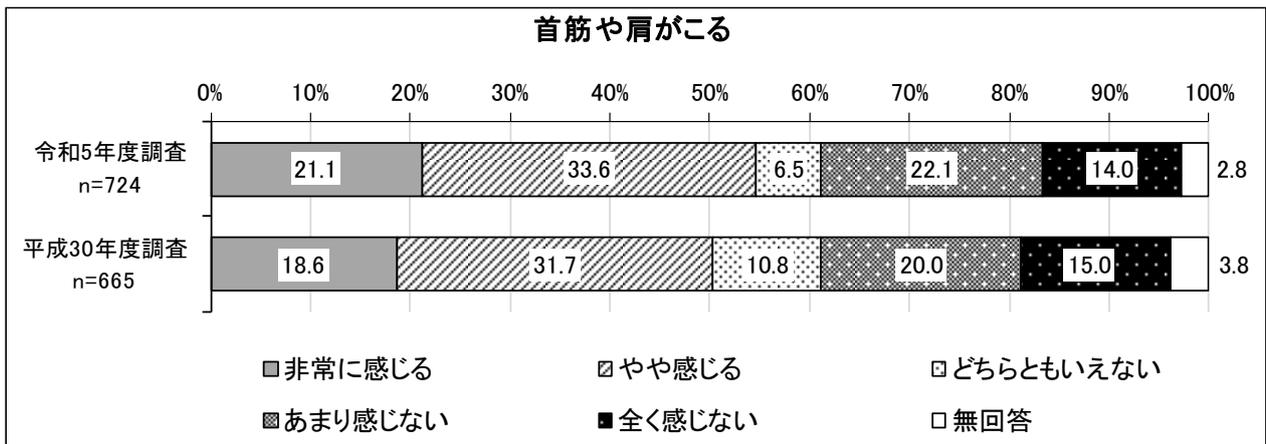
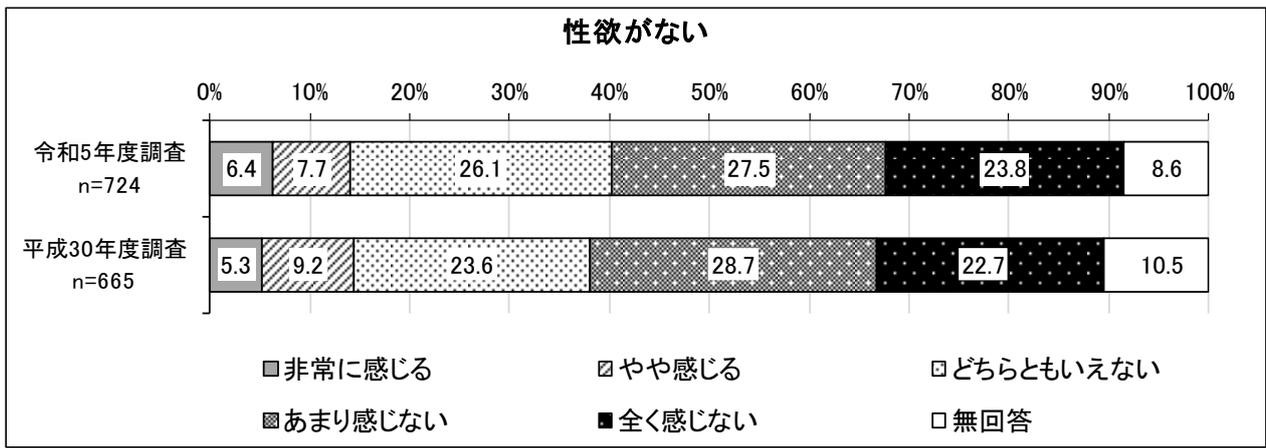
※設問「痩せてきた」は、前回調査（平成 30 年度実施）「最近痩せてきた」から変更。

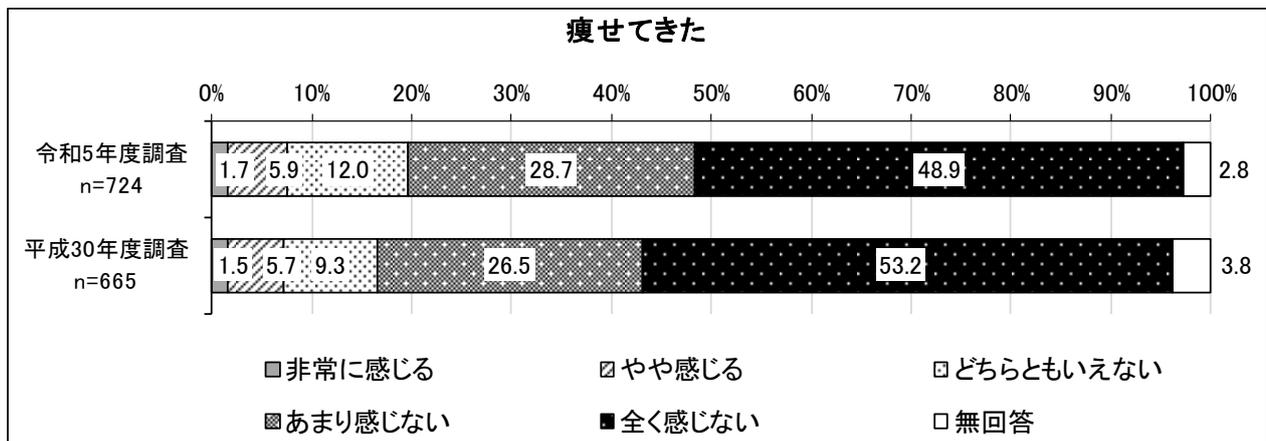
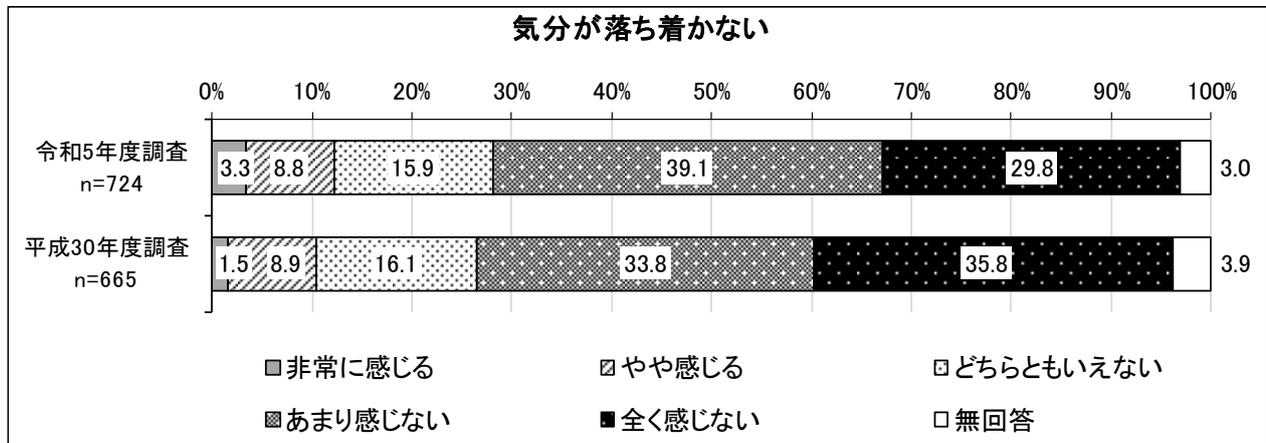
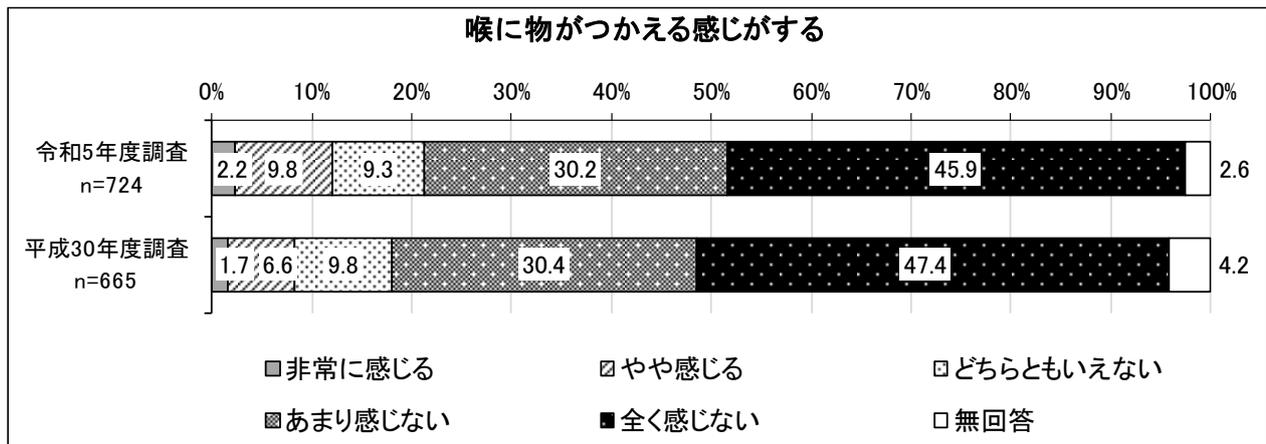
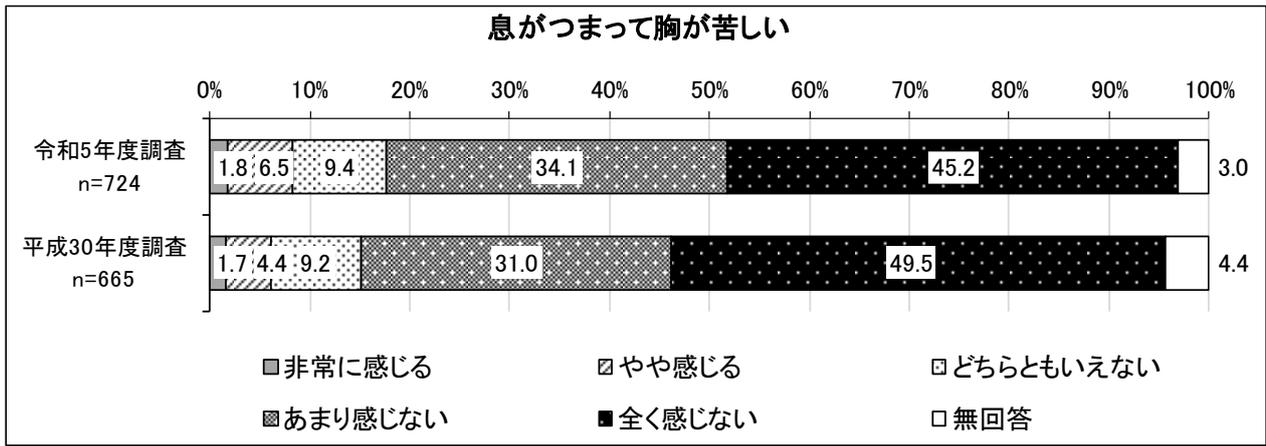
「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率は、「首筋や肩がこる」（54.7%）や「体がだるく疲れやすい」（42.5%）などの身体面が高くなっています。

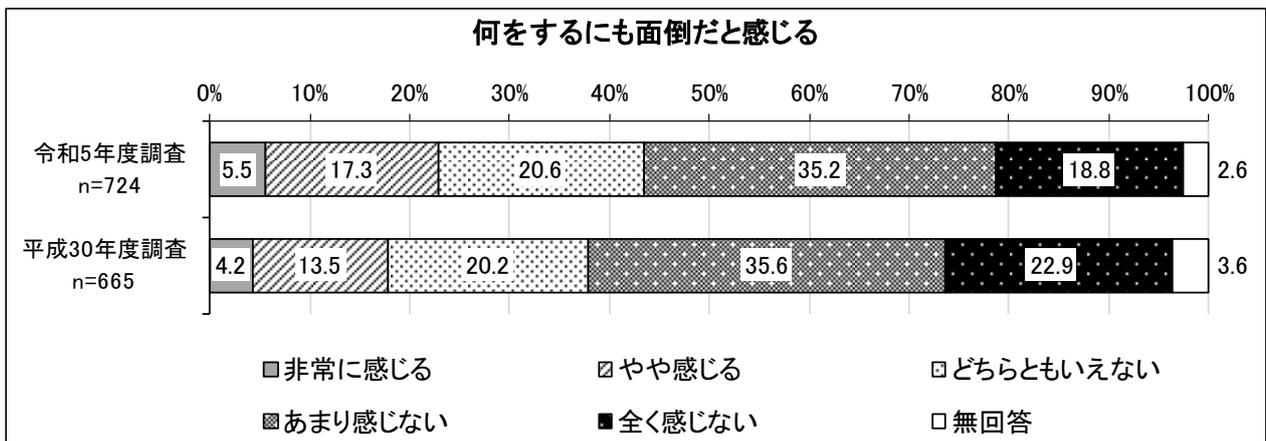
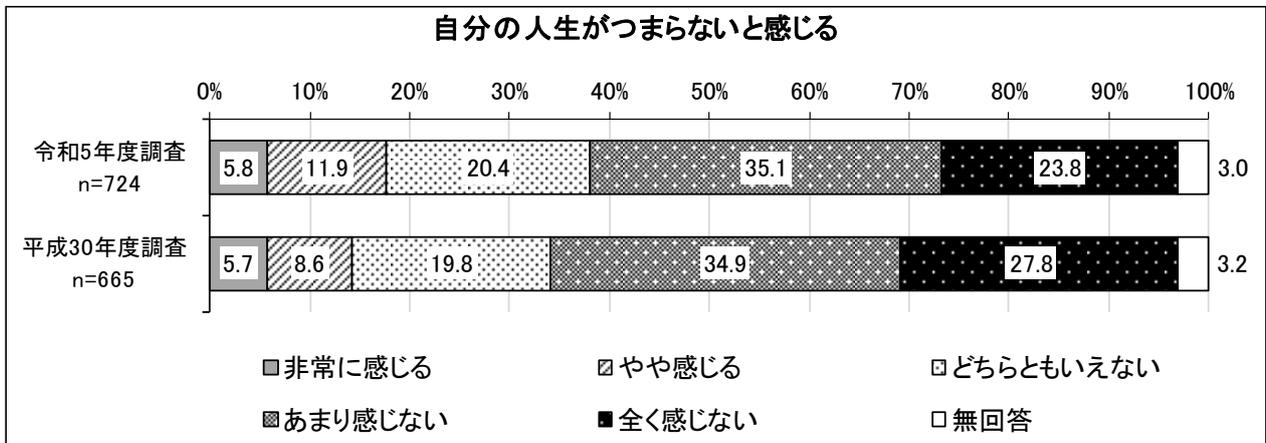
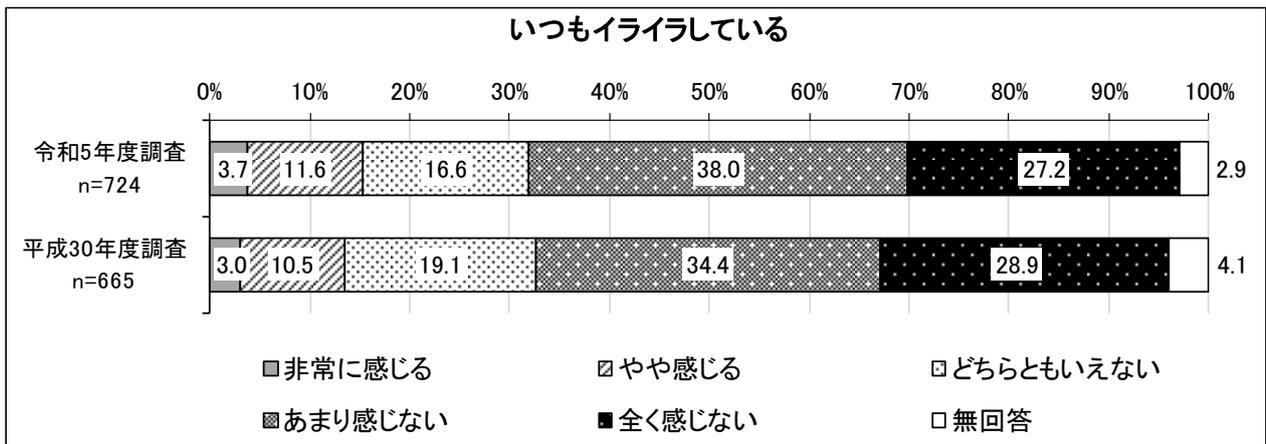
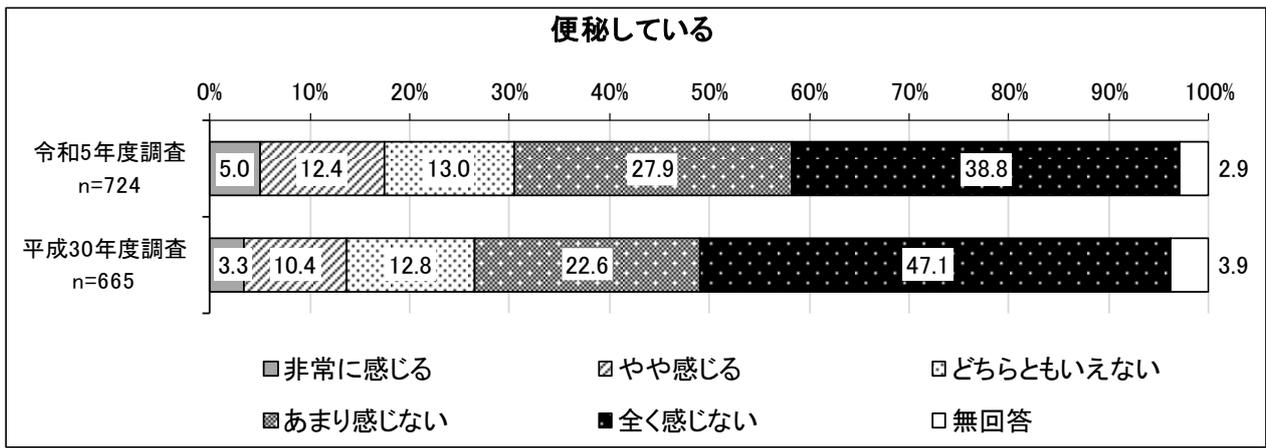
前回調査と比較して、ほぼすべての項目で、「全く感じない」の比率が下がっています。

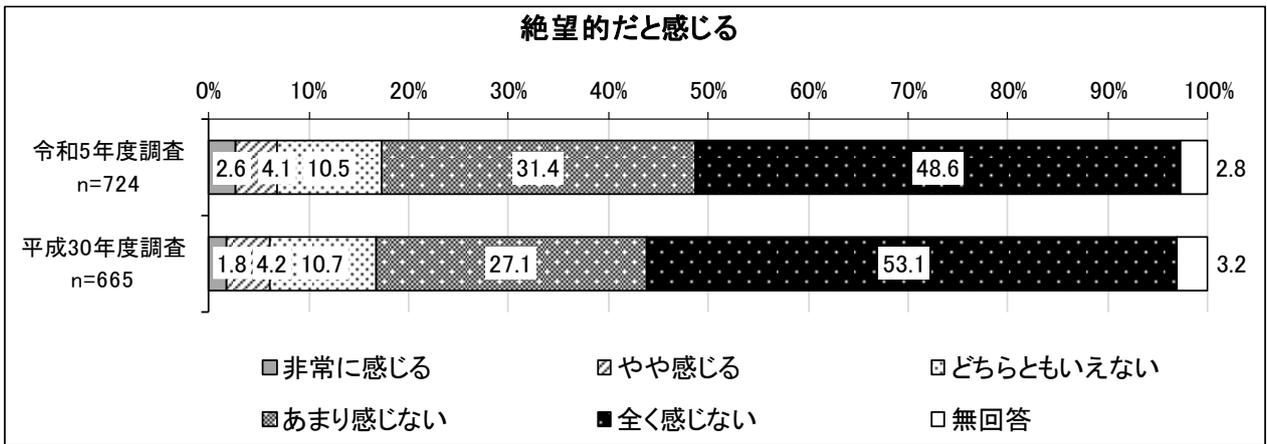
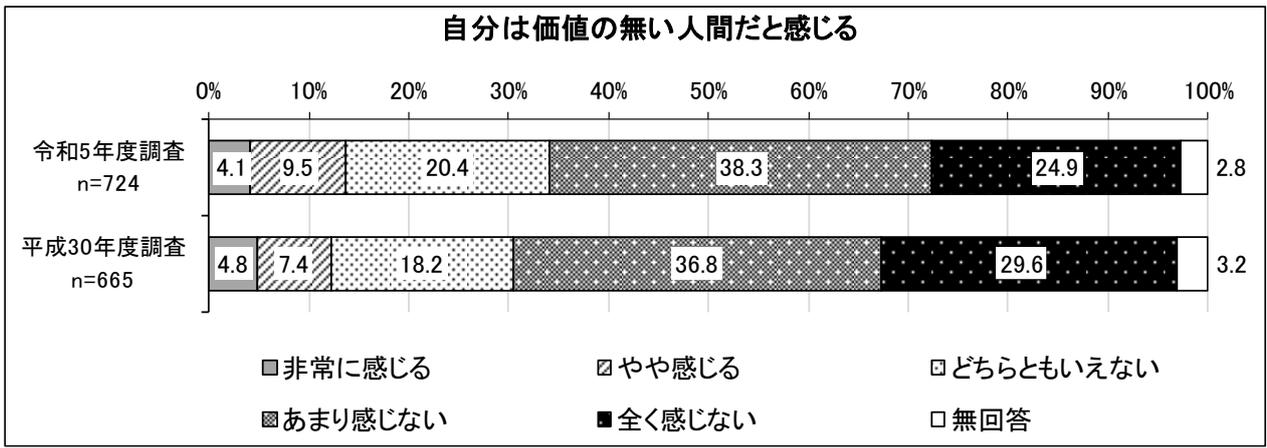








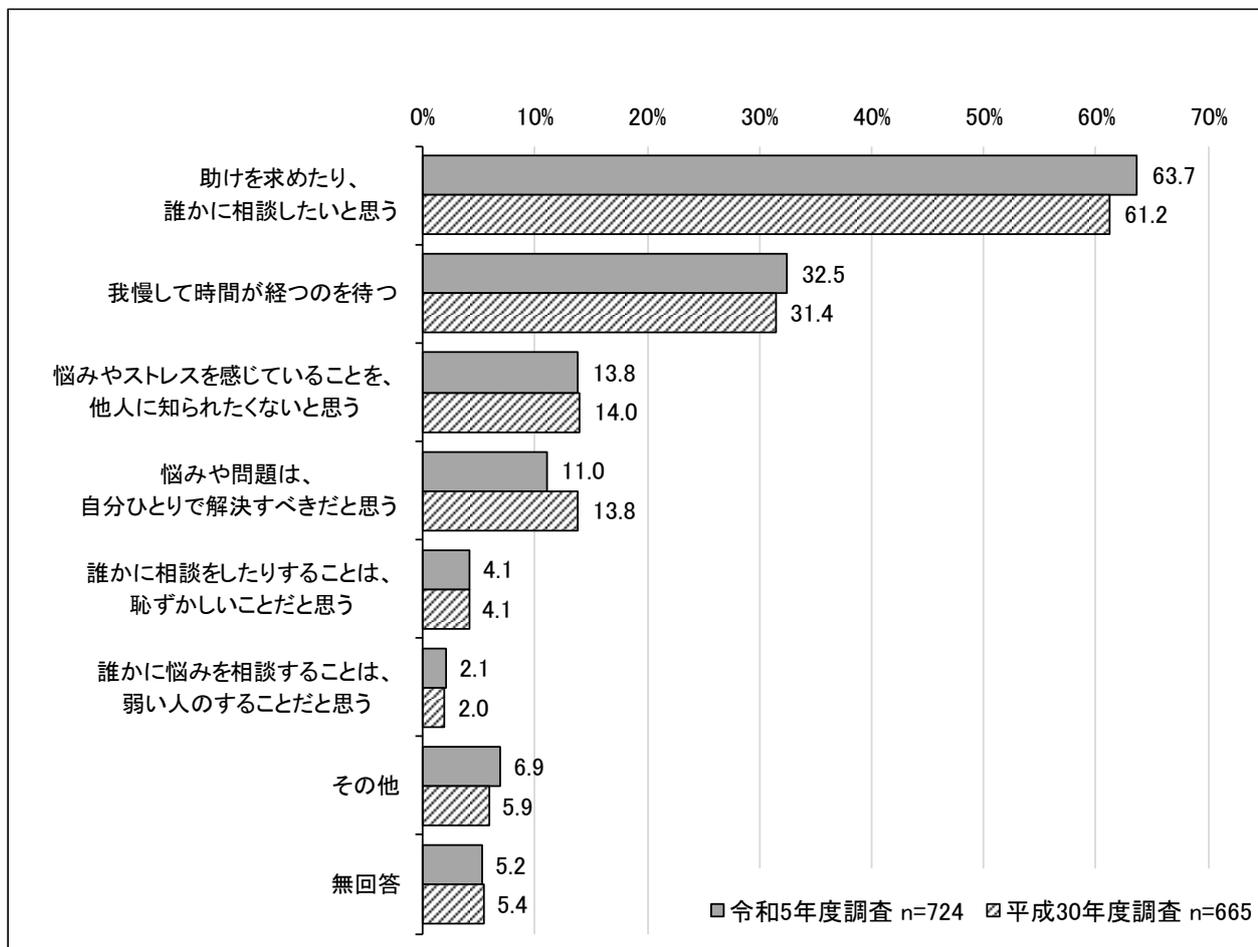




問 21 あなたは、悩みやストレスを感じた時にどう思いますか。(MA)

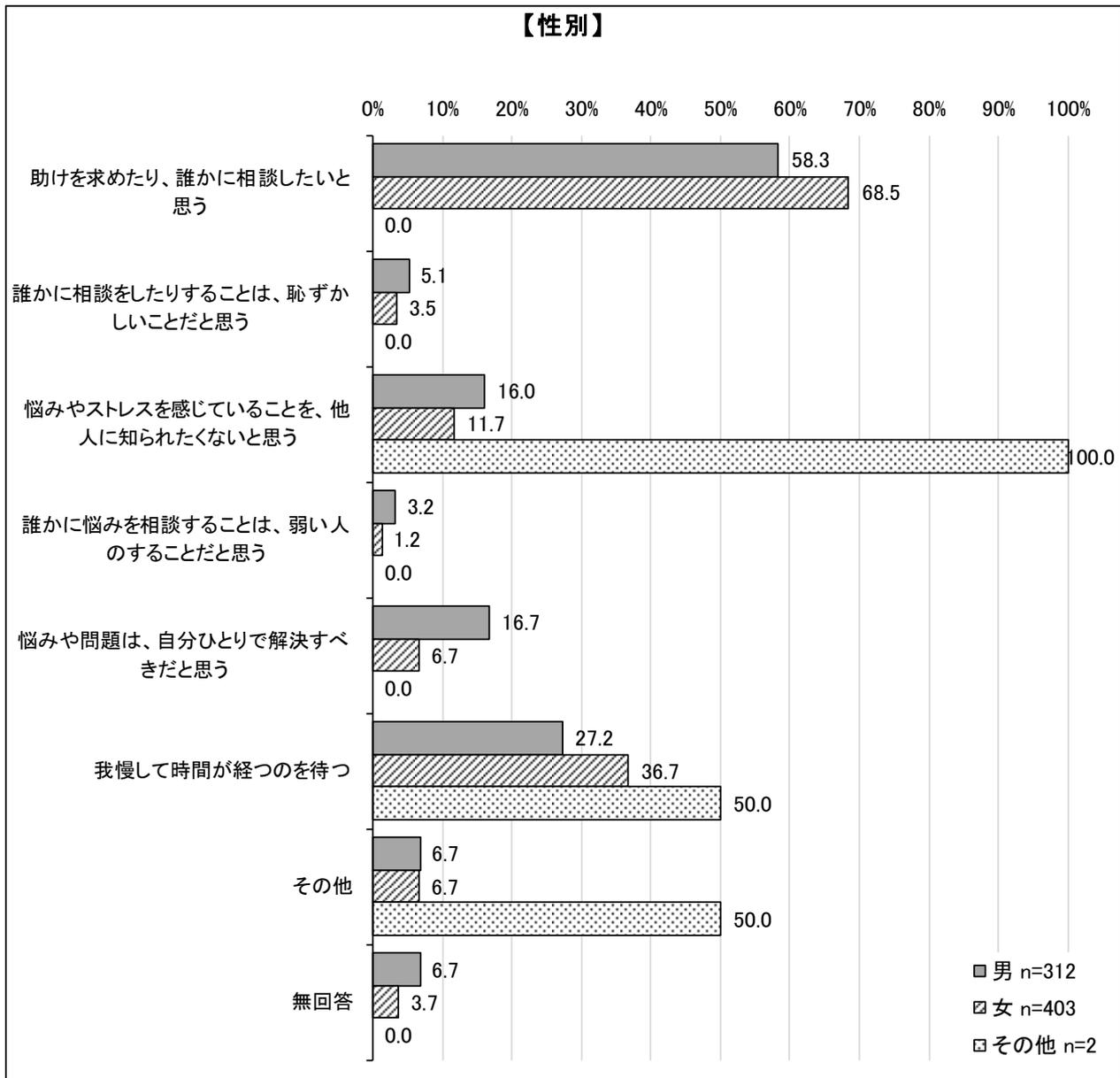
悩みやストレスを感じた時にどう思うかについては、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」が63.7%と最も比率が高く、次いで「我慢して時間が経つのを待つ」が32.5%となっています。

前回調査と比較して、大きな変化はありません。



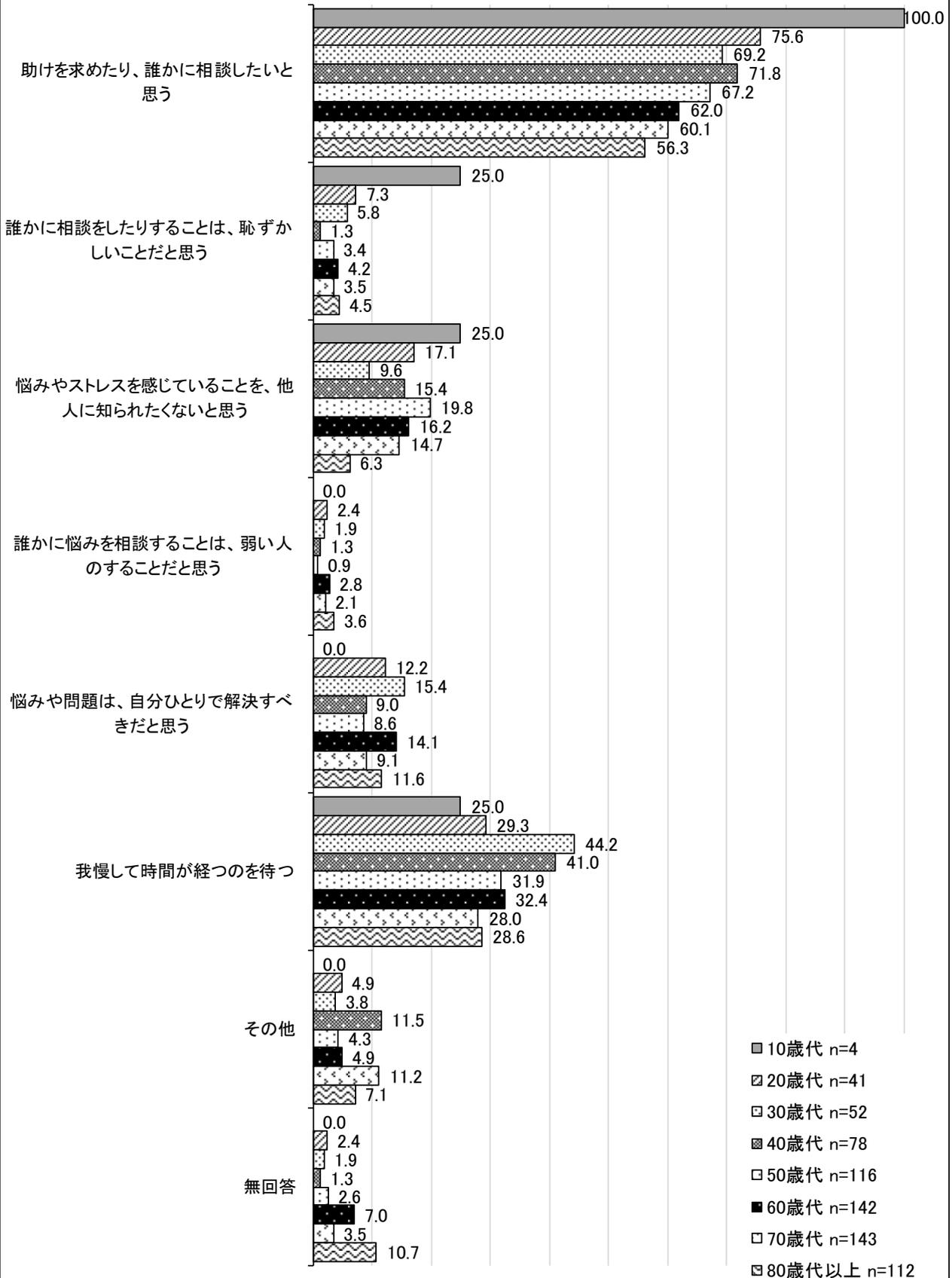
性別にみると、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」、「我慢して時間が経つのを待つ」は“女性”が、それ以外の項目については“男性”が、高い比率となっています。

年齢別にみると、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」は、“10歳代”で100.0%と最も高く、「我慢して時間が経つのを待つ」は、“30歳代”、“40歳代”で40%台の比率となっています。



【年齢別】

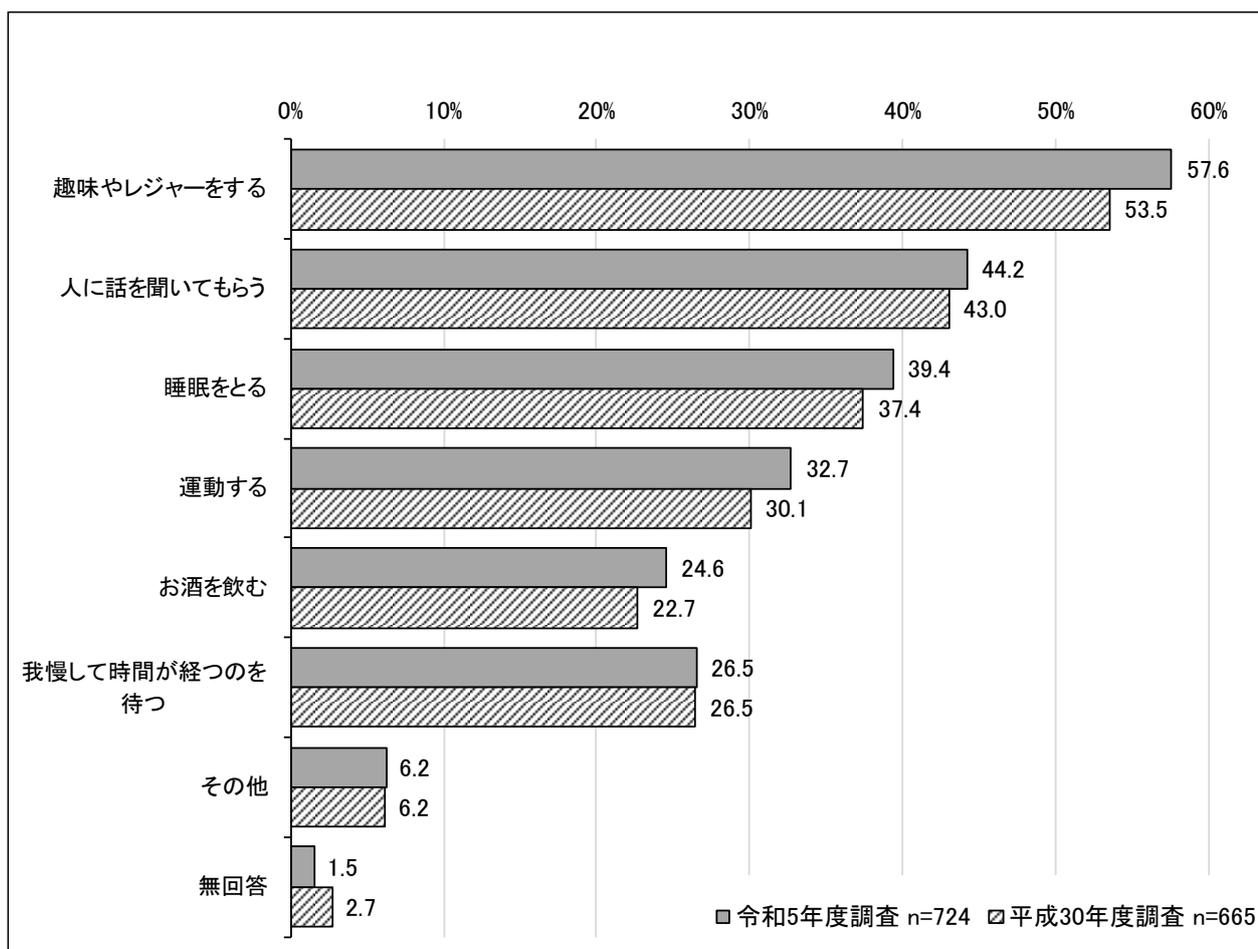
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 22 あなたは、日常生活の不満、悩み、苦労、ストレスを解消するためにどんなことをしますか。(MA)

日常生活の不満、悩み、苦労、ストレスを解消するために行うことについては、「趣味やレジャーをする」が57.6%と最も比率が高く、以下、「人に話を聞いてもらう」(44.2%)、「睡眠をとる」(39.4%)と続いています。一方、「我慢して時間が経つのを待つ」は26.5%となっています。

ほぼすべての項目で、前回調査よりも比率が高くなっています。

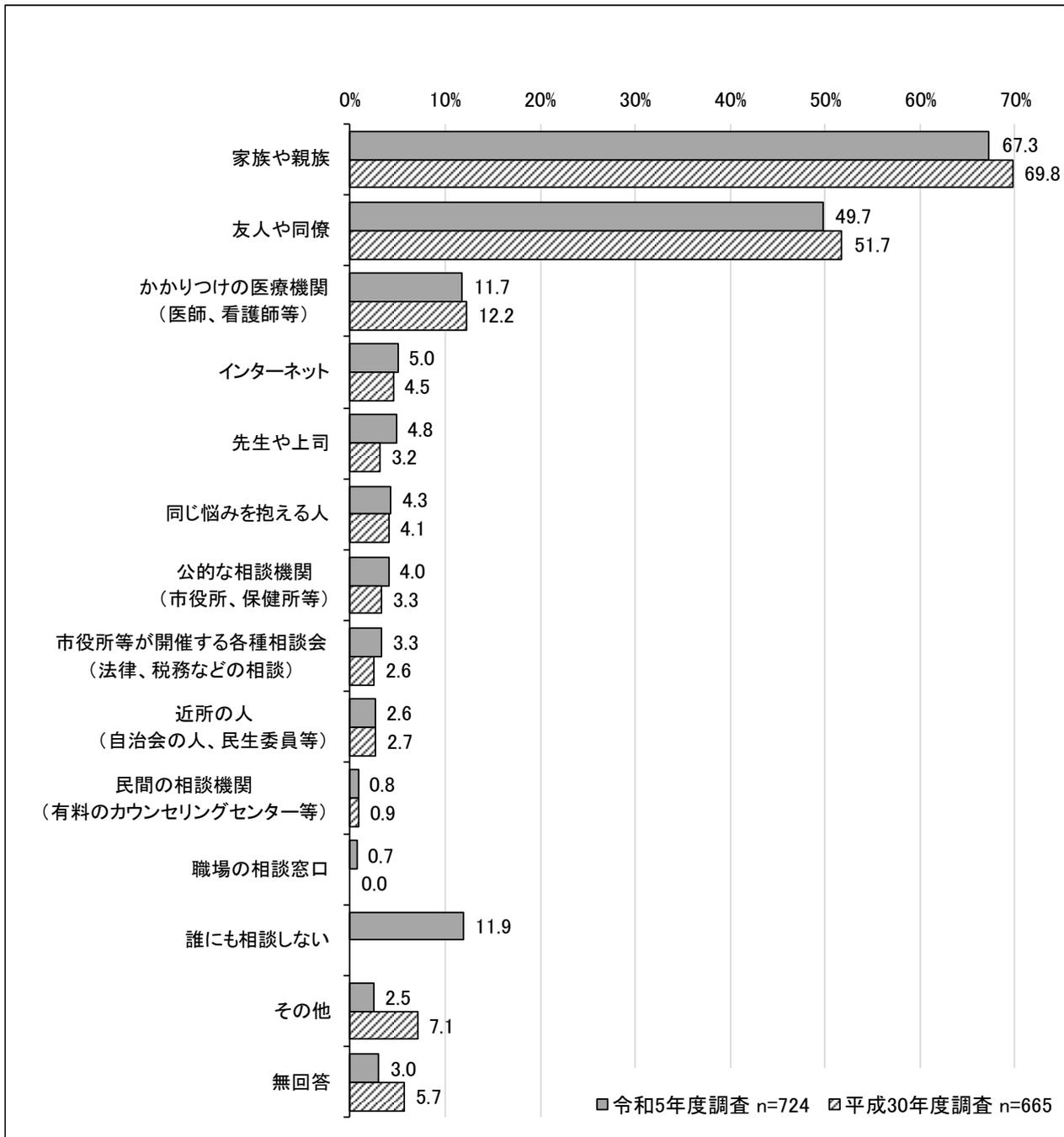


問 23 あなたは、悩みやストレスを感じた時に、誰に、またはどこへ相談しますか。（MA）

※選択肢「誰にも相談しない」は今回調査より追加。

悩みやストレスを感じた時の相談先については、「家族や親族」（67.3%）や「友人や同僚」（49.7%）など身近な人の比率が高く、次いで「かかりつけの医療機関（医師、看護師等）」が11.7%となっています。一方、「誰にも相談しない」は、11.9%となっています。

前回調査で0%だった「職場の相談窓口」が今回調査では0.7%と、わずかですが比率が高くなっています。

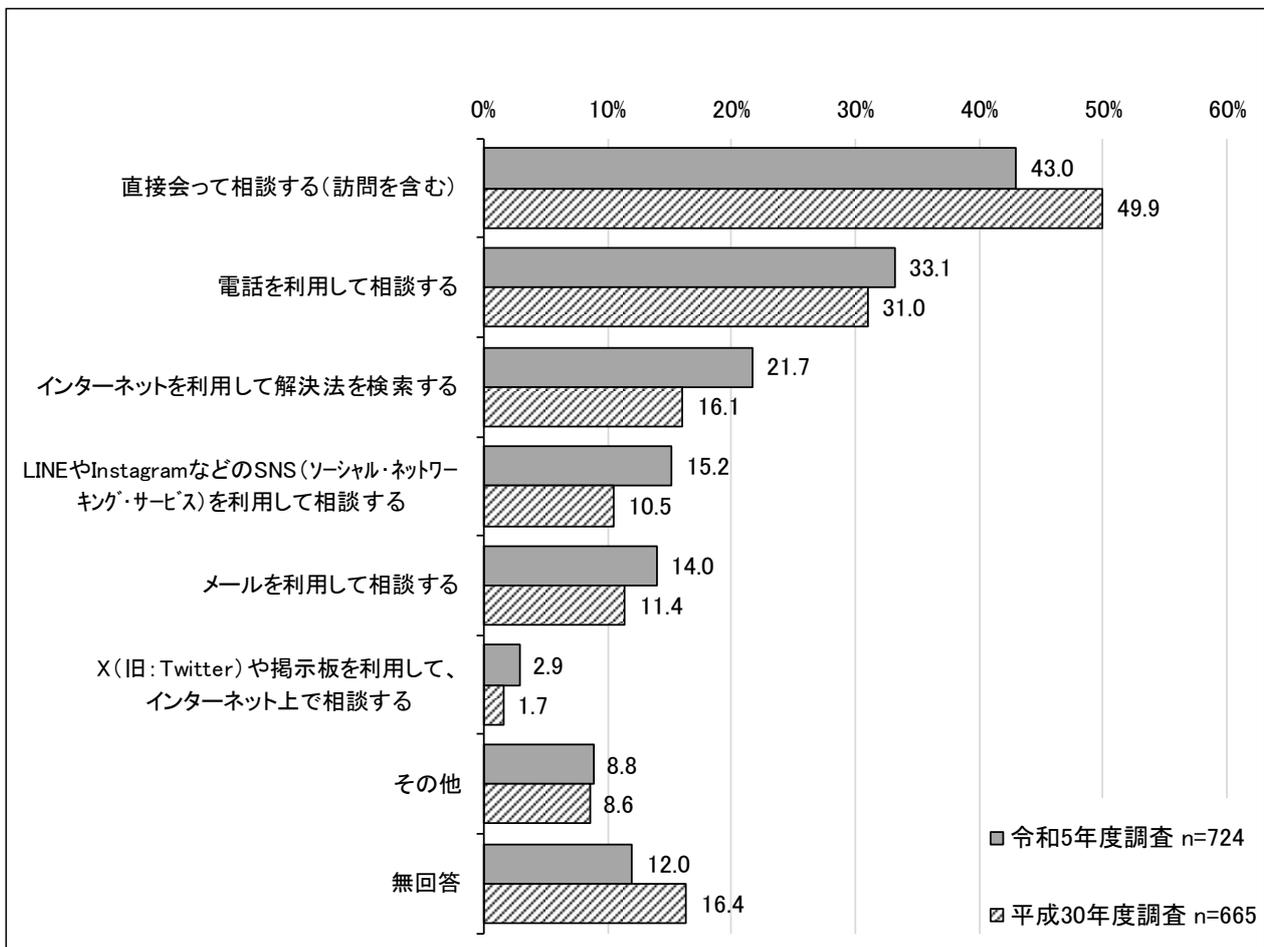


問 24 あなたは、悩みやストレスを感じた時、以下の方法を使って悩みを相談したいと思いませんか。(MA)

※「LINE や Instagram などの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を利用して相談する」は前回調査(平成 30 年度実施)「LINE や Facebook などの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を利用して相談する」から変更。

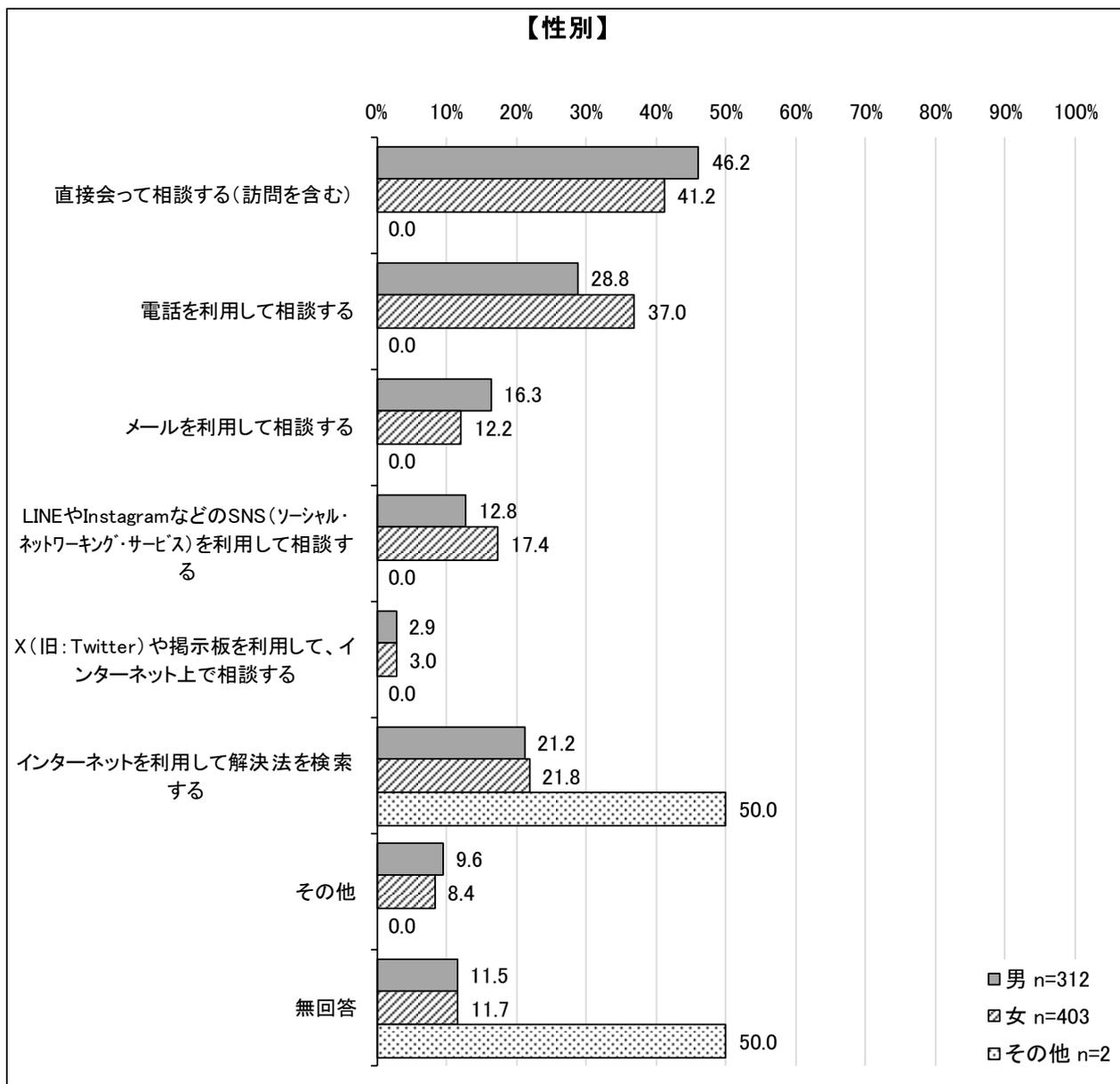
悩みの相談方法については、「直接会って相談する(訪問を含む)」が 43.0%と最も高く、以下、「電話を利用して相談する」(33.1%)、「インターネットを利用して解決法を検索する」(21.7%)と続いています。

前回調査と比較して、「直接会って相談する(訪問を含む)」の比率が低くなり、「インターネットを利用して解決法を検索する」の比率が高くなっています。

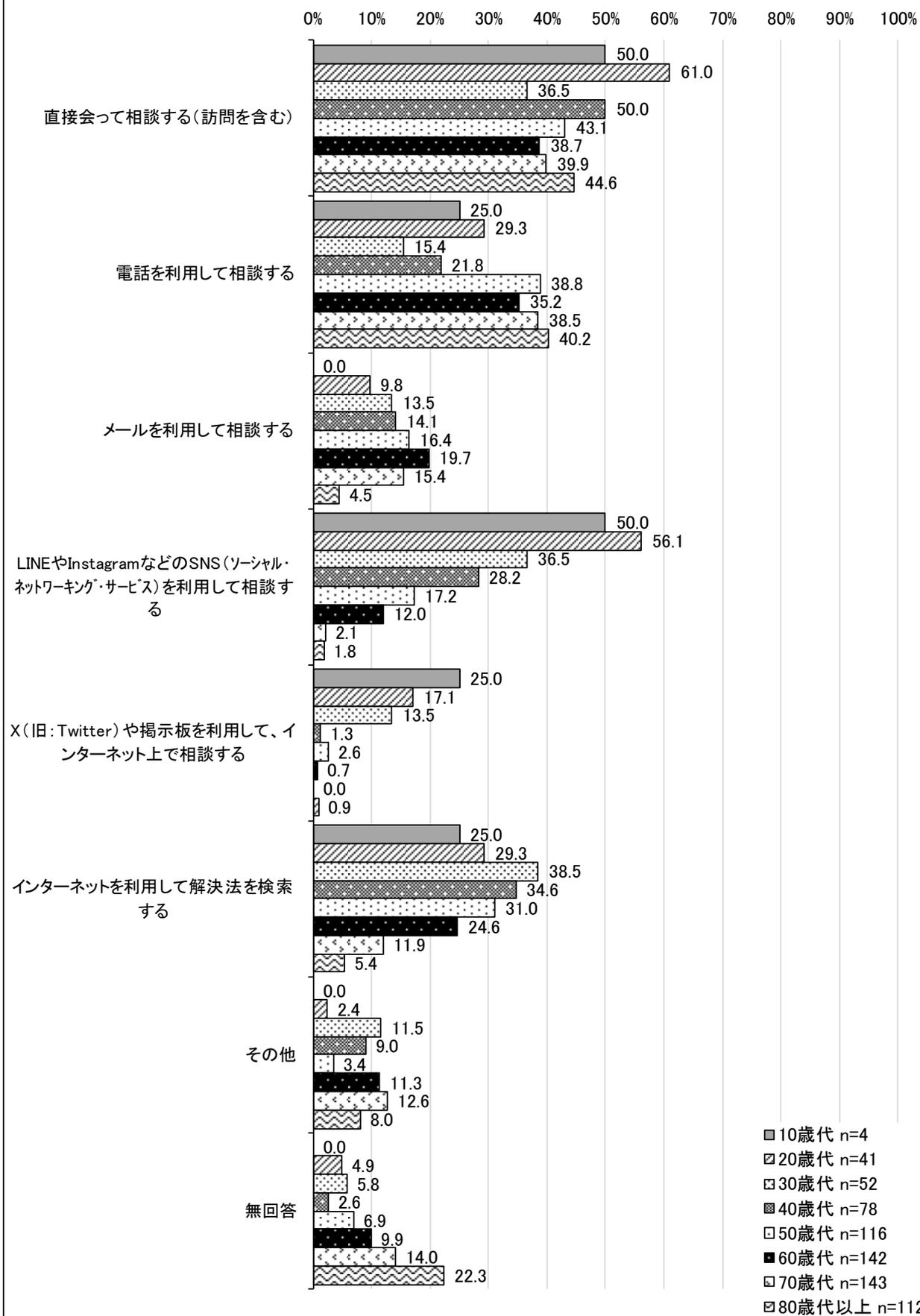


性別にみると、「電話を利用して相談する」や「LINE や instagram などの SNS を利用して相談する」は“女性”が、「直接会って相談する（訪問を含む）」は“男性”が、高い比率となっています。

年齢別にみると、「直接会って相談する（訪問を含む）」は“20 歳代”（61.0%）、「LINE や instagram などの SNS を利用して相談する」も 20 歳代”（56.1%）が最も高い比率となっています。



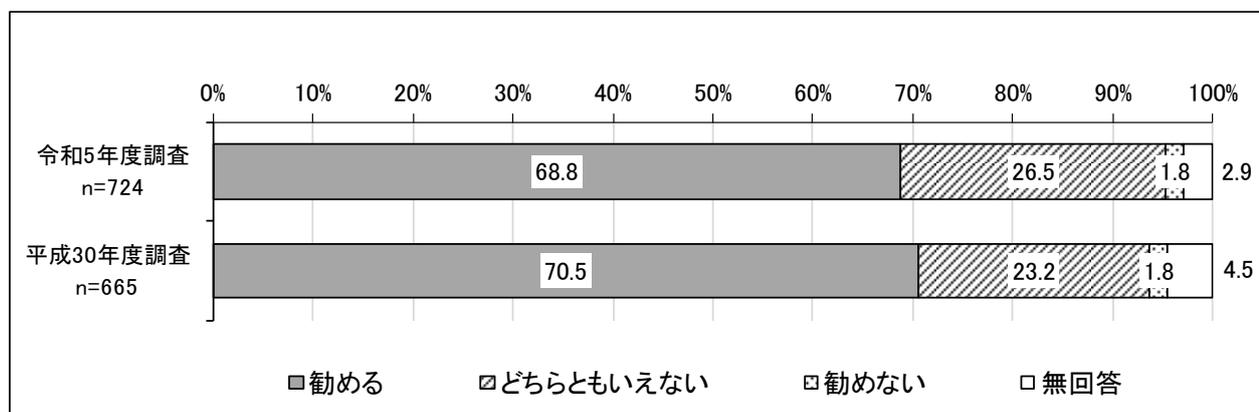
【年齢別】



問 25 もし、あなたが家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気付いたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか。(SA)

専門の相談窓口へ相談することを勧めるかについては、「勧める」が68.8%と多数を占めており、「どちらともいえない」が26.5%、「勧めない」は1.8%となっています。

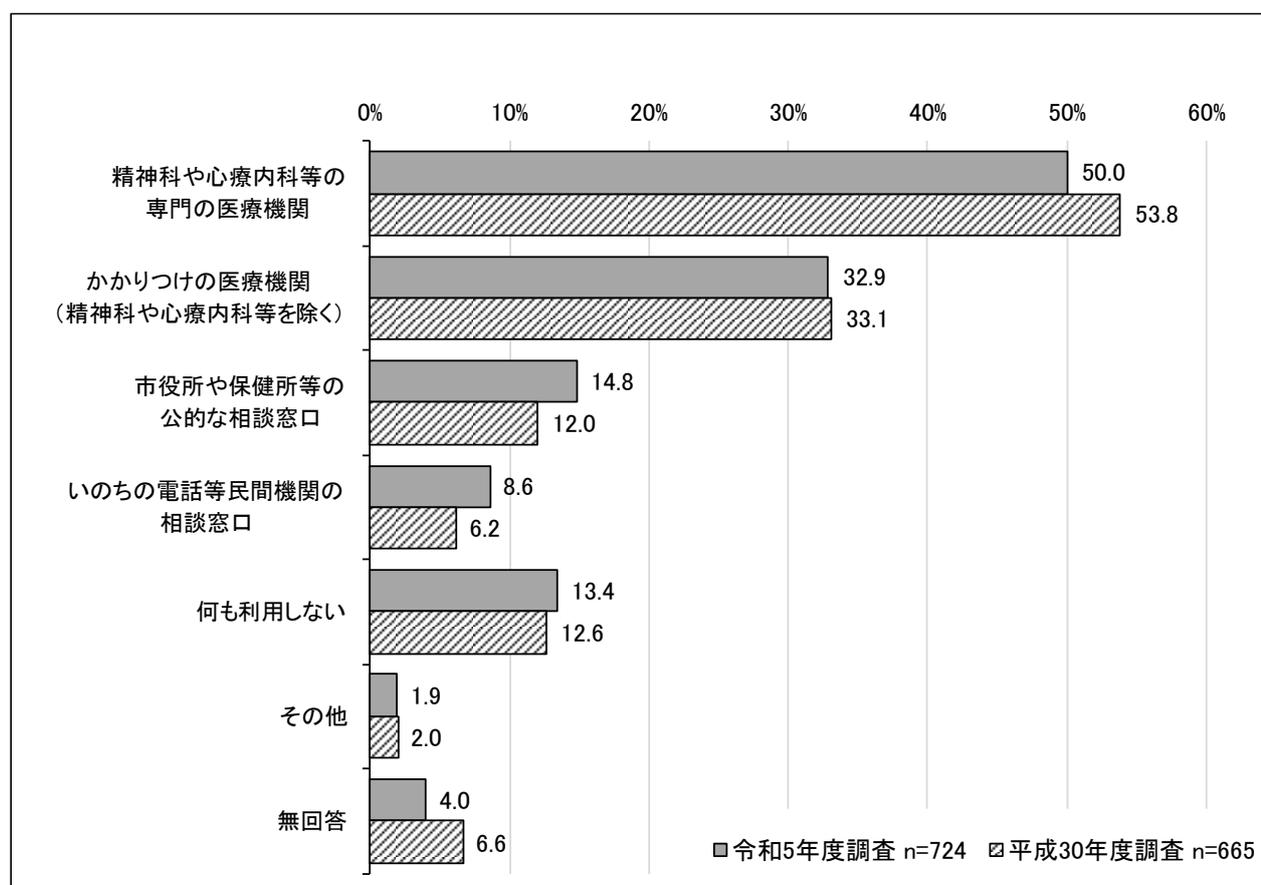
前回調査と比較して、大きな変化はありません。



問 26 もし、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気付いた時、以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。(MA)

利用したいと思う相談窓口については、「精神科や心療内科等の専門の医療機関」が50.0%と最も高く、以下、「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」(32.9%)、「市役所や保健所等の公的な相談窓口」と(14.8%)続いています。一方、「何も利用しない」は13.4%となっています。

前回調査と比較して、医療機関を利用する人はわずかに減り、相談室、相談窓口を利用する人の比率がわずかに高くなっています。



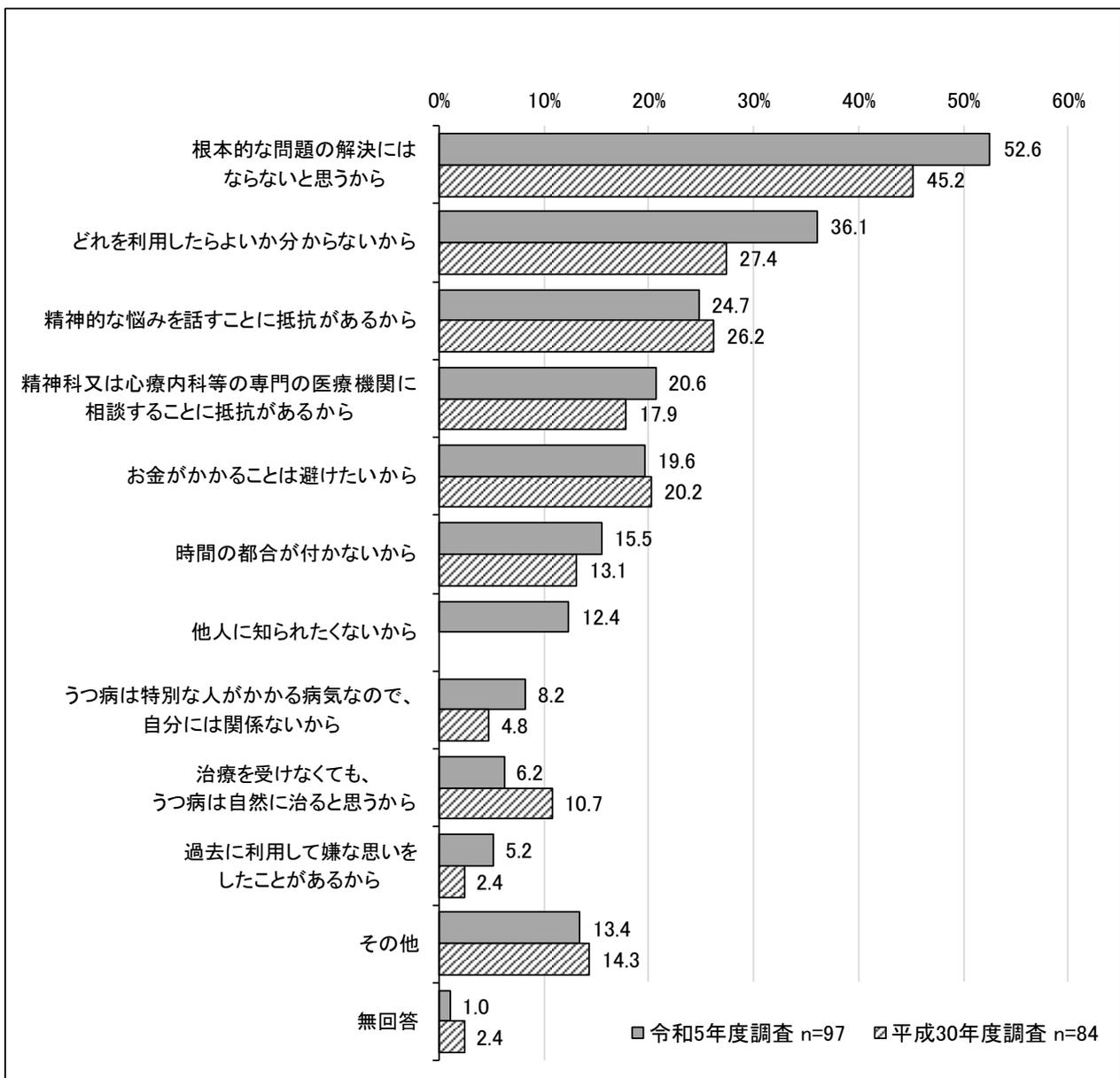
【問 26 で「何も利用しない」と回答した方にお尋ねします。】

問 27 その理由を教えてください。(MA)

※選択肢「他人に知られたくないから」は今回調査より追加。

「何も利用しない」と回答した理由については、「根本的な問題の解決にはならないと思うから」が 52.6%で最も高く、以下、「どれを利用したらよいか分からないから」(36.1%)、「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」(24.7%)と続いています。

「過去に利用して嫌な思いをしたことがあるから」が前回調査(2.4%)から今回調査(5.2%)で倍以上の比率となっています。

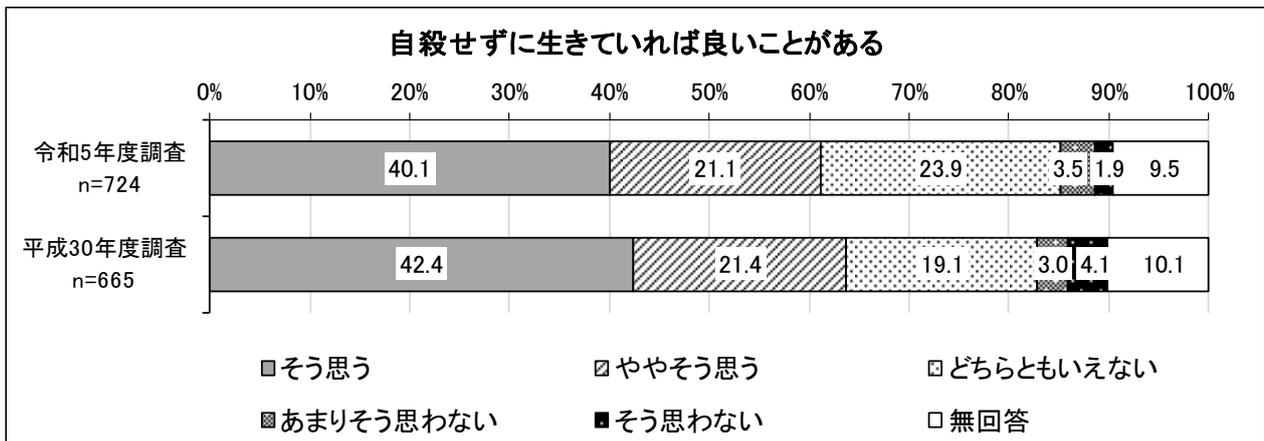
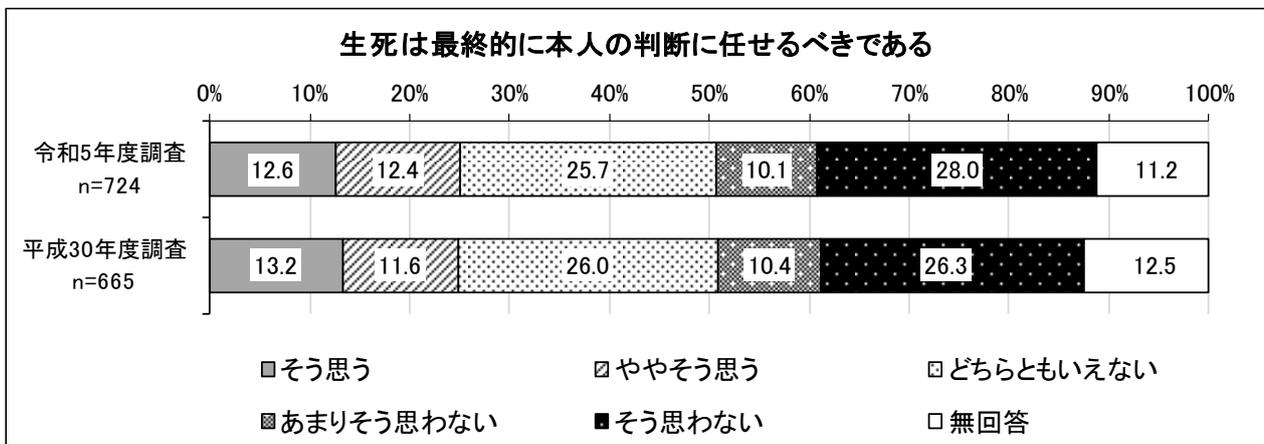


4 自殺に関する意識について

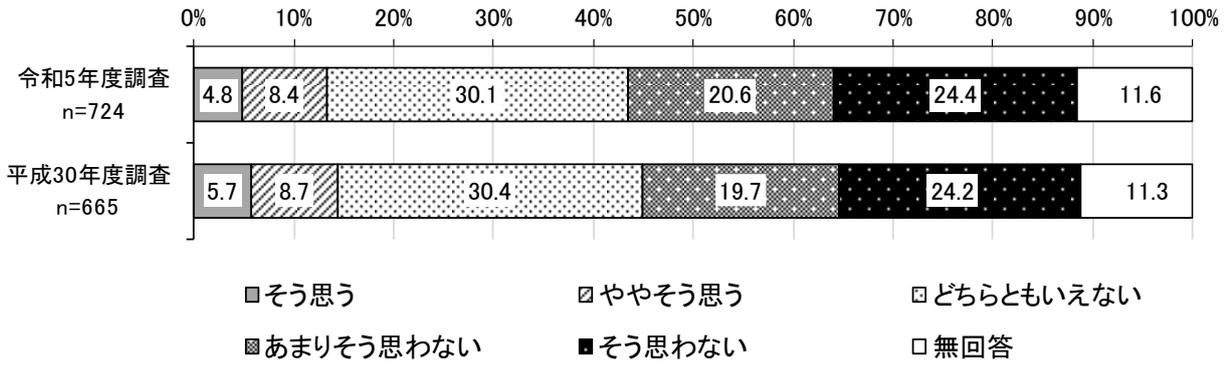
問 28 あなたは、「自殺」についてどのように思いますか。（それぞれ SA）

「自殺」について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』の比率が高いのは、「自殺を考えている人の多くは、精神的に追い詰められ、他の方法を思いつかなくなっている」（75.7%）、「自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う」（73.8%）となっています。一方、「自殺は恥ずかしいことである」（12.7%）や「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」（13.2%）の比率は低くなっています。

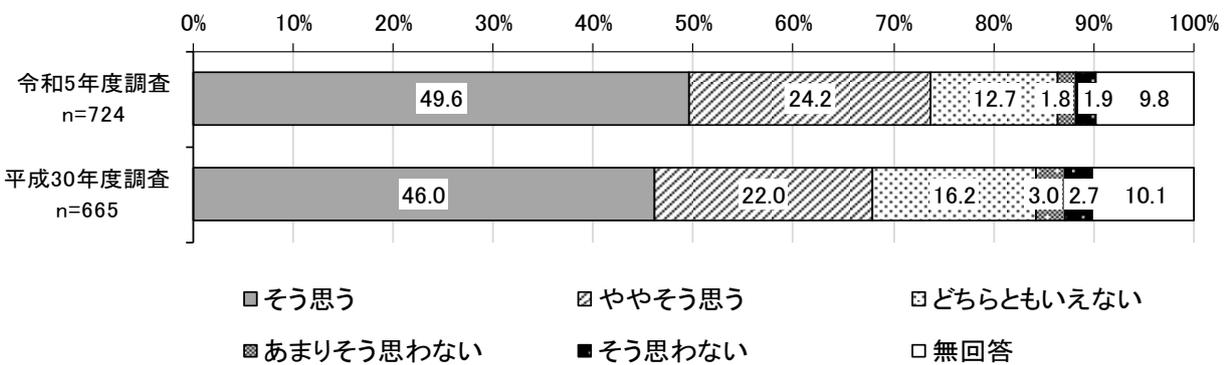
「自殺は本人の弱さから起こる」は前回調査（29.0%）から今回調査（20.0%）で比率が約2/3となっています。



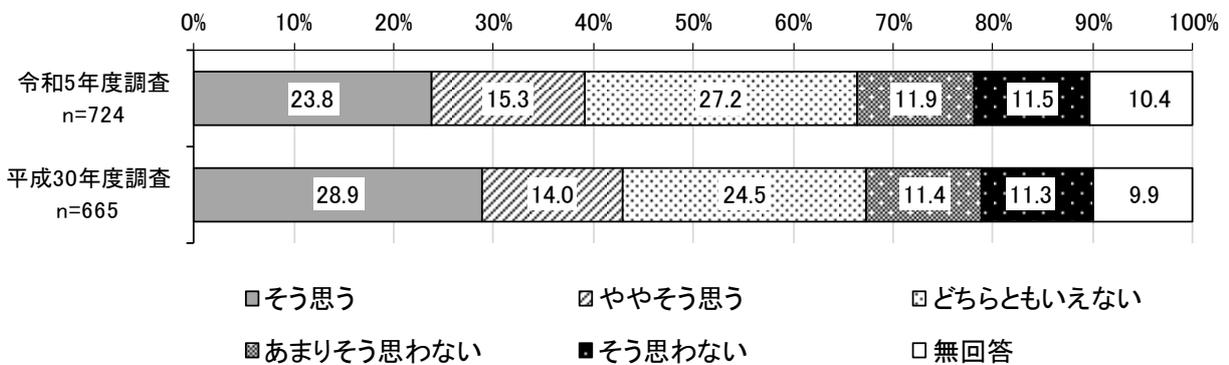
自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない



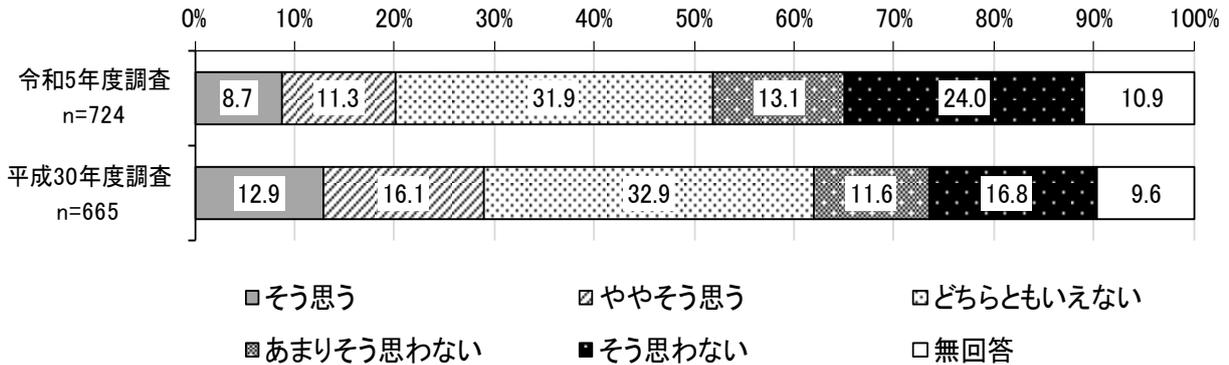
自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う

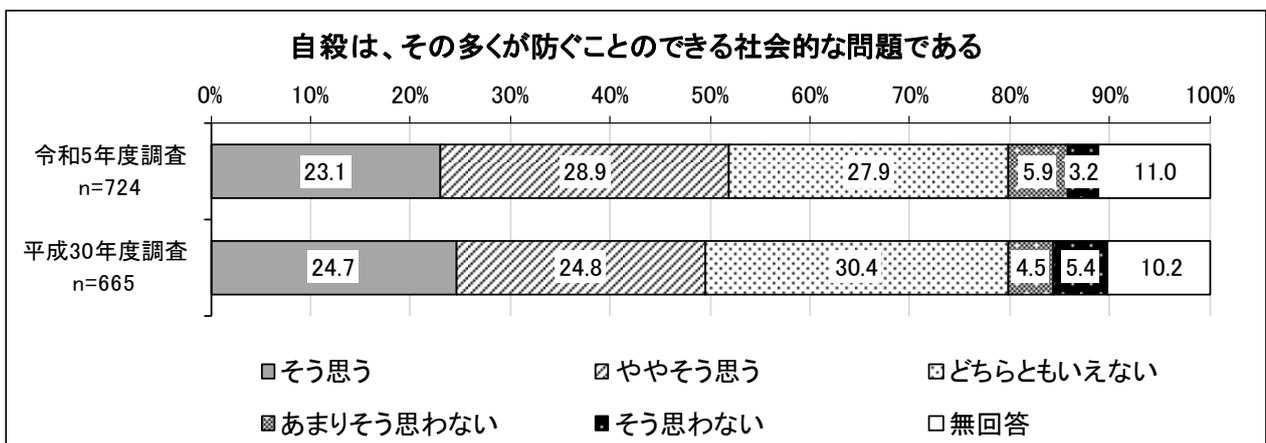
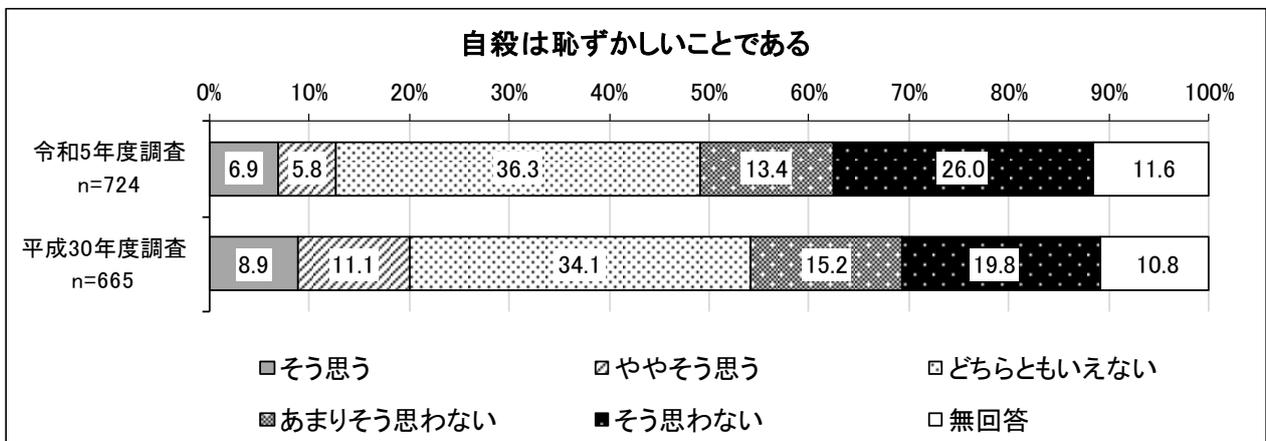
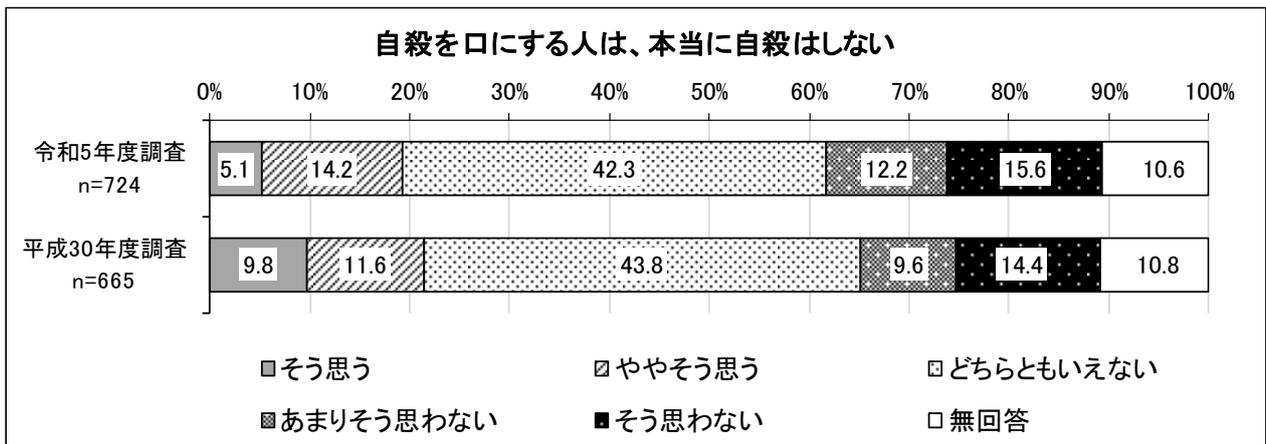
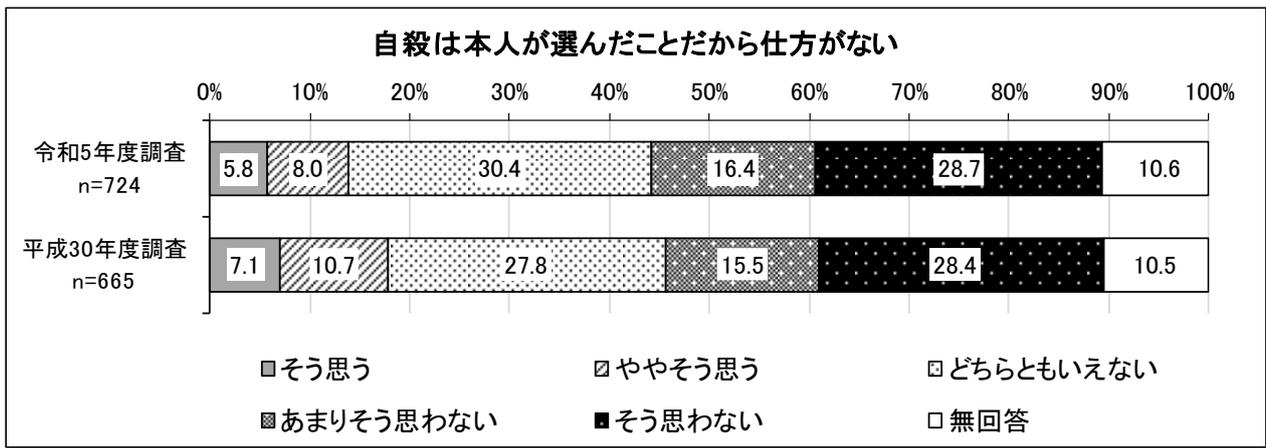


自殺は自分にはあまり関係がない

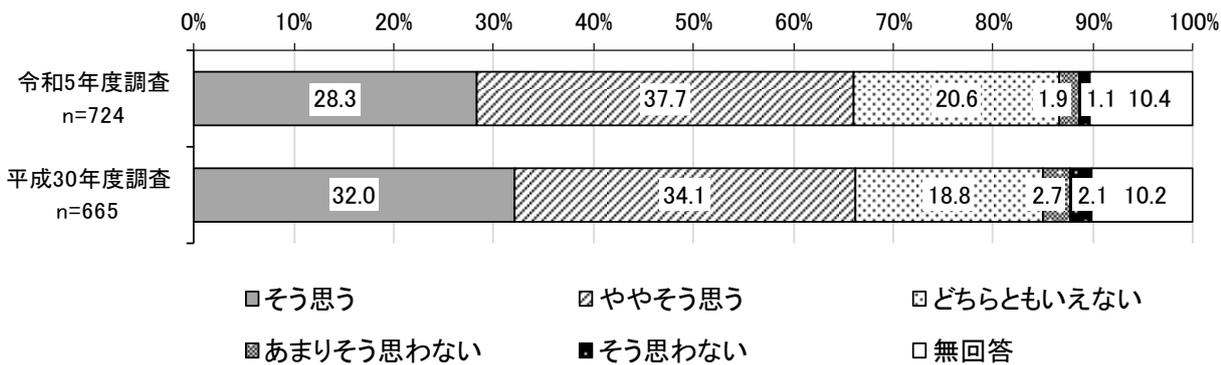


自殺は本人の弱さから起こる

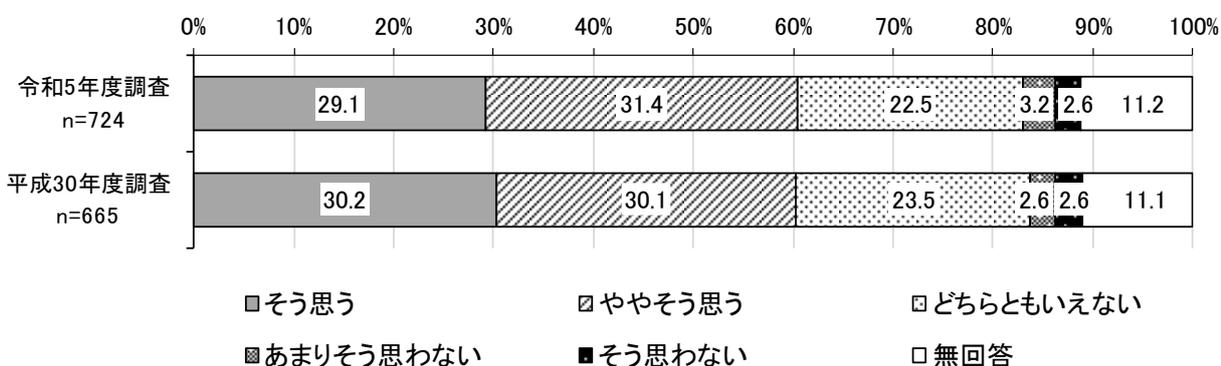




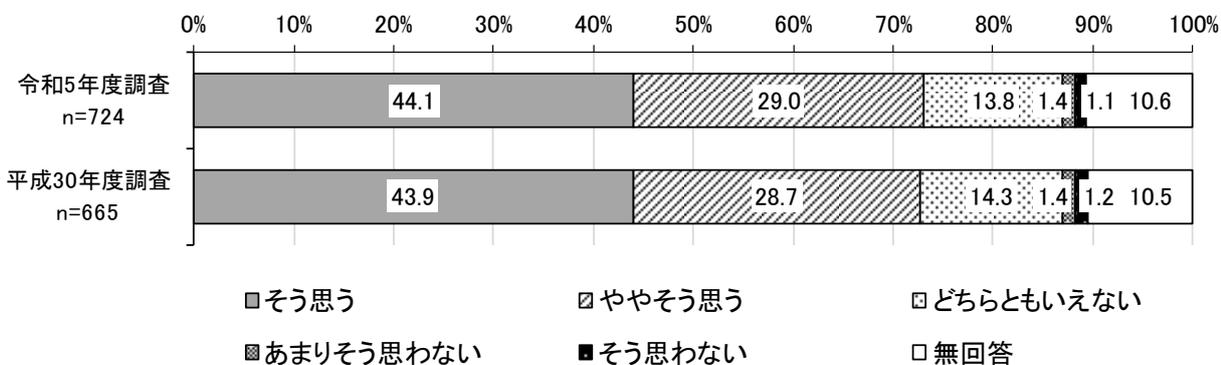
自殺をしようとする人の多くは、なんらかのサインを発している



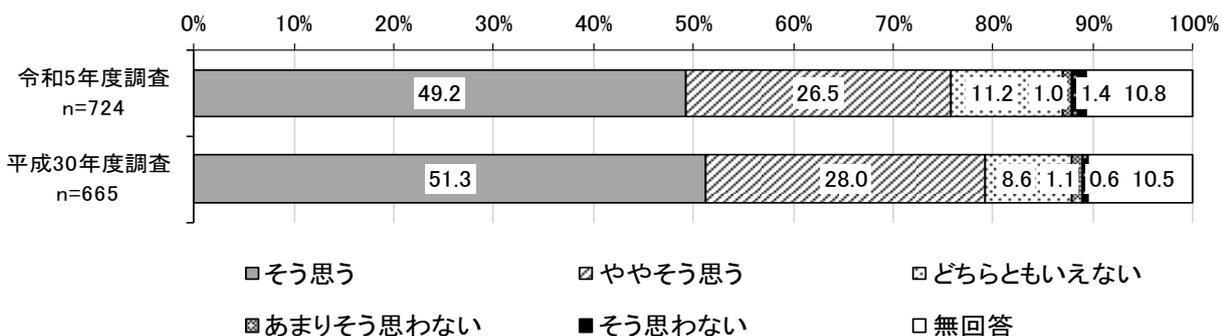
自殺をしようとする人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている



自殺を考えている人は、様々な問題を抱えていることが多い



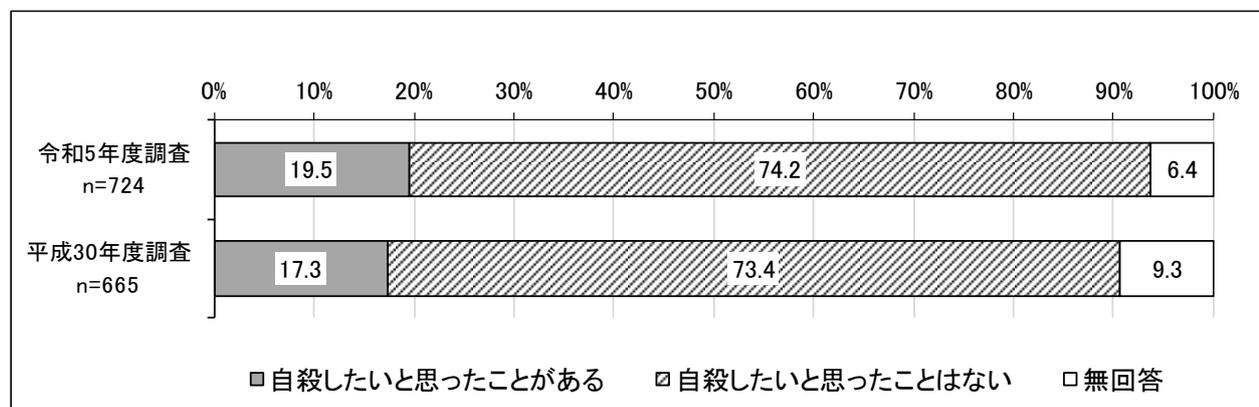
自殺を考えている人の多くは、精神的に追い詰められ、他の方法を思いつかなくなっている



問 29 これまでの人生の中で、本気で自殺したいと考えたことがありますか。(SA)

これまでの人生の中で、「自殺したいと思ったことがある」と回答した方は、19.5%となっています。

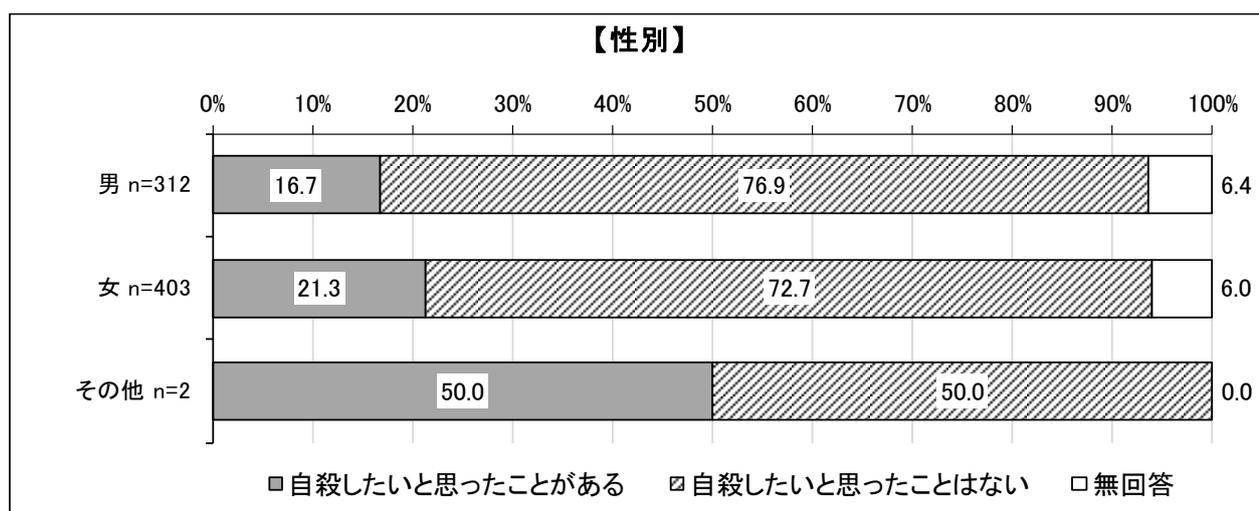
前回調査と比較して、「自殺したいと思ったことがある」の比率がわずかですが高くなっています。

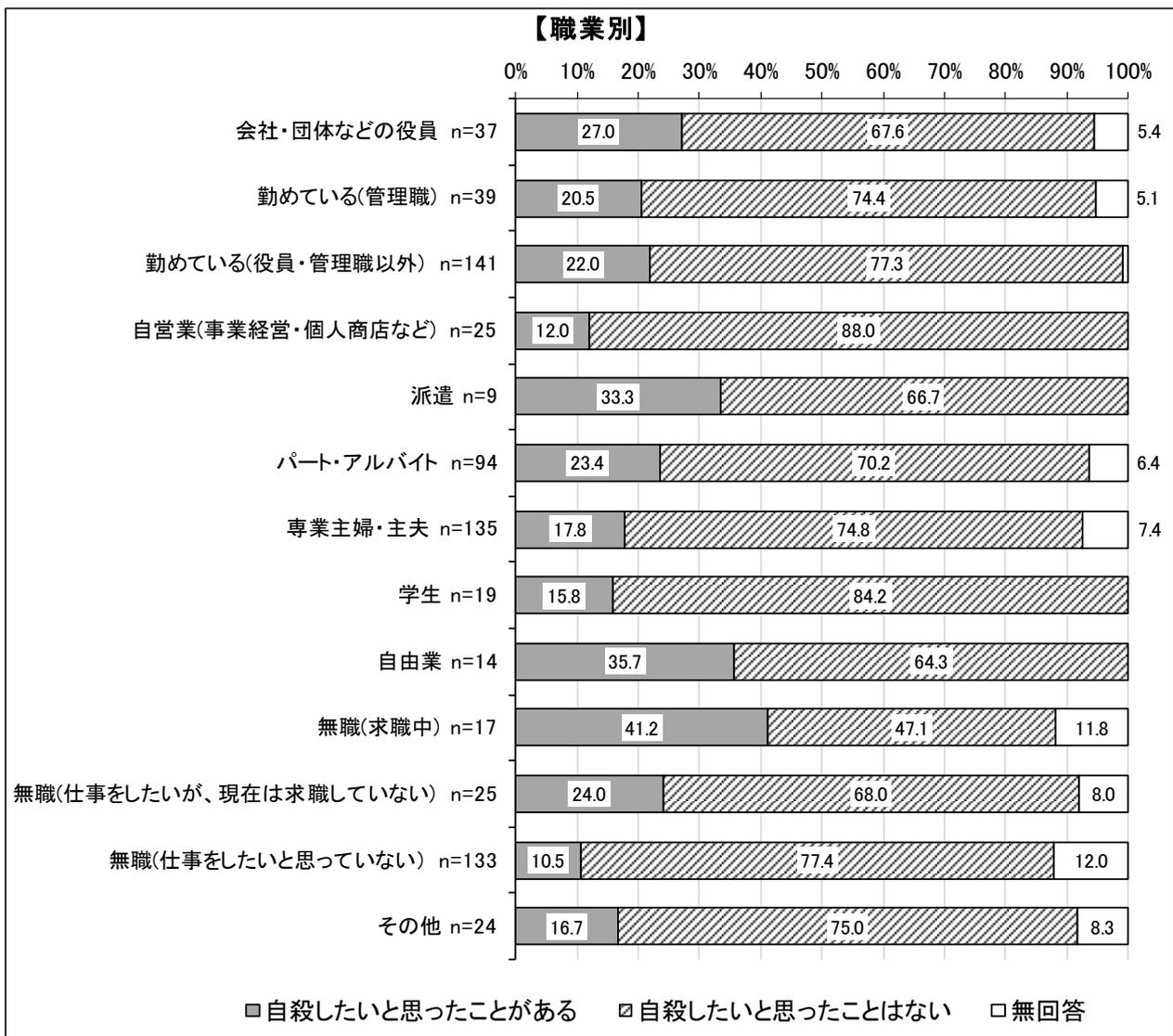
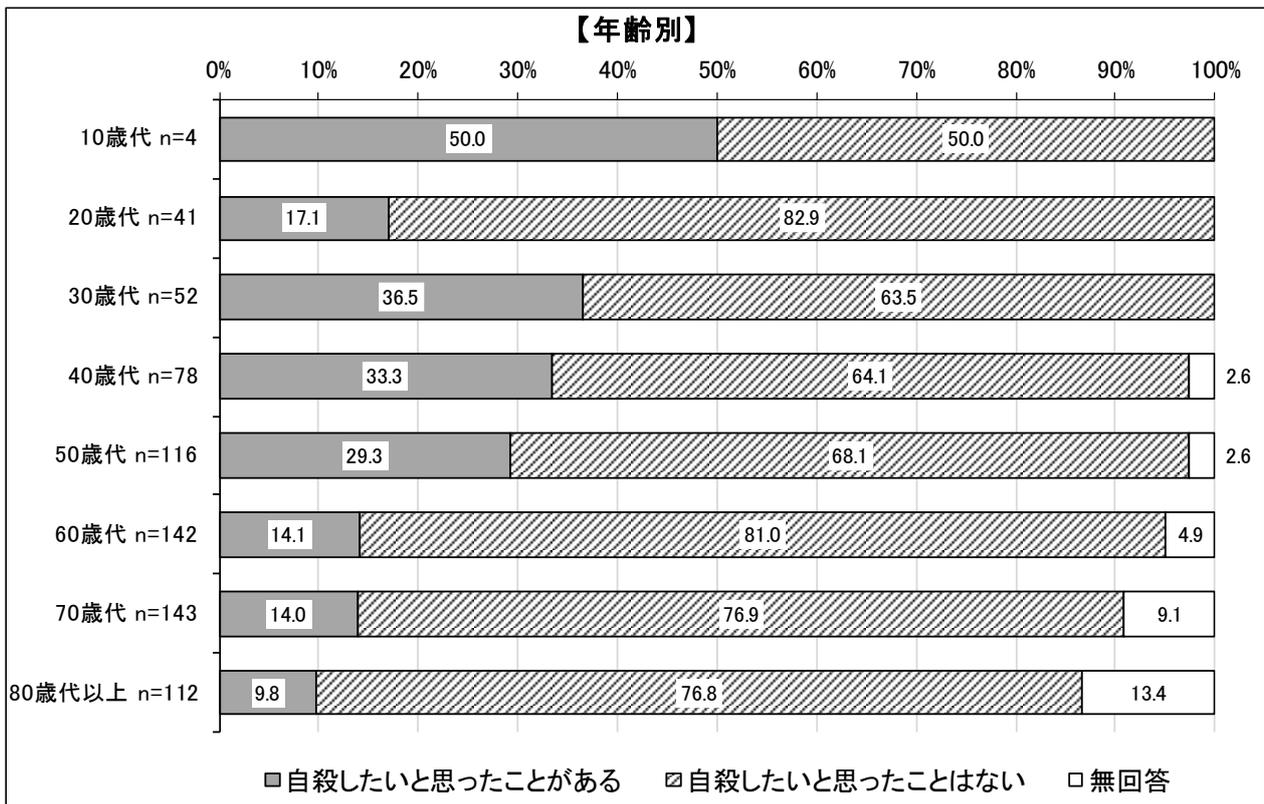


性別にみると、「自殺したいと思ったことがある」“女性”(21.3%)、“男性”(16.7%)となっています。

年齢別にみると、「自殺したいと思ったことがある」“10歳代”(50.0%)、“30歳代”(36.5%)が他より高い比率となっています。

職業別にみると、「自殺したいと思ったことがある」の回答は、“無職(求職中)”(41.2%)や“自由業”(35.7%)、“派遣”(33.3%)が他より比率が高くなっています。



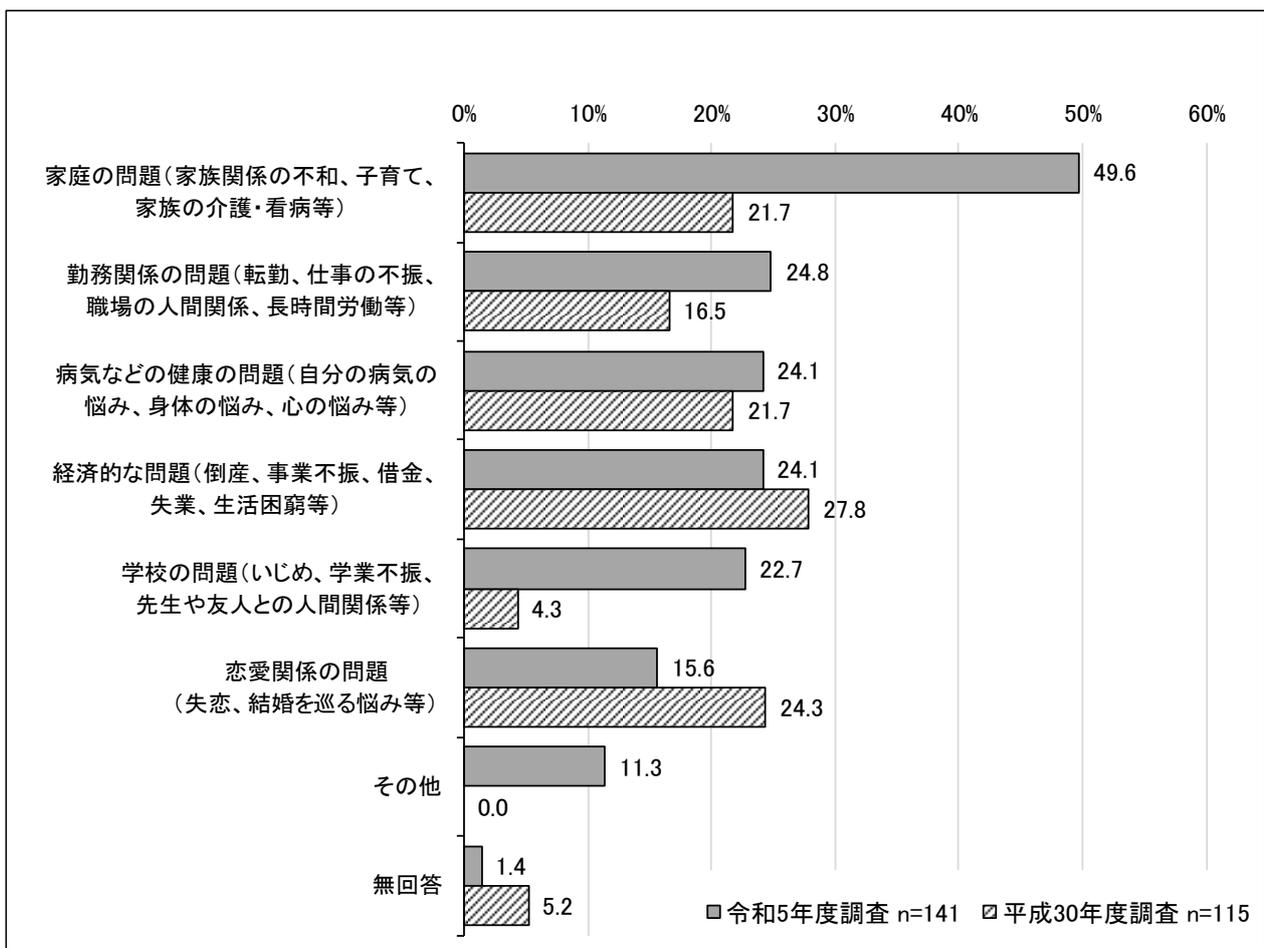


【問 29 で「自殺したいと思ったことがある」と回答した方にお尋ねします。】

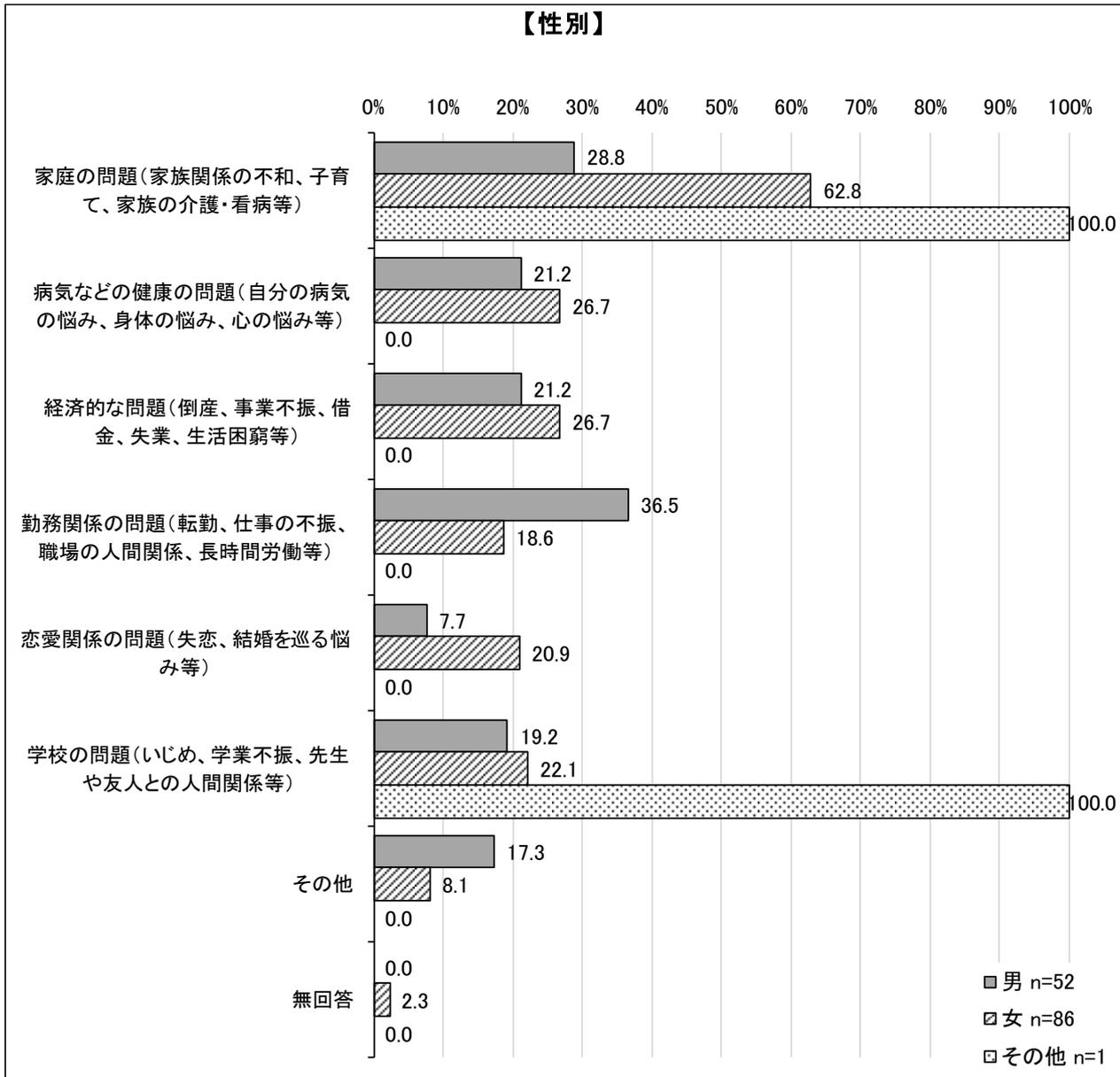
問 30 自殺をしたいと考えた理由や原因はどのようなことでしたか。（MA）

自殺をしたいと考えた理由や原因については、「家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）」が 49.6% で最も高く、以下、「勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」（24.8%）、「病気などの健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」及び「経済的な問題（倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等）」（ともに 24.1%）と続いています。

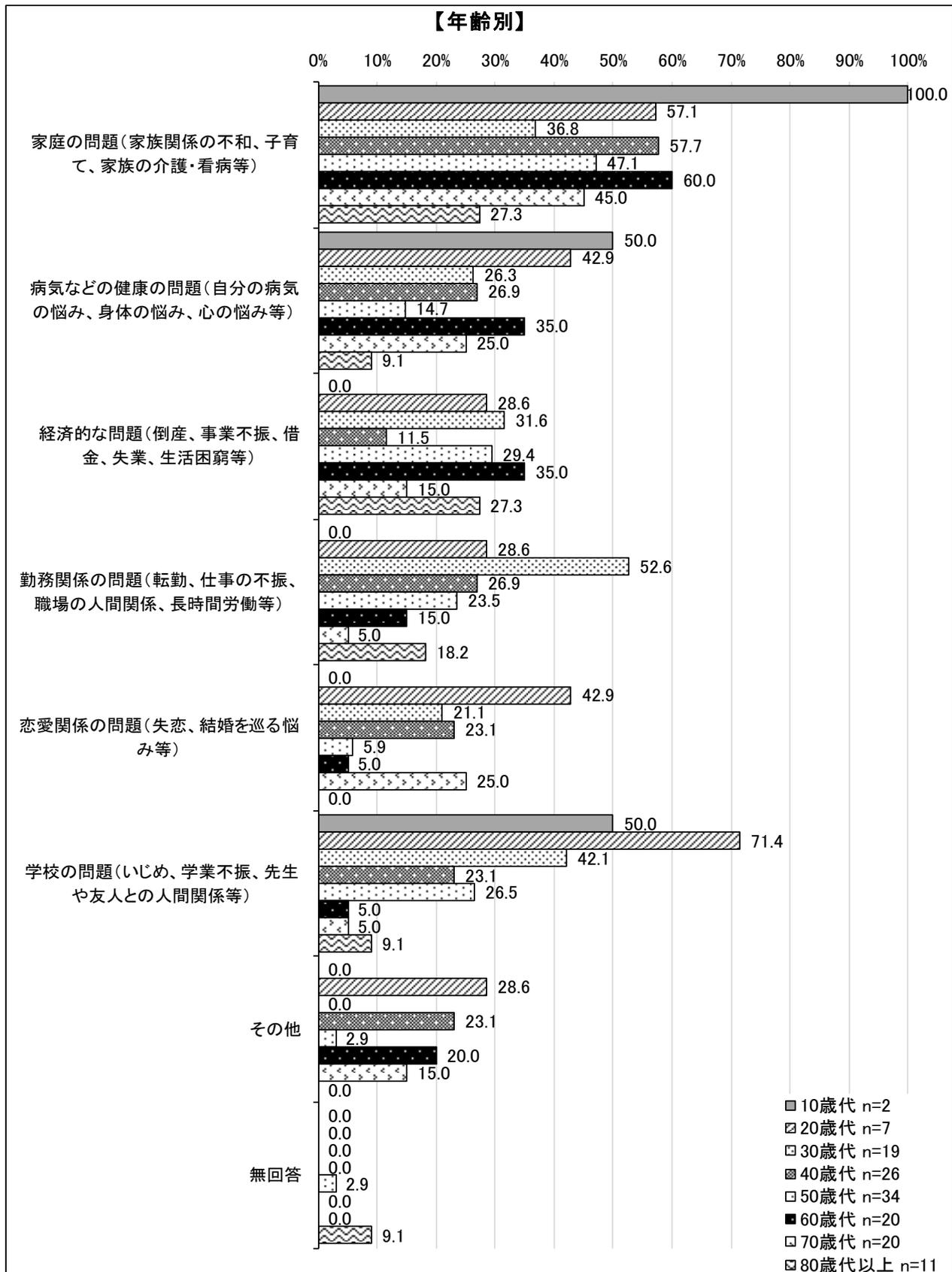
前回調査と比較して、「家庭の問題」の比率が非常に高くなっています。



性別にみると、「家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）」は“女性”が62.8%と高く、“男性”の28.8%を大きく上回っています。「病気などの健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」においても“女性”（26.7%）の比率が“男性”（21.2%）の比率を上回っています。一方、「勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」については“女性”より“男性”の比率が高くなっています。



年齢別にみると、“20 歳代”は「学校の問題（いじめ、学業不振、先生や友人との人間関係等）」（71.4%）が、“30 歳代”は「勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」（52.6%）が、“40 歳代”、“50 歳代”は「家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）」（それぞれ 57.7%、47.1%）が、最も高い項目となっています。

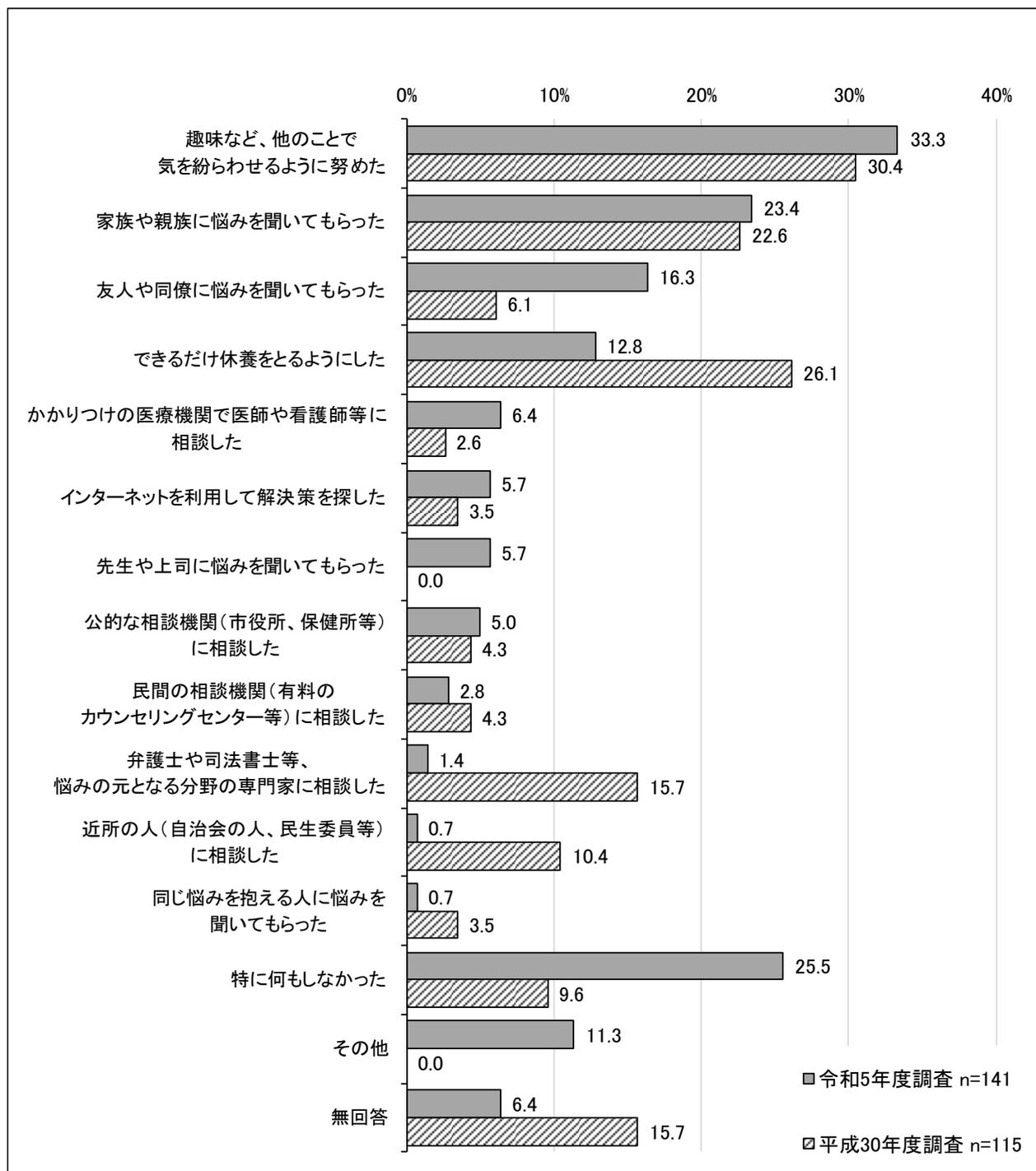


【問 29 で「自殺したいと思ったことがある」と回答した方にお尋ねします。】

問 31 自殺したいと思った時、どうしましたか。(MA)

自殺をしたいと思った時どうしたかについては、「趣味など、他のことで気を紛らわせるように努めた」が 33.3%で最も高く、以下、「家族や親族に悩みを聞いてもらった」(23.4%)、「友人や同僚に悩みを聞いてもらった」(16.3%)、「できるだけ休養をとるようにした」(12.8%)などが上位となっています。一方、「特に何もしなかった」は 25.5%となっています。

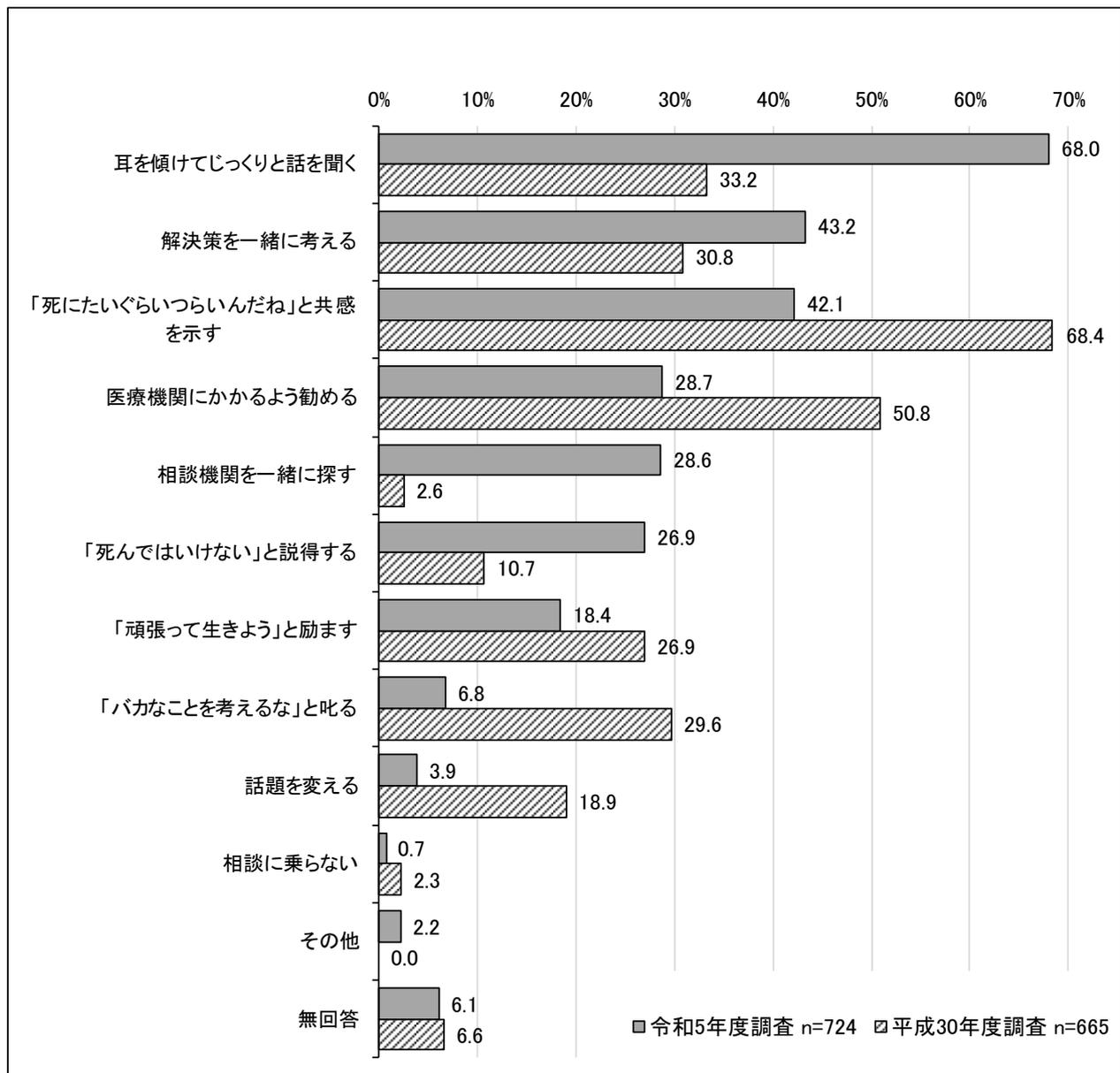
前回調査と比較して、「特に何もしなかった」の比率が 2 倍以上となっています。



問 32 もし、身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時、あなたはどのように対応するのが良いと思いますか。(MA)

「死にたい」と打ち明けられた時、どのように対応するのが良いと思うかについては、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」が 68.0%で最も高くなっています。以下、「解決策を一緒に考える」(43.2%)、「『死にたいぐらいつらいんだね』と共感を示す」(42.1%)、「医療機関にかかるよう勧める」(28.7%)、「相談機関を一緒に探す」(28.6%)と続いています。

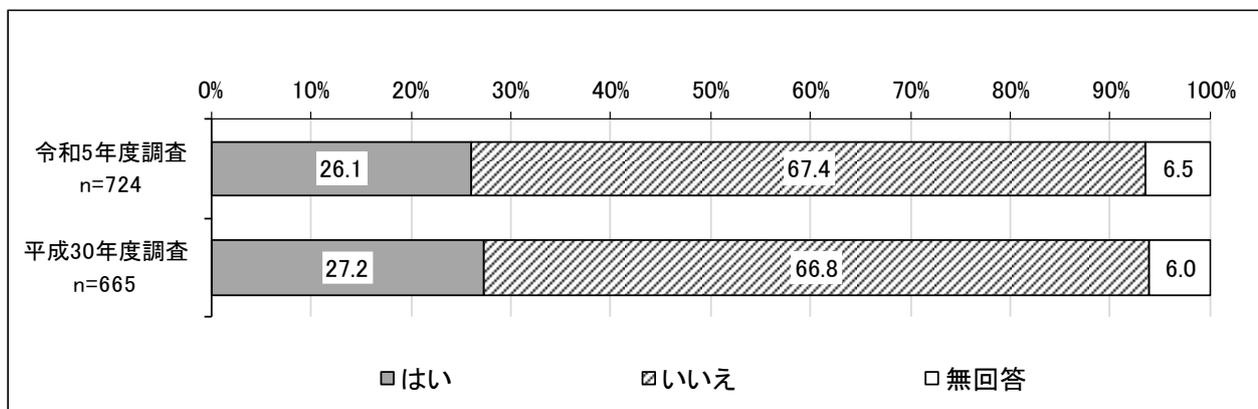
「話題を変える」の比率が、前回調査(18.9%)から今回調査(3.9%)で約 1/4 となっています。



問 33 あなたの周りで自死（自殺）をした方はいらっしゃいますか。（SA）

あなたの周りで自死（自殺）をした方はいるかについては、「はい」が 26.1%、「いいえ」が 67.4%となっています。

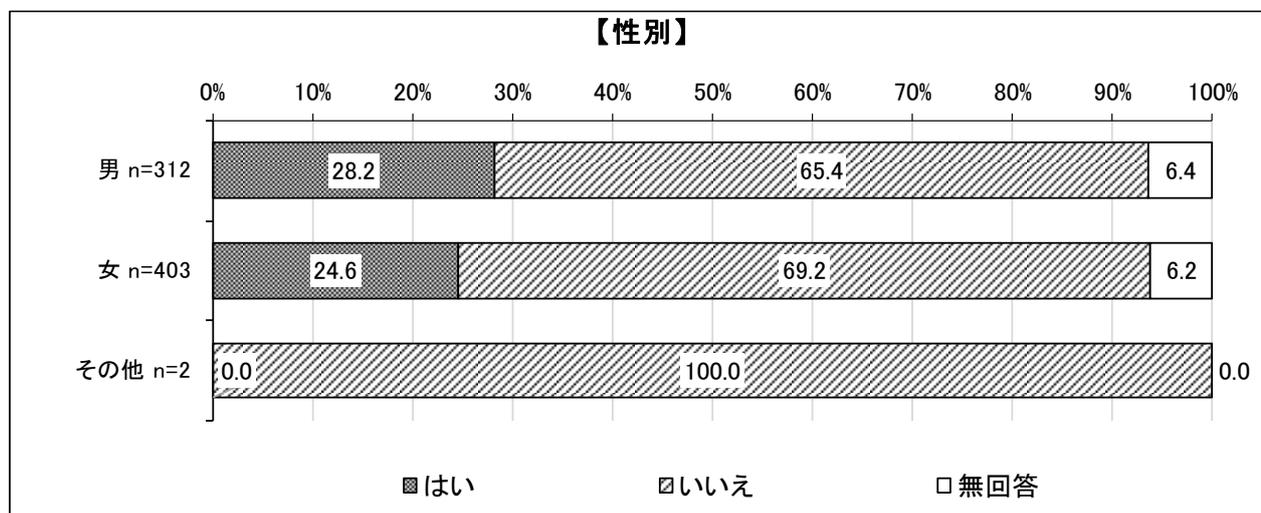
前回調査と比較して、大きな変化はありません。

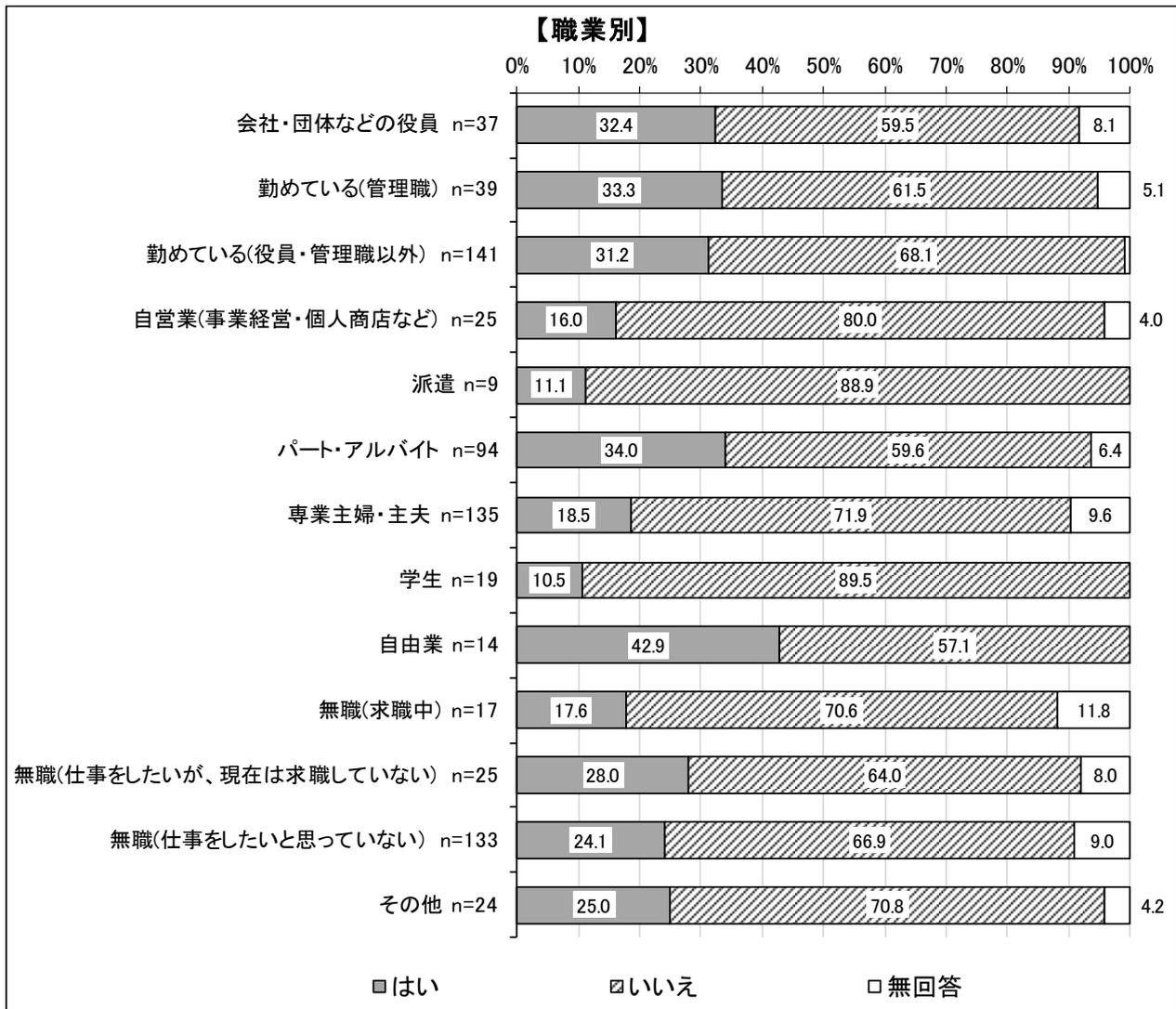
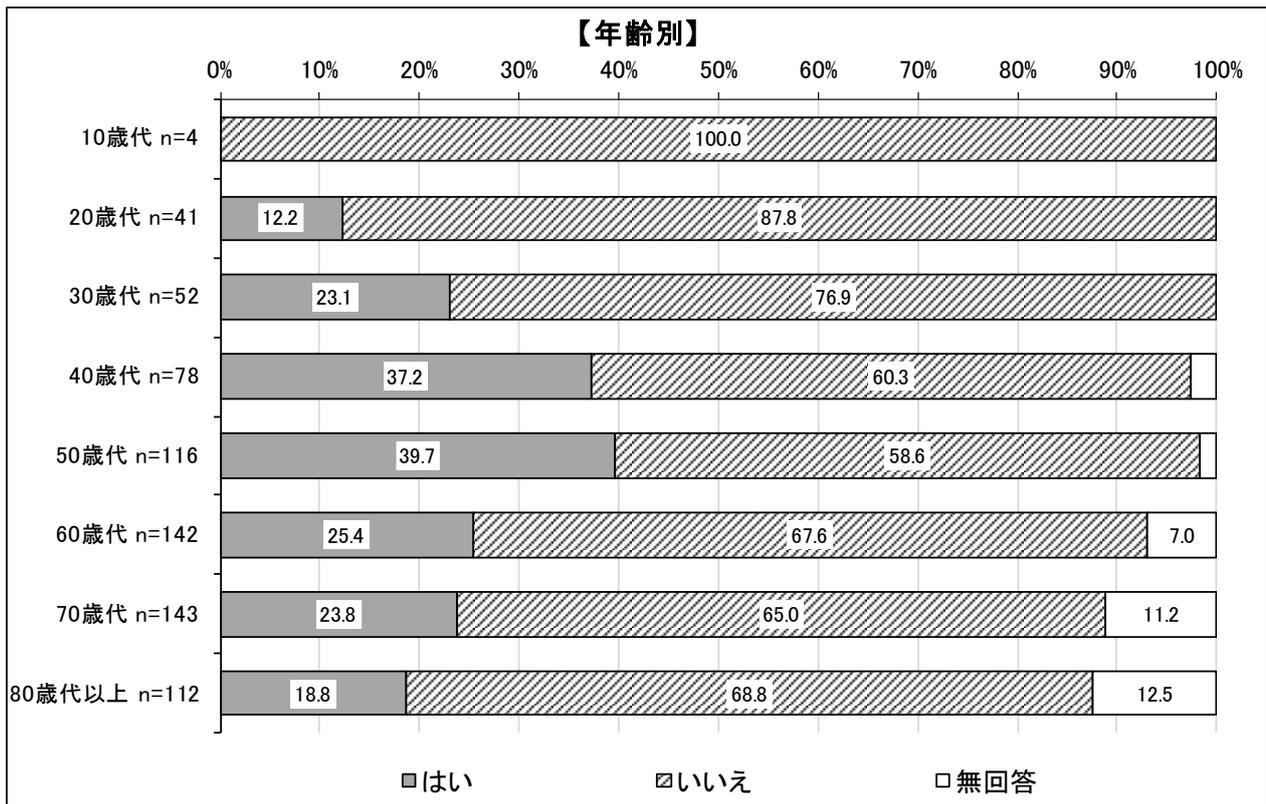


性別にみると、「はい」は“男性”が 28.2%、“女性”が 24.6%となっています。

年齢別にみると、“40 歳代”から“50 歳代”は「はい」がいずれも 30%を超え、他よりやや高い比率となっています。

職業別にみると、「自由業」が唯一 40%を超え、非常に高い比率となっています。



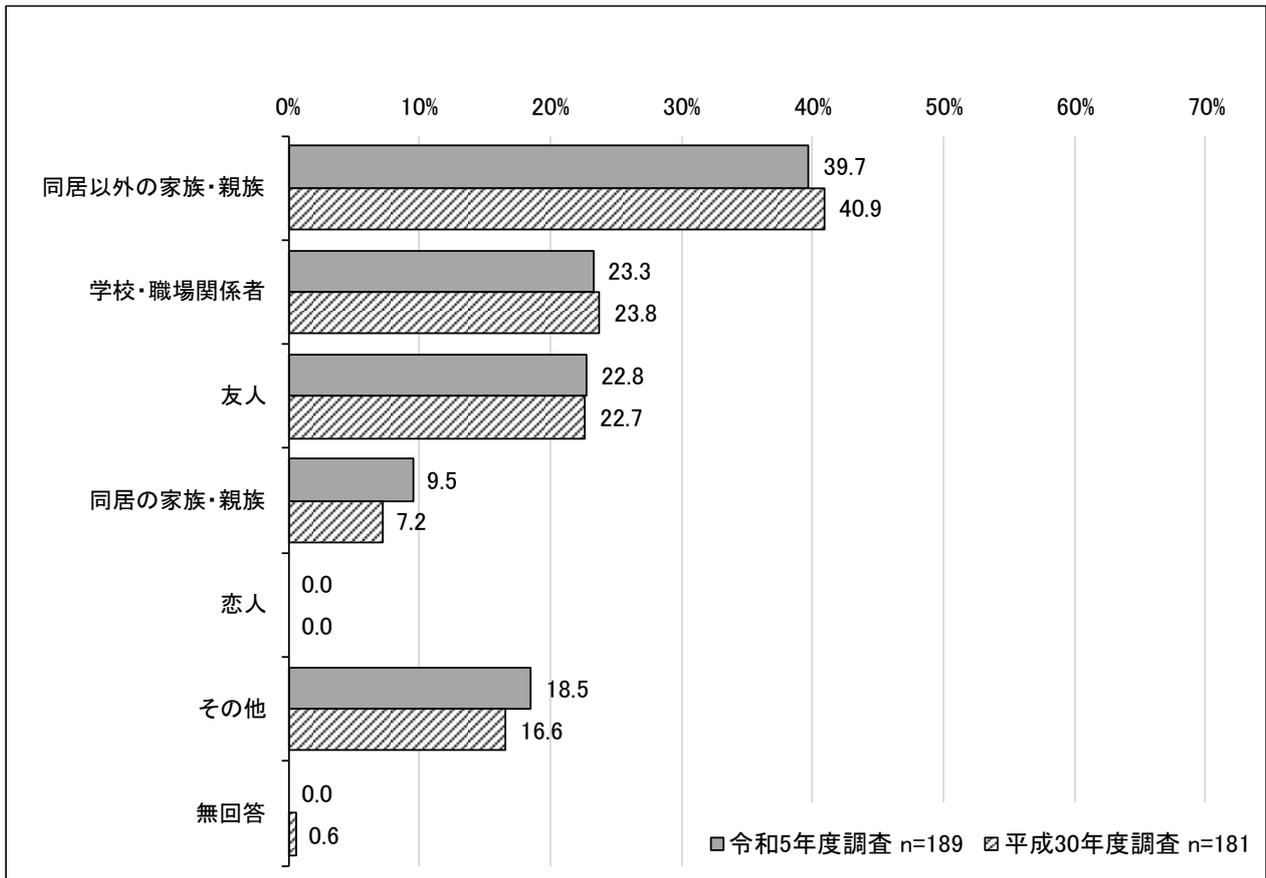


【問 33 で「はい」と回答した方にお尋ねします。】

問 34 その方との関係をお答えください。(MA)

自死(自殺)をした方との関係は、「同居以外の家族・親族」が 39.7%で最も高く、以下、「学校・職場関係者」が 23.3%、「友人」が 22.8%、「同居の家族・親族」が 9.5%と続いています。

前回調査と比較して、「同居の家族・親族」が 2.3 ポイント高くなっています。

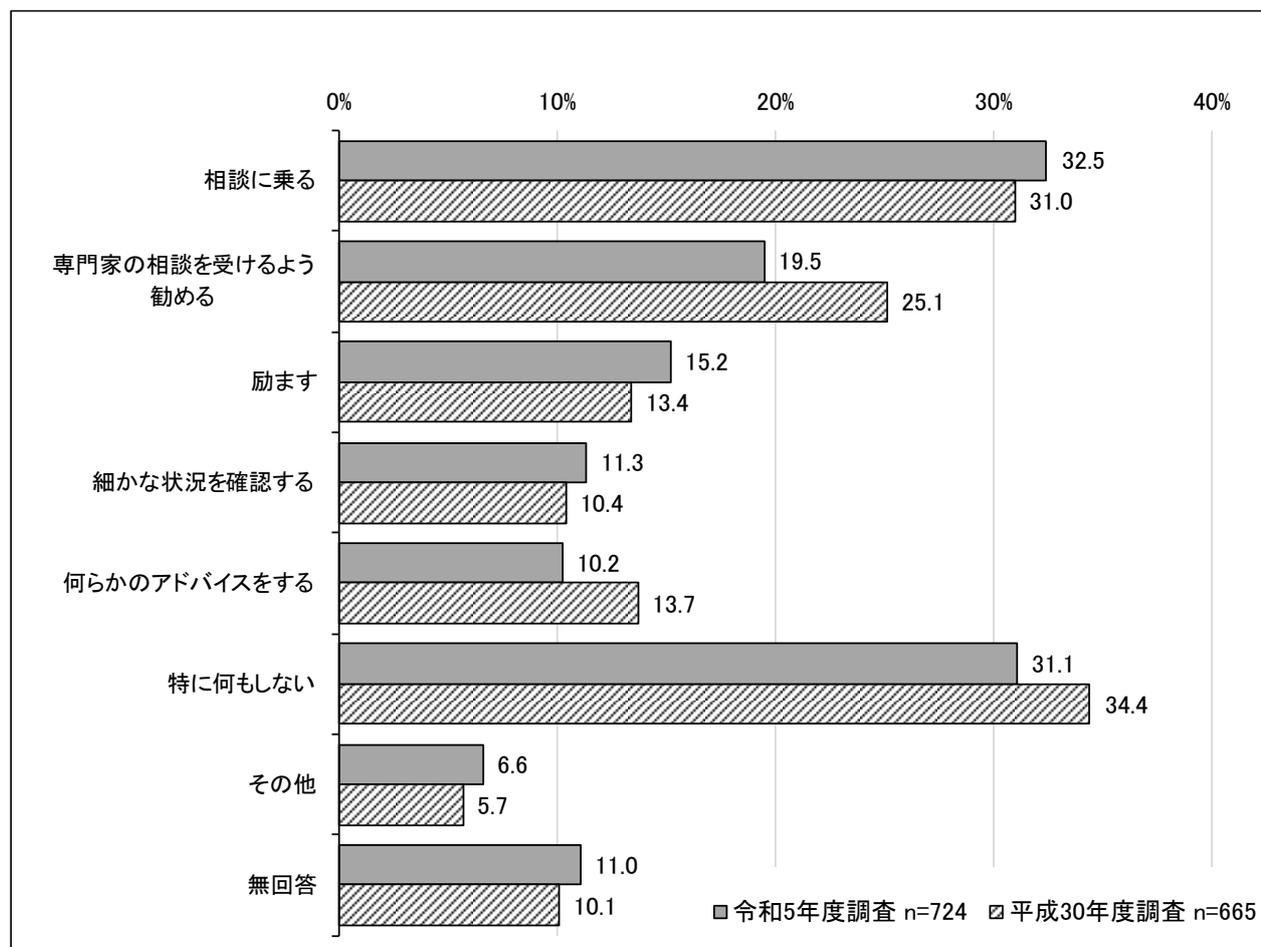


問 35 身近な人が自死遺族であると分かった時、どのように対応するのが良いと思いますか。

(MA)

身近な人が自死遺族であると分かった時、どのように対応するのが良いと思うかについては、「相談に乗る」が32.5%で最も高く、以下、「特に何もしない」(31.1%)、「専門家の相談を受けるよう勧める」(19.5%)と続いています。

前回調査と比較して、「特に何もしない」が3.3ポイント低くなり、「励ます」が1.8ポイント高くなっています。

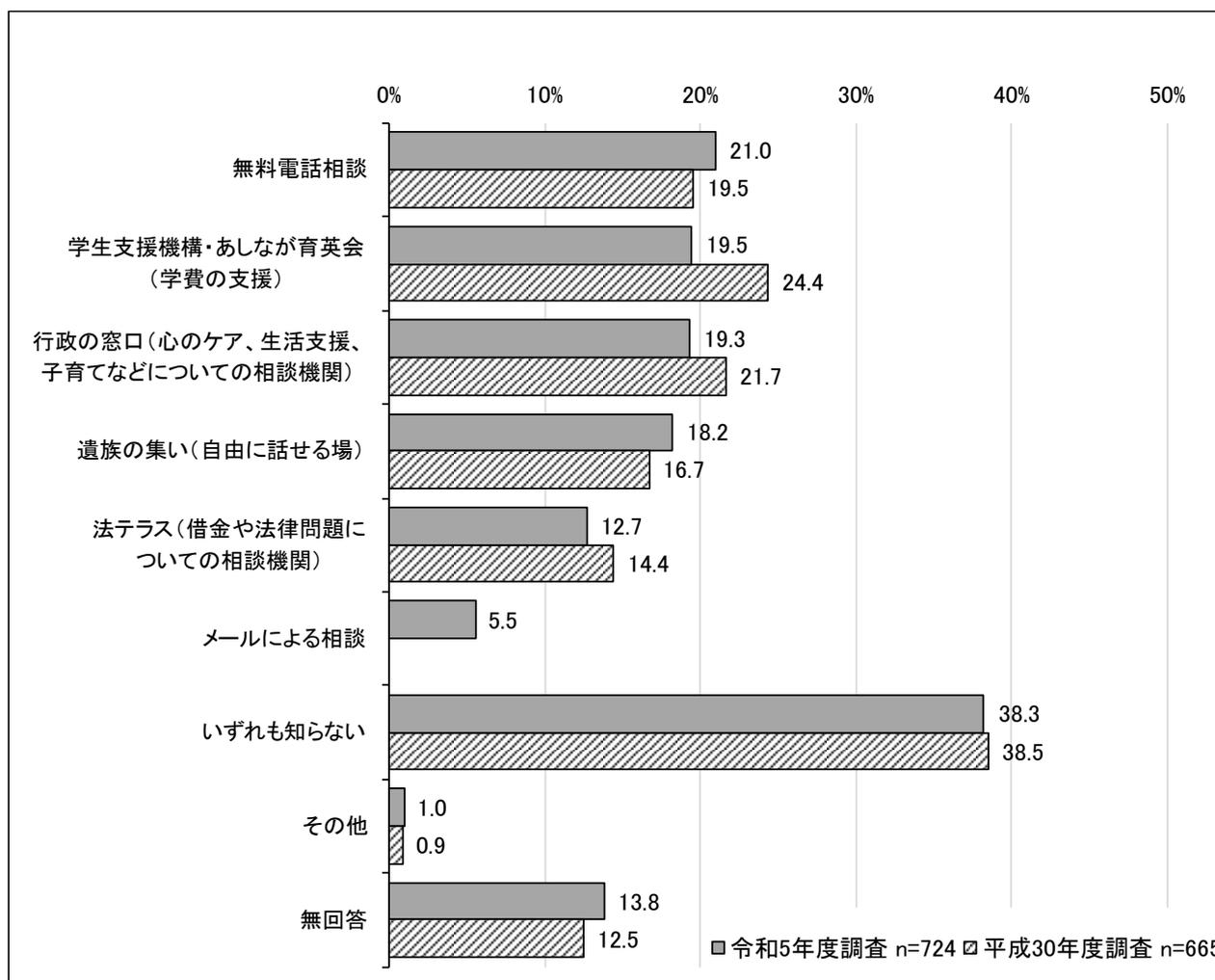


問 36 自死遺族の支援について、以下の事項で知っているものはありますか。(MA)

※選択肢「メールによる相談」は今回調査より追加。

自死遺族の支援については、「いずれも知らない」が38.3%で最も高くなっています。知っている支援では、「無料相談電話」が21.0%で最も高く、以下、「学生支援機構・あしなが育英会(学費の支援)」(19.5%)、「行政の窓口(心のケア、生活支援、子育てなどについての相談機関)」(19.3%)と続いています。

前回調査と比較して、「学生支援機構・あしなが育英会」、「行政の窓口」、「法テラス」が2~5ポイント低くなり、「無料電話相談」、「遺族の集い」がともに1.5ポイント高くなっています。



5 今後の自殺対策について

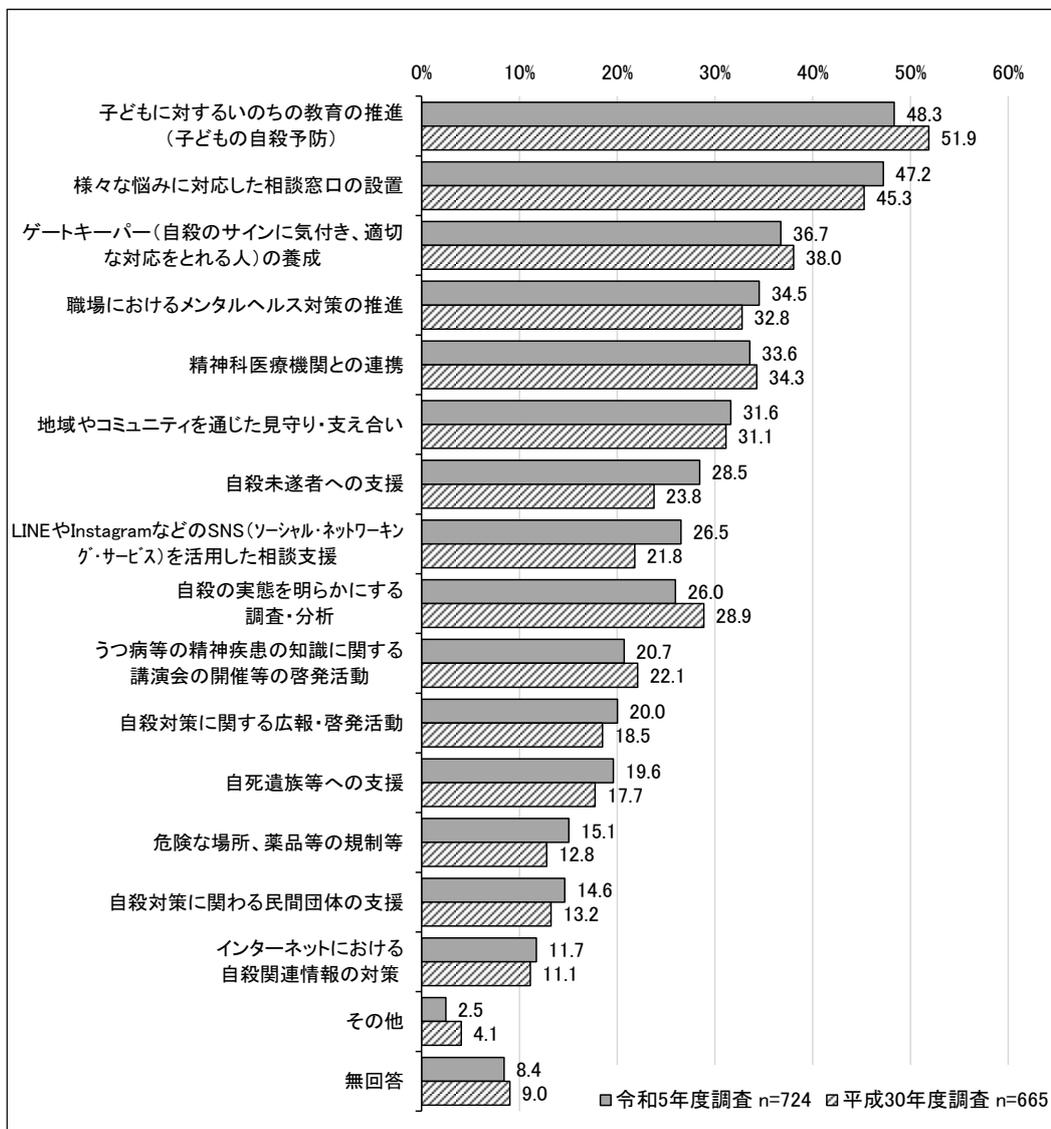
問 37 今後の日立市における自殺対策として、どのような対策が必要になると思いますか。(MA)

※選択肢「LINE や Instagram などの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を活用した相談支援」は前回調査(平成 30 年度実施)

「LINE や Facebook などの SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を活用した相談支援」から本選択肢へ変更。

今後の日立市における自殺対策として必要と思われる対策については、「子どもに対するいのちの教育の推進(子どもの自殺予防)」が 48.3%と最も高い比率となっています。以下、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(47.2%)、「ゲートキーパー(自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人)の養成」(36.7%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(34.5%)、「精神科医療機関との連携」(33.6%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(31.6%)と続いています。

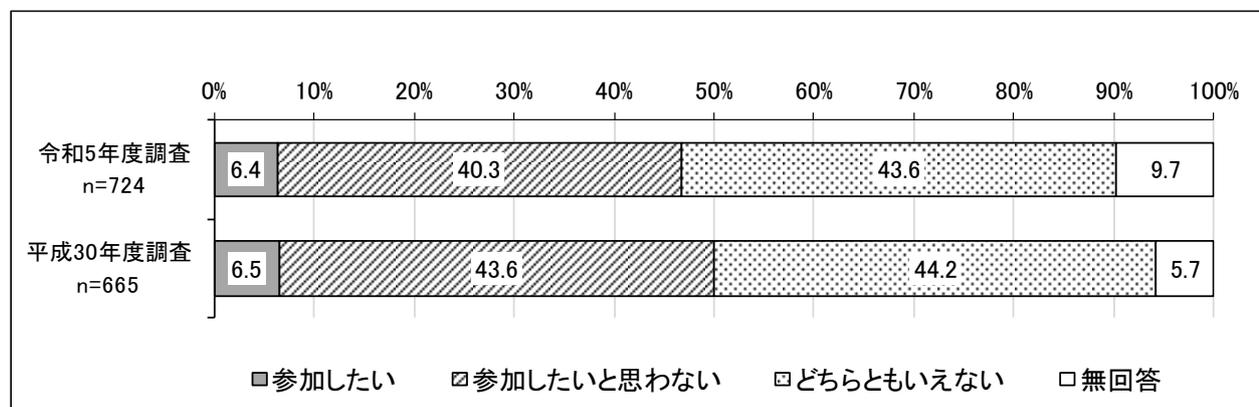
前回調査と比較して、「自殺未遂者への支援」の比率が 4.7 ポイント高くなっています。



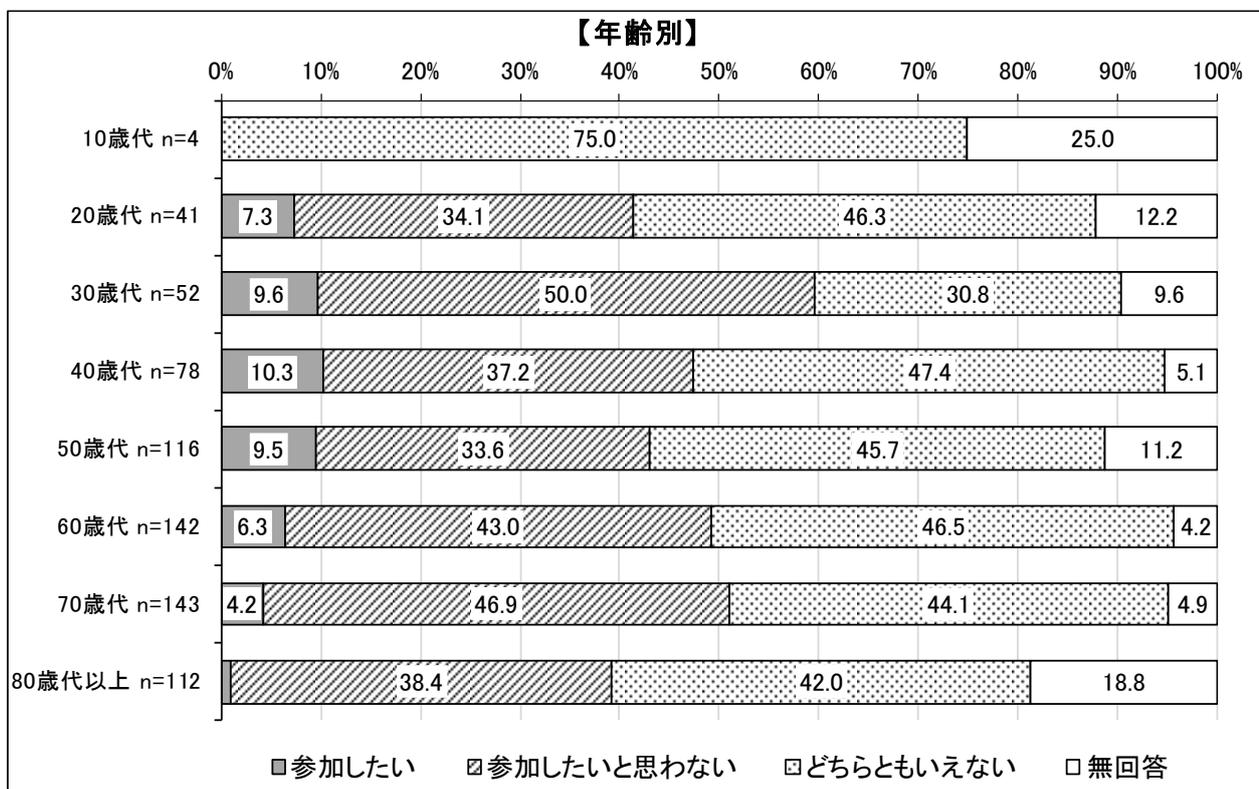
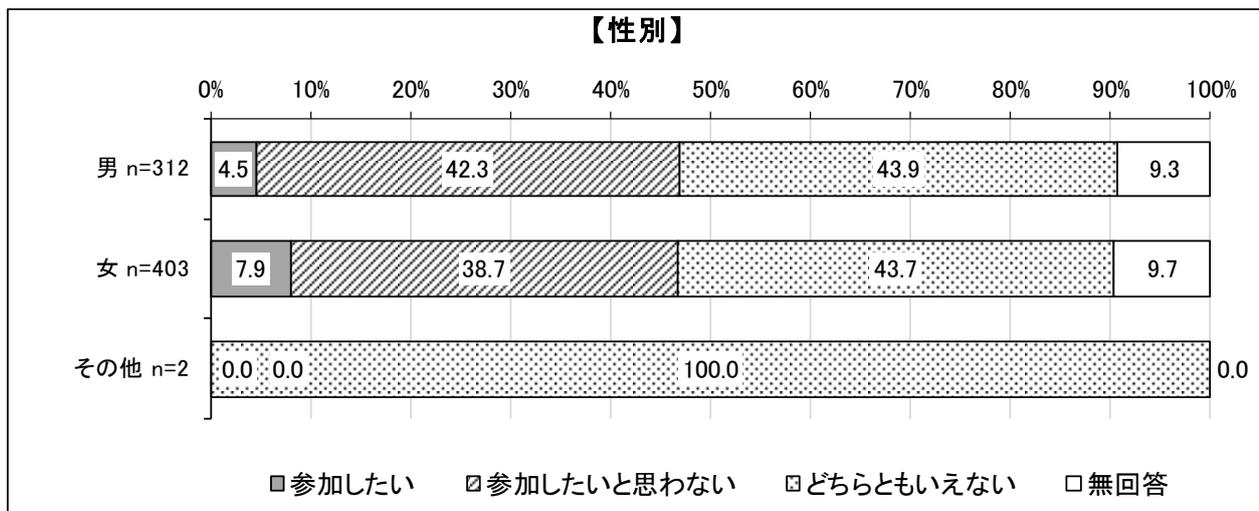
問 38 日立市が実施するゲートキーパー養成研修に参加したいと思いますか。(SA)

日立市が実施するゲートキーパー養成研修に参加したいと思うかについては、「参加したい」が6.4%であるのに対し、「どちらともいえない」が43.6%、「参加したいと思わない」が40.3%となっています。

前回調査と比較して、大きな変化はありません。



性別にみると、「参加したい」は“女性”が7.9%、“男性”が4.5%となっています。
 年齢別にみると、「参加したい」は“30歳代から50歳代”が約10%となっています。



◇自由意見

最後に、自殺を防ぐための行政の取組について、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

自殺を防ぐための行政取組について、144人から179件のご意見が寄せられました。「行政（アンケート調査、取組み奨励など）」（33件）や「相談体制・窓口の充実」（31件）、「人同士のつながりの充実」（19件）などが上位にあげられています。

No.	内容	件数
1	行政（アンケート調査、取組み奨励など）	33
2	相談体制・窓口の充実	31
3	人同士のつながりの充実	19
4	子ども・若者への支援	10
5	自殺対策を支える人材の育成	9
6	市民への広報・啓発	7
7	医療機関・体制充実	4
8	生きることの促進要因への支援	4
9	経営・勤務先の職場環境の改善	4
10	地域におけるネットワークの強化	3
11	生活困窮者への支援	1
12	高齢者への支援	1
13	その他(意見・要望等)	53

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。